SONY PCV-J11

SONY®

4-647-562-**01** (1)



取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。



電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

パーソナルコンピューター
PCV-J11



S400

 安全のために

ソニー製品は安全に十分配慮して設計されています。しかし、電気製品はまちがった使い方をすると、火災や感電などにより人身事故につながることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

6～11ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。

故障したら使わない

すぐにVAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店に修理をご依頼ください。

万一異常が起きたら

- **煙が出たら**
- **異常な音、においがしたら**
- **内部に水、異物が入ったら**
- **製品を落としたり、キャビネットを破損したとき**



❶ 電源を切る

❷ 電源コードや接続ケーブルを抜く

❸ VAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店に修理を依頼する

データはバックアップをとる

ハードディスク内の記録内容は、バックアップをとって保存してください。ハードディスクにトラブルが生じて、記録内容の修復が不可能になった場合、当社は一切その責任を負いません。

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。



この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなどの人身事故につながることがあります。



この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号


注意


火災


感電

行為を禁止する記号


禁止


分解禁止


水ぬれ禁止


ぬれ手禁止

行為を指示する記号


強制


アース線を接続せよ


プラグをコンセントから抜く

アース線の接続について

アース接続は必ず電源プラグを電源につなぐ前に行ってください。また、アース接続をはずす場合は、必ず電源プラグを電源から切り離してから行ってください。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

瞬時電圧低下について

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをお薦めします。

（社団法人日本電子工業振興協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示）

レーザー安全基準について

この装置には、レーザーに関する安全基準（JIS・C-6802）クラス1適合のCD-ROMドライブが搭載されています。

- □ 権利者の許諾を得ることなく、本機に付属のソフトウェアおよび取扱説明書の内容の全部または一部を複製すること、およびソフトウェアを賃貸することは、著作権法上禁止されております。
- □ 本機、および本機に付属のソフトウェアを使用したことによって生じた損害、逸失利益、および第三者からのいかなる請求等につきましても、当社は、一切その責任を負いかねます。
- □ 本機の保証条件は、同梱の当社所定の保証書の規定をご参照ください。
- □ 本機に付属のソフトウェアは、本機以外には使用できません。
- □ 本機、および本機に付属のソフトウェアの仕様は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご容赦ください。
- □ CD-ROMや音楽CDからのコピーの作成およびその利用は、使用許諾条件または著作権法に違反する場合があります。コピーの作成およびその利用にあたっては、オリジナルCDの使用許諾条件および著作権法を遵守してください。

目次

操作編

拡張編

周辺機器を接続する

本体を拡張する

セットアップ編

操作環境を自分の好みに合わせる

困ったときは

その他





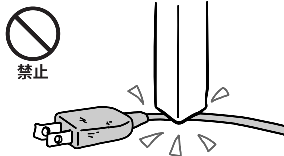


下記の注意事項を守らないと火災・感電などにより死亡や大けがの原因となります。

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となることがあります。

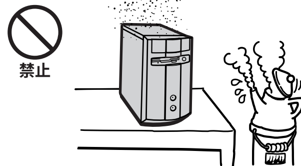
- 設置時に、製品と壁やラック（棚）などの間に、はさみ込んだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけたり、加熱したりしない。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。



万一、電源コードが傷んだら、VAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店に交換をご依頼ください。

油煙、湯気、湿気、ほこりの多い場所には設置しない

上記のような場所に設置すると、火災や感電の原因となることがあります。取扱説明書に記されている使用条件以外の環境での使用は、火災や感電の原因となることがあります。



内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災や感電の原因となることがあります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電源コードや接続コードを抜いて、VAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店に点検・修理をご依頼ください。



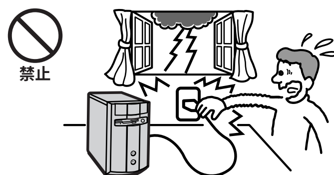
むやみに内部を開けない

- 内部には電圧の高い部分があり、ケースやフロントカバーをむやみに開けたり改造したりすると、火災や感電の原因となることがあります。内部の点検、修理はVAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店にご依頼ください。
- 各種の拡張ボード（基板）を取り付けたりメモリを増設する場合など、コンピュータの内部を開ける必要があるときは、本機の電源コードを抜き、取扱説明書の周辺機器の拡張のページで指定された方法に従い、部品や基板などの角で手や指にけがをしないように注意深く作業してください。また、指定されている部分以外には触れないでください。指定以外の部分にむやみに触れると、火災や感電の原因となることがあります。



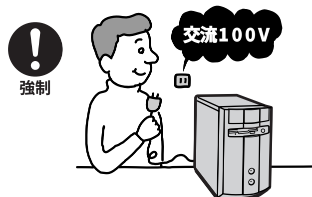
雷が鳴り出したらテレホンコードや電源プラグに触らない

感電の原因になります。



本機は日本国内専用です

交流100Vでお使いください。
海外などで、異なる電圧で使うと、火災や感電、故障の原因となることがあります。



内蔵モデムを一般回線以外の電話回線に接続しない

本機の内蔵モデムをISDN（デジタル）対応公衆電話のデジタル側のジャックや、構内交換機（PBX）へ接続すると、モデムに必要以上の電流が流れ、故障や発熱、火災の原因となります。特に、ホームテレホンやビジネスホン用の回線などには、絶対に接続しないでください。





下記の注意事項を守らないと、
健康を害するおそれがあります。

ディスプレイを長時間継続して見ない

ディスプレイなどの画面を長時間継続して見続けると、目が疲れたり、視力が低下するおそれがあります。
ディスプレイ画面を見続けて体の一部に不快感や痛みを感じたときは、すぐに本機の使用をやめて休息してください。万一、休息しても不快感や痛みがとれないときは医師の診察を受けてください。



キーボードを使いすぎない

キーボードやマウスなどを長時間継続して使用すると、腕や手首が痛くなったりすることがあります。
キーボードやマウスなどを使用中、体の一部に不快感や痛みを感じたときは、すぐに本機の使用をやめて休息してください。万一、休息しても不快感や痛みがとれないときは医師の診察を受けてください。



大音量で長時間つづけて聞きすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。
特にヘッドホンで聞くときはご注意ください。呼びかけられて返事ができるくらいの音量で聞きましょう。





下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

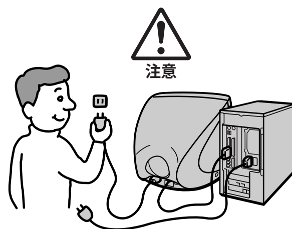
ぬれた手で電源プラグをさわらない

ぬれた手で電源プラグを抜き差しすると、感電の原因となることがあります。



接続の際は電源を切る

電源コードや接続コードを接続するときは、本機や接続する機器の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。感電や故障の原因となることがあります。



指定された電源コードや接続コードを使う

取扱説明書に記されている電源コードや接続コードを使わないと、感電や故障の原因となることがあります。



アース線を接続する

アース線を接続しないと感電の原因となることがあります。アース線を取り付けることができない場合は、販売店にご相談ください。



通風孔をふさがない

通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。風通しを良くするために次の項目をお守りください。

- 壁から10cm以上離して設置する。
- 密閉されたせまい場所に押し込めない。
- 毛足の長い敷物（じゅうたんや布団など）の上に設置しない。
- 布などで包まない。
- あお向けや横倒し、逆さまにしない。

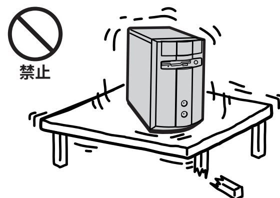




下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

不安定な場所に設置しない

ぐらついた台の上や傾いたところに設置すると、倒れたり落ちたりしてけがの原因となることがあります。また、設置・取り付け場所の強度も充分にお確かめください。



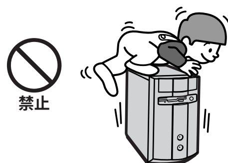
運搬時は慎重に

コンピュータを運搬するときは、底面全体を保持し、安定した姿勢で運んでください。前面および後面パネル部分に手をかけて持たないでください。運搬中にバランスを崩すと落下によりけがの原因となることがあります。また、本体と設置面との間に指を挟まないようにご注意ください。



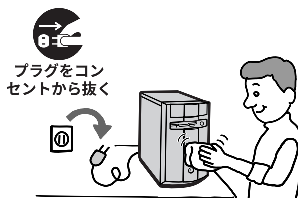
製品の上に乗らない、重い物を乗せない

倒れたり、落ちたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。



お手入れの際は電源を切ってプラグを抜く

電源を接続したままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。



移動させる時は電源コードや接続コードを抜く

接続したまま移動させると、コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。



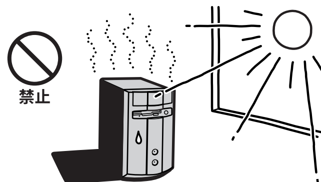
コネクタはきちんと接続する

- コネクタ（接続端子）の内部に金属片を入れないでください。ピンとピンがショート（短絡）して、火災や故障の原因となることがあります。
- コネクタはまっすぐに差し込んで接続してください。斜めに差し込むとピンとピンがショートして、火災や故障の原因となることがあります。
- コネクタに固定用のスプリングやネジがある場合は、それらで確実に固定してください。接続不良が防げます。
- アース線のあるコネクタには必ずアースを接続してください。



直射日光の当たる場所や熱器具近くに設置・保管しない

内部の温度が上がり、火災や故障の原因となります。



マニュアルの使いかた

本書は、以下の章で構成されています。
また、本機にどのようなソフトウェアが付属されているかは、
「ご確認ください」オンラインマニュアルをご覧ください。
「ご確認ください」オンラインマニュアルの見かたについて詳しくは、「オンラインマニュアルの使いかた」（18ページ）をご覧ください。

❑ 操作編

本機を初めてお使いになるときは、「基本的な使いかた」（26ページ）からお読みください。特にコンピュータを初めてお使いになる方は、別冊の「はじめにお読みください」の「コンピュータの基本操作を練習する」をお読みになった上で、「マウスを使う」（31ページ）や「キーボードを使う」（37ページ）もお読みになり、コンピュータの基本的な使いかたをマスターすることをおすすめします。
一歩進んだ使いかたは「VAIOを使いこなす」（61ページ）をご覧ください。

❑ 拡張編

デジタルビデオカメラレコーダーなどのi.LINK対応機器やプリンタなどの周辺機器のつなぎかた、また本機の拡張のしかたについて説明しています。

❑ セットアップ編

ここでは、本機をお使いになる状況や好みに合わせて、本機の設定を変更する方法を説明しています。

❑ 困ったときは

本機の操作がわからなかったり、本機がうまく動作しないときにお読みください。トラブルの解決方法を説明しています。

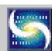
❑ その他

本機をお使いになる際のご注意やお手入れのしかたなどについて説明しています。

 **本書に記載されている画面について**

本書で使われている画面は実際のものと異なる場合があります。

本機の使いかたがわからないときに

「サイバーサポート」ソフトウェアの使いかた

付属の「サイバーサポート（CyberSupport for VAIO）」ソフトウェアの画面でトラブルや質問を入力することで、この取扱説明書の内容、別冊の「はじめにお読みください」、本機の仕様や本機に付属のソフトウェアの一覧、本機に付属のソフトウェアの取扱説明書、BIOSセットアップメニューや内蔵モデムについての情報、Windows 98のヘルプ、VAIOカスタマーリンクに寄せられたFAQ（よくある質問とその回答）の中から、その解決方法を自動的に検索できます。

 **ヘルプとは**

「ヘルプ」とはソフトウェアやWindows 98などの操作がわからなくなったときに、デスクトップ画面上でその解決方法についての情報を検索して、表示する機能のことです。

「サイバーサポート（CyberSupport for VAIO）」ソフトウェアを起動するには

キーボードのⓈ6キーを押す。

「サイバーサポート（CyberSupport for VAIO）」ソフトウェアが起動します。



ボタンをクリックすると、以下の拡張機能が表示されます。



次のページにつづく

ちょっと一言

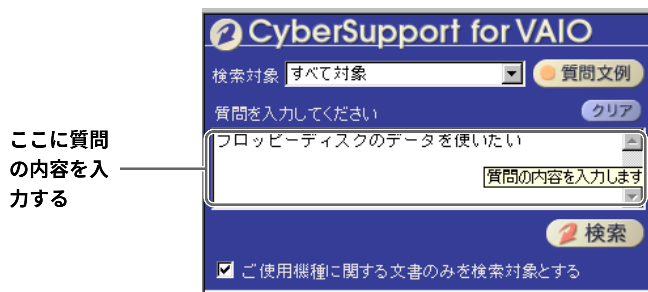
FAQなどの最新情報はVAIOカスタマーリンクのホームページにアクセスし、更新できます。更新するには、インターネットに接続した状態で⑤［メニュー］をクリックしてから⑧［最新のデータに更新］をクリックします。この機能を使うにはあらかじめインターネットに接続していることが必要です。インターネット接続について詳しくは、別冊の「はじめにお読みください」の「インターネットを始める」をご覧ください。

解決方法を検索するには

以下の手順に従って操作します。

1 ②質問入力欄にトラブルや質問の内容を入力する。

ここではフロッピーディスクのデータを使う方法を検索してみます。
「フロッピーディスクのデータを使いたい」のように質問を入力します。

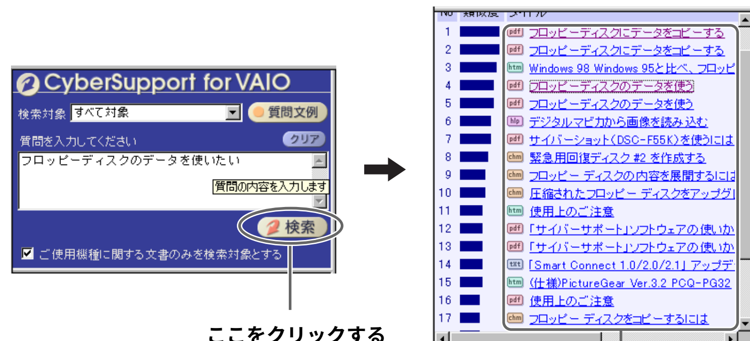


ちょっと一言

できるだけ詳しく質問内容を入力したほうが目的の回答を検索しやすくなります。

2 ③［検索］をクリックする。

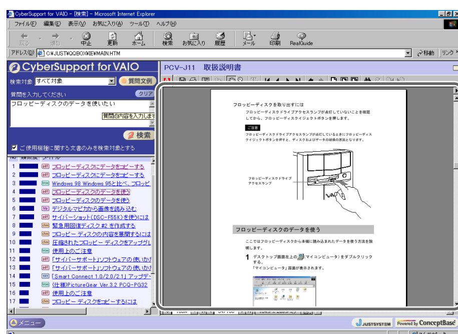
検索された項目が④検索結果表示欄に表示されます。



3 **④検索結果表示欄から読みたい項目をクリックする。**

ここでは［フロッピーディスクのデータを使う］をクリックしてみます。

右側の⑧回答表示欄にトラブルの解決方法や質問に対する答えが表示されます。



質問の答え

ちょっと一言

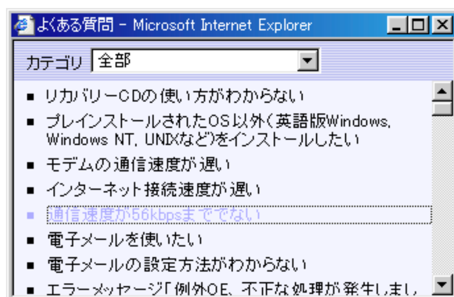
表示される答えによっては、さらにソフトウェアのヘルプを表示させる必要があります。画面右上の⑦［内容を詳しく表示］をクリックしてヘルプを表示させます。

よくある質問から回答を検索するには

VAIOカスタマーリンクに寄せられたよくある質問の一覧からトラブル解決方法や質問に対する答えを検索できます。

1 **①［質問文例］をクリックする。**

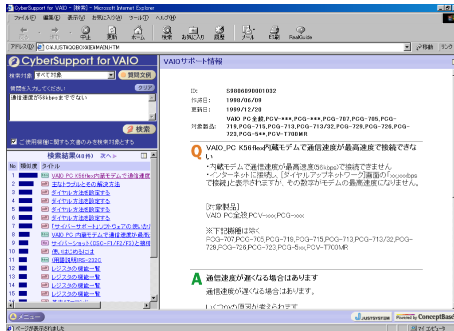
質問文例の一覧が表示されます。



次のページにつづく

2 一覧から読みたい項目をクリックする。

ここでは［通信速度が56kbpsまででない］をクリックしてみます。
右側の⑥回答表示欄にトラブルの解決方法や質問に対する答えが表示されます。

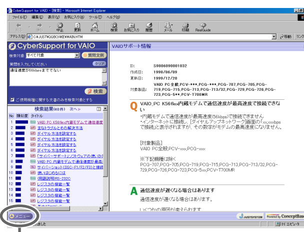


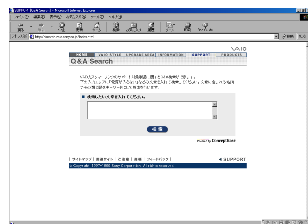
「Q&A Search」で検索するには

VAIOカスタマーリンクのホームページの「Q&A Search」にアクセスし、質問に対する答えを検索することもできます。
この機能を使うにはあらかじめインターネットに接続していることが必要です。インターネットの接続について詳しくは、別冊の「はじめにお読みください」の「インターネットを始める」をご覧ください。

1 ⑤ メニュー をクリックし、［VAIO WebQAサービスへ］をクリックする。

インターネットに接続してホームページを見るためのソフトウェアが起動し、VAIOカスタマーリンクのホームページの「Q&A Search」が表示されます。

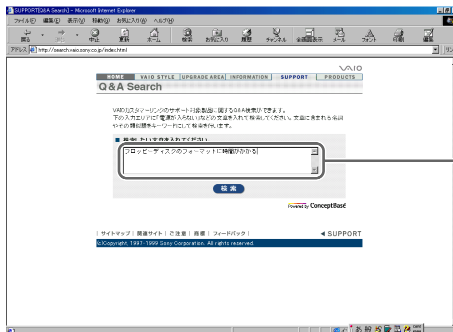




ここをクリックする

2 検索したい内容を入力する。

ここでは「フロッピーディスクのフォーマットに時間がかかる」と入力して検索してみます。



ここに検索したい内容を入力する

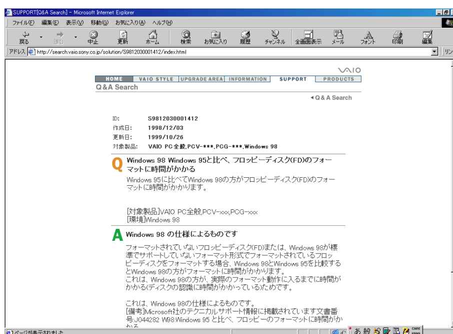
3 検 索 をクリックする。

検索された項目が表示されます。



4 読みたい項目をクリックする。

回答の内容が表示されます。



「サイバーサポート（CyberSupport for VAIO）」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、画面下の⑤ メニュー をクリックし、［CyberSupport for VAIOの使い方］をクリックして表示される説明をご覧ください。

オンラインマニュアルの使いかた

この取扱説明書の内容など、以下の情報は、オンラインマニュアル*として本機のデスクトップ画面上でお読みいただけます。

*PDF（Portable Document Format）のファイルで付属しています。

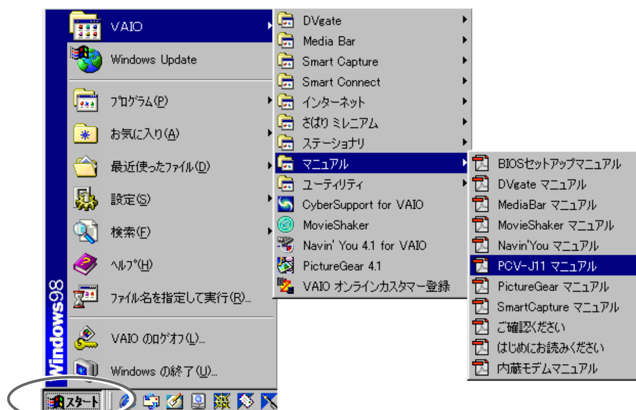
- オンラインマニュアル（この取扱説明書の内容）
- 「はじめにお読みください」
- 「ご確認ください」（本機の主な仕様と付属のソフトウェアの情報）
- BIOSセットアップマニュアル（BIOSセットアップメニューの情報）
- 内蔵モデムマニュアル（本機に内蔵のモデムの情報）
- 以下のソニー製のソフトウェアの使いかた
  – 「DVgate」ソフトウェア
  – 「Media Bar」ソフトウェア
  – 「MovieShaker」ソフトウェア
  – 「Navin' You」ソフトウェア
  – 「PictureGear」ソフトウェア
  – 「Smart Capture」ソフトウェア

オンラインマニュアルを見るには

オンラインマニュアルを見るには、本機の電源が入っている状態で、次のように操作します。

デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［VAIO］にポインタを合わせ、［マニュアル］を選び、読みたいオンラインマニュアルをクリックする。

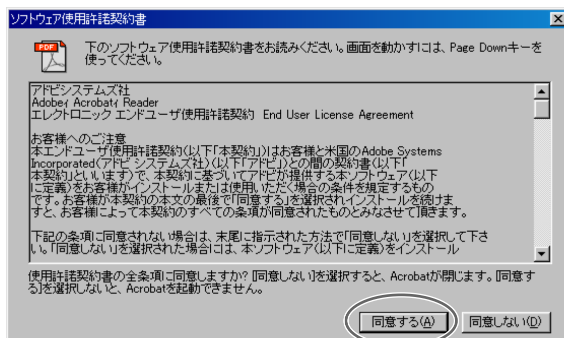
ここでは、この取扱説明書の内容を表示させてみます。



本機に付属の「Adobe Acrobat Reader」ソフトウェアが起動し、この取扱説明書の内容が表示されます。

「Adobe Acrobat Reader」を初めて起動したときは

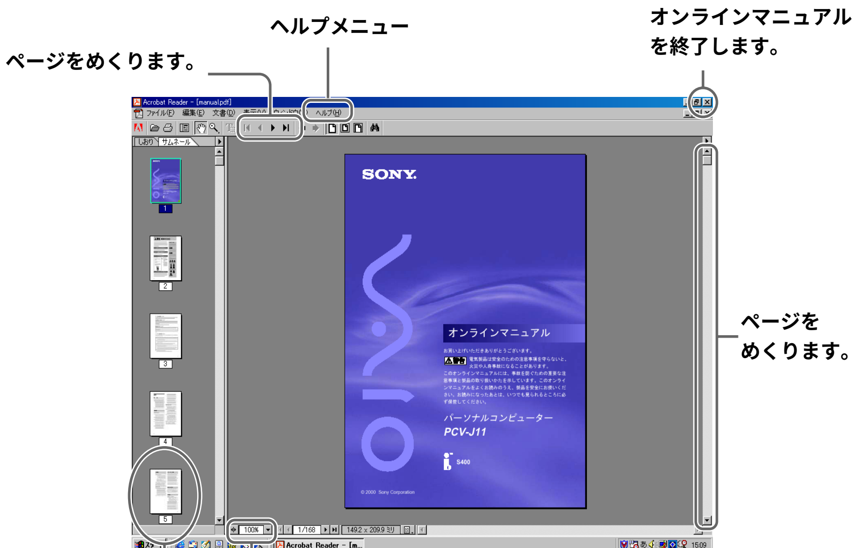
「ソフトウェア使用許諾契約書」が表示されますので、契約書の内容を読み、［同意する(A)］をクリックしてください。



ここをクリックする

オンラインマニュアルの見かた

サムネール（縮小表示）やしおりを見たいときは、［アイコン］をクリックし、それぞれのタブをクリックします。詳しくは、「Adobe Acrobat Reader」の［ヘルプ(H)］をクリックしてヘルプをご覧ください。



ダブルクリックしたページを表示します。

表示の大きさを変更します。

各ソフトウェアのヘルプを見る

本機に付属しているソフトウェアにもヘルプが添付されています。それぞれのヘルプの使いかたについて詳しくは、各ソフトウェアの取扱説明書またはオンラインマニュアルをご覧ください。
「ご確認ください」オンラインマニュアルには、ソフトウェアの使いかたがわからなくなったときのために、各ソフトウェアにつき「操作がわからなくなったときは」の項目があります。あわせてご覧ください。

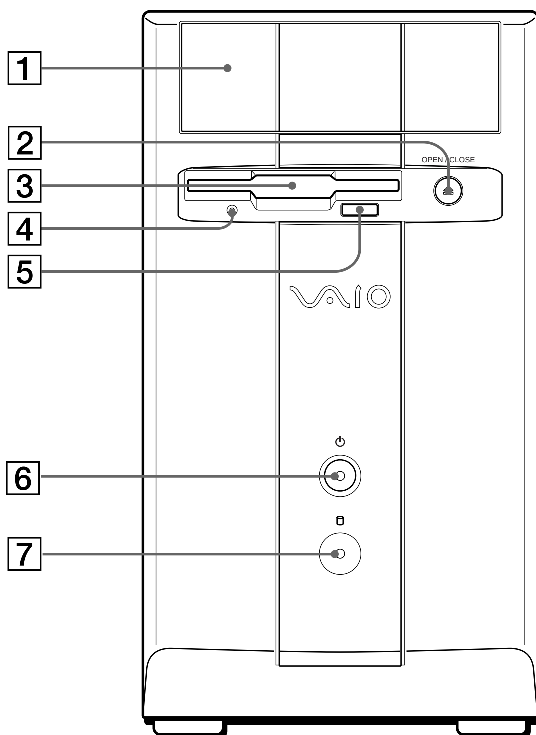
 **ヘルプとは**

「ヘルプ」とはソフトウェアやWindows 98などの操作がわからなくなったときに、デスクトップ画面上でその解決方法についての情報を検索して、表示する機能のことです。

各部の名称と働き

詳しい説明は、（　）内のページをご覧ください。

前面



1 CD-ROM**ドライブ（47ページ）**
CD-ROMのデータを読み込みます。

2 OPEN／CLOSE**ボタン（47、49ページ）**
CD-ROMドライブのトレイを引き出したり、閉めたりするときに押します。

3 **フロッピーディスクドライブ（53ページ）**
3.5インチのフロッピーディスクにデータを読み込んだり、書き込んだりします。

4 **フロッピーディスクドライブアクセスランプ（54ページ）**
フロッピーディスクにデータを読み込んだり、書き込んだりするときに緑色に点灯します。

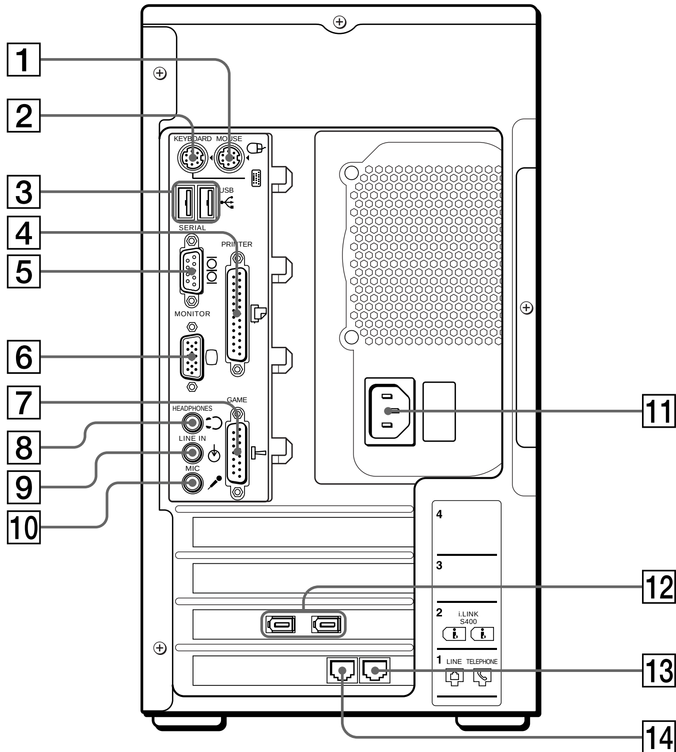
次のページにつづく

5 **フロッピーディスクイジェクトボタン**（54ページ）
フロッピーディスクを取り出すときに押します。

6 ⏻ **（電源）ボタンと電源ランプ**（27ページ）
本機の電源を入れるときに押します。電源が入っている間は、電源ランプが緑色に点灯します。
本機の動作中にこのボタンを軽く押すと、スタンバイモードに入り、電源ランプがオレンジ色に点灯します。

7 **ランプ（ハードディスクアクセスランプ）**
ハードディスクにアクセスしてデータを読み込んだり、書き込んだりするときにオレンジ色に点灯します。

後面



1 MOUSE（**マウス**）**コネクタ**
付属のマウスをつなぎます。

2 KEYBOARD（**キーボード**）**コネクタ**
付属のキーボードをつなぎます。

3 USB**コネクタ**（91**ページ**）
USB規格に対応した機器をつなぎます。

4 PRINTER（**プリンタ**）**コネクタ**（90**ページ**）
別売りのプリンタやスキャナなどをつなぎます。

5 SERIAL（**シリアル**）**コネクタ**
SERIALコネクタを持った機器をつなぎます。

6 MONITOR（**モニタ**）**コネクタ**
ディスプレイをつなぎます。

7 GAME（**ゲーム**）**コネクタ**（93**ページ**）
ジョイスティックやMIDI機器をつなぎます。

次のページにつづく

8 HEADPHONES（ヘッドホン）コネクタ

付属のアクティブスピーカーをつなぎます。

9 LINE IN（ライン入力）コネクタ

オーディオ機器とつなぎます。

10 MIC（マイクロホン）コネクタ

別売りのモノラルマイクをつなぎます。

11 AC INPUT（AC電源入力）プラグ

付属の電源コードをつなぎ、電源コンセントにつなぎます。

12 i.LINK S400コネクタ（6ピン）（84ページ）

i.LINK対応機器をつなぎます。

13 TELEPHONE（電話機）ジャック

電話機をつなぎます。

14 LINE（電話回線）ジャック

壁の電話回線とつなぎます。

操作編

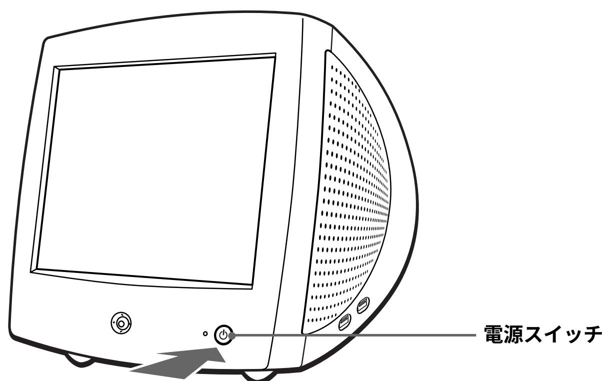
電源を入れる

電源を入れる前に確認してください

- ディスプレイ、キーボード、マウスが正しく接続されているか。
- 電源コードがきちんと接続されているか。
- フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブに入ったままになっていないか。もし入っている場合はフロッピーディスクイジェクトボタンを押して取り出してください。（54ページ）

接続について詳しくは、別冊の「はじめにお読みください」の「接続する」をご覧ください。

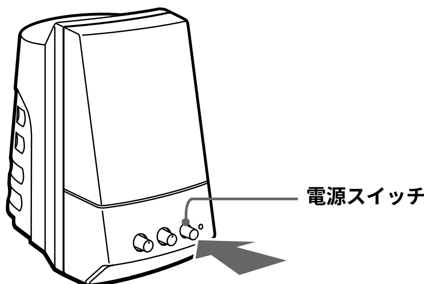
1 ディスプレイの電源スイッチを押す。



ご注意

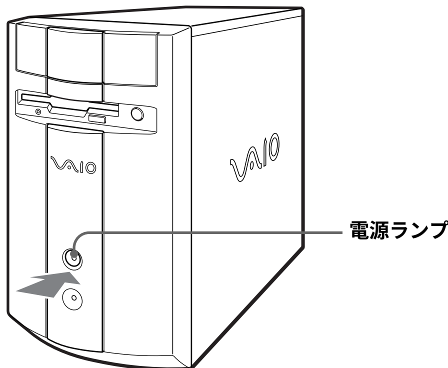
必ずディスプレイの電源を入れてから、本機の電源を入れてください。本機の電源から入れると、「OUT OF SCAN RANGE」とディスプレイに表示され、正しく表示されないことがあります。この場合は、「主なトラブルとその解決方法」の「ディスプレイ」（134ページ）をご覧ください。

2 スピーカーの電源スイッチを押す。



3 本機の ⏻（電源）ボタンを押す。

本機の電源が入り、電源ランプが緑色に点灯し、Windows 98が起動します。
初めて電源を入れたときは、Windows 98のセットアップ画面が表示されます。Windows 98のセットアップ画面については、別冊の「はじめにお読みください」の「Windows 98を準備する」をご覧ください。



ご注意

４秒以上 ⏻（電源）ボタンを押したままにすると、電源は切れてしまいます。

電源を切る

本機の電源を切るときは、次の手順で操作してください。

ご注意

以下の手順に従って電源を切らないと故障の原因になったり、作成した文書などが使えなくなったりすることがあります。

1 デスクトップ画面左下の スタート をクリックする。

「スタート」メニューが表示されます。



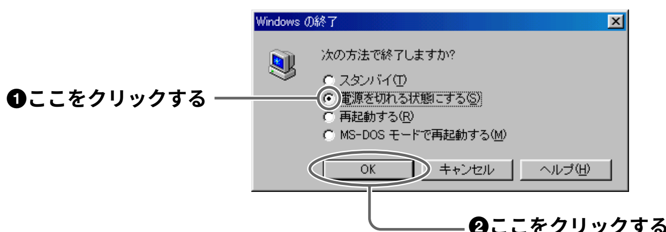
次のページにつづく

2 メニューの［Windowsの終了］をクリックする。

「Windowsの終了」画面が表示されます。



3 ［電源を切れる状態にする］をクリックして選び、つぎに OK をクリックする。



しばらくすると本機の電源が自動的に切れ、電源ランプが消灯します。

ご注意

本機の電源を切った後、10秒間は電源を入れないでください。

「スタート」メニューから［Windowsの終了］を選んでも電源が切れないときは

以下の操作を行ってから、再度操作してください。

- 使用中のソフトウェアをすべて終了する。
- USB機器を接続しているときは、取りはずす。

それでも電源が切れないときは、「困ったときは」の「電源」（132ページ）をご覧ください。

一時的に作業を中断するときは

キーボードの☾(スタンバイ) キーを軽く押すか、または本機前面の⏻(電源) ボタンを軽く押すと、一時的にシステム全体の動作を停止することができます（スタンバイモード)。このとき、本機前面の電源ランプはオレンジ色に点灯します。席をはずすなどして、しばらく作業を中断するときに便利です。
通常の動作モードに戻すには、キーボード上のスペースキーを押すか、マウスのボタンをクリックします。

ご注意

本機がスタンバイモードに入っているときは、通信ソフトウェアを使ってファックスを送受信することはできません。

再起動する

本機の設定を変更したり、ソフトウェアをインストールしたときなどは、本機を再起動する必要がある場合があります。

1 デスクトップ画面左下の スタート をクリックする。

「スタート」メニューが表示されます。



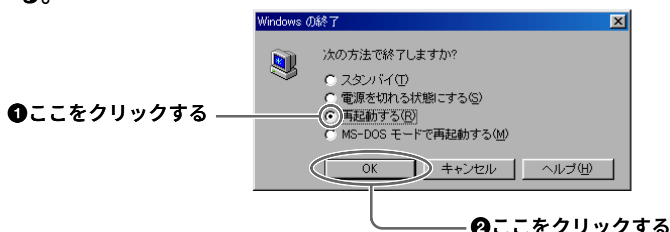
次のページにつづく

2 メニューの［Windowsの終了］をクリックする。

「Windowsの終了」画面が表示されます。



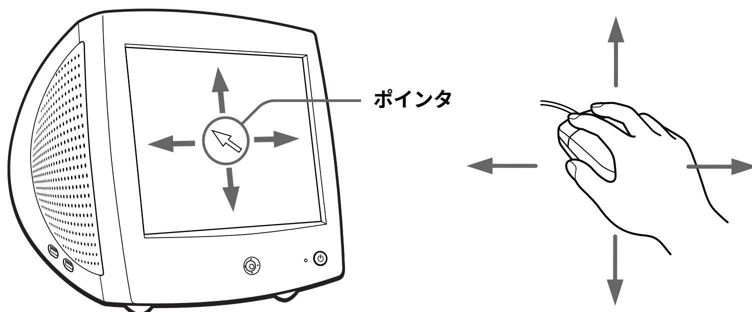
3 ［再起動する］をクリックして選び、つぎに OK をクリックする。



本機が再起動します。

マウスを使う

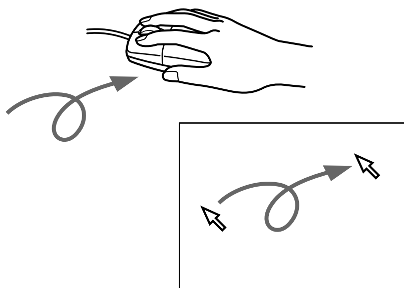
ここではマウスの使いかたを説明します。
マウスを動かすと、その動きに合わせて画面上のポインタも同じ方向に移動します。



ポインタを目的の位置まで動かして左ボタン／右ボタン、またはホイールボタンを押すことで、メニューを選んだりさまざまな命令をコンピュータに伝えることができます。

マウスを動かす

机の上など平らな場所に置き、滑らせるように動かします。マウスを動かすときは、腕全体を使うようにします。マウスを動かしていて机の端まで行ってしまったら、マウスを持ち上げて元の位置に戻して動かします。



次のページにつづく

ポイントする

ポインタを希望の位置に合わせることです。メニューを選ぶときなどに使います。

クリックする

左ボタンをカチッと1回押してすぐ離すことです。

OK や キャンセル などのボタンを押したり、メニューを選ぶときなどに使います。

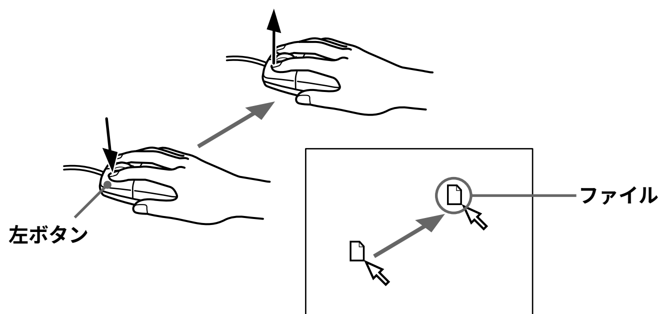
ダブルクリックする

左ボタンをカチカチッと2回すばやく押してすぐ離すことです。

ソフトウェアを実行したり、作成した文書のファイルを開くときなどに使います。

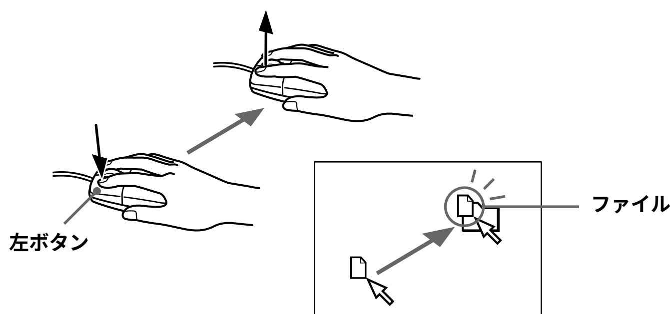
ドラッグする

左ボタンを押して、そのまま希望の位置まで動かしてからボタンを離すことです。ファイルを移動したり、ウィンドウの大きさを変更するときなどに使います。



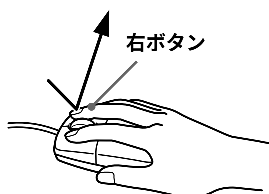
ドラッグアンドドロップする

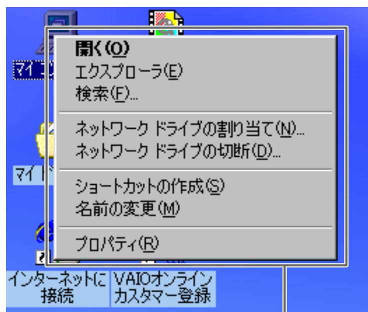
ファイルのアイコンなどをドラッグしてフォルダやソフトウェアのアイコン、ウィンドウなどの上でボタンを離すことです。
ファイルをフォルダのアイコンやウィンドウにドラッグアンドドロップすると、そのファイルをフォルダやウィンドウの中に移動またはコピーすることができます。
ファイルをソフトウェアのアイコンやウィンドウにドラッグアンドドロップすると、ソフトウェアでそのファイルを開くことができます。



右クリックする

右ボタンを1回押してすぐ離すことです。押したときのポインタの位置によって、さまざまな内容のショートカットメニューが表示されます。
ショートカットメニューを使うと、メニューなどを開かずに、さまざまな機能を直接使うことができます。





ホイールボタンの使いかた

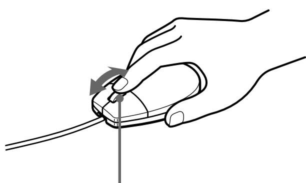
ホイールボタンを使うことによって、スクロール、オートスクロール、ズームなどの操作ができます。

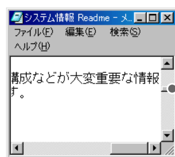
ご注意

お使いになるソフトウェアによっては動作が異なったり、機能しないものがあります。

スクロールする

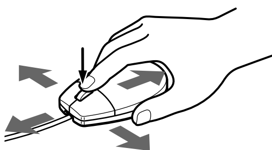
ウィンドウ上で上下スクロールバーが表示されているときに、ホイールボタンを転がすと、画面が上下して表示されていない情報を見ることができます。
また、上下スクロールバーをポイントし、ホイールボタンを転がして上下にスクロールすることもできます。

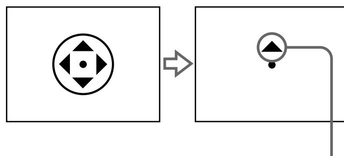




パンする

ホイールボタンを押しながらマウスを動かして、画面を上下左右に動かすことです。





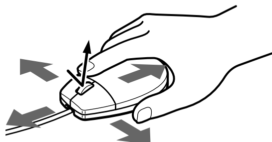
ちょっと一言

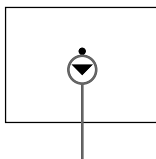
お使いになっているソフトウェアによっては、斜めにもパンすることができます。

次のページにつづく

オートスクロールする

ホイールボタンを押してすぐ離し、マウスを動かして自動的に画面を動かすことです。
カーソルを元に戻す場合は、ホイールボタンをもう1度押すか、左または右ボタンをクリックします。





 **ちょっと一言**

お使いになっているソフトウェアによっては、斜めにもオートスクロールすることができます。

ズーム／データズームする

ズームする

キーボードのCtrl（コントロール）キーを押しながらホイールボタンを転がし、ウィンドウ画面を拡大したり縮小することです。

データズームする

キーボードのShift（シフト）キーを押しながらホイールボタンを転がし、ウィンドウ上のデータを上または下の階層に切り換えることです。

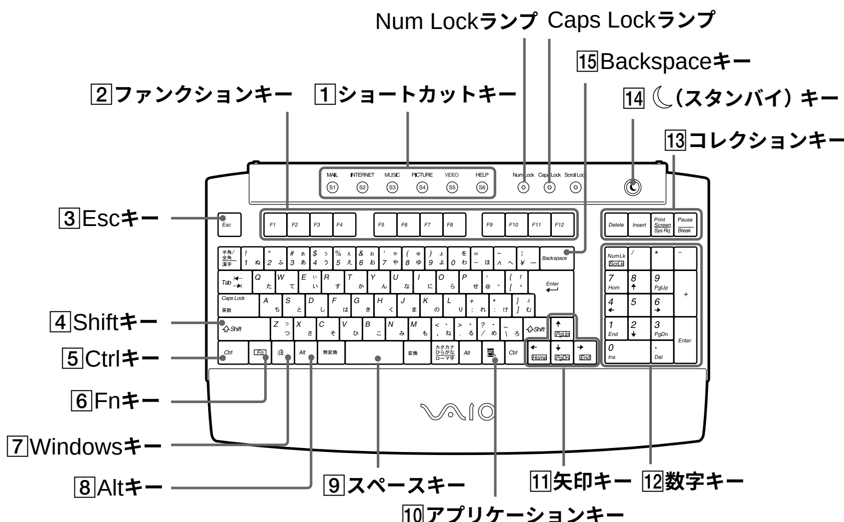
ご注意

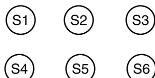
この機能はMicrosoft Office 97と互換性のあるプログラムでのみ働きます。

ホイールボタンにスクロールやオートスクロール以外の機能を割り当てることもできます。
詳しくは「マウスの設定を変更する」（123ページ）をご覧ください。

キーボードを使う

キーボードを使って文字や記号を入力したり、コンピュータへ命令を送ることができます。ここでは、他のキーと組み合わせて使う、特殊なキーのなまえと機能を紹介します。
文字の入力のしかたについては、別冊の「はじめにお読みください」の「文字の入力を練習する（キーボードの使いかた）」をご覧ください。



なまえ	機能
1 ショートカットキー 	各キーに割り当てられたソフトウェアを起動するときに押します。各キーに割り当てられたソフトウェアについて詳しくは「ショートカットキーの機能」（41ページ）をご覧ください。
2 ファンクションキー 	使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくは付属のMicrosoft Windows 98のファーストステップガイドまたは各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
3 Esc（エスケープ）キー 	設定を取り消したり、実行を中止するときなどに押します。

次のページにつづく

なまえ	機能
4 Shift（シフト）キー Shift	文字キーと組み合わせて使うと、大文字を入力できます。キーボード右上のCaps Lock（キャプス・ロック）ランプがついている状態で、文字キーと同時に押した場合は、小文字を入力できます。また、文字キーと他の機能キーと組み合わせて使うと、特定の機能を実行できます。
5 Ctrl（コントロール）キー Ctrl	文字キーなどと組み合わせて使うと、特定の機能を実行します。使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくは付属のMicrosoft Windows 98のファーストステップガイドまたは各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。 例） Ctrl キーを押しながら、S と キーを押す。 メニューから「保存する」を選ばずに、ファイルを保存できます。
6 Fn（エフエヌ）キー Fn	キーボード上で□で囲まれている機能を使うとき、このキーと組み合わせて押します。 詳しくは「Fnキーとの組み合わせと機能」（45ページ）をご覧ください。
7 Windows（ウィンドウズ）キー	Windows 98の「スタート」メニューが表示されます。他のキーと組み合わせて使うと、特定の機能を実行できます。詳しくは付属のMicrosoft Windows 98のファーストステップガイドおよび「Windowsキーとの主な組み合わせと機能」（46ページ）をご覧ください。
8 Alt（オルト）キー Alt	文字キーなどと組み合わせて使うと、特定の機能を実行します。 使用するソフトウェアなどによって働きが異なります。詳しくは付属のMicrosoft Windows 98のファーストステップガイドまたは各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
9 スペースキー	文字を入力しているとき、このキーを押すと、スペースを挿入できます。

なまえ	機能
10 アプリケーションキー	マウスで右ボタンを押したときと同じ働きをします。
11 矢印キー PgUp PgDn Home End	画面上のカーソルを動かしたり、数ページにわたる画面の次ページまたは前ページを表示するときなどに使います。Fnキーと組み合わせて使うと、PgUp（ページアップ）キーやPgDn（ページダウン）キーなどとして使えます。詳しくは、「Fnキーとの組み合わせと機能」（45ページ）をご覧ください。
12 数字キー	NumLk/ScrLk（ナム・ロック）キーを押し、キーボード右上のNum Lock（ナム・ロック）ランプが点灯しているときは、数字を入力できます。消灯しているときは、矢印キーなど、キーの表面左側に印刷されている機能と同じ働きをします。
13 コレクションキー	キーボード右上のNum Lock（ナム・ロック）ランプが消灯しているときは、数字キーの一部もコレクションキーとして使えます。
• Delete（デリート）キー Delete	画面のカーソル上の文字を消すときに押します。
• Insert（インサート）キー Insert	文字入力のモードを切り換えます。文字を入力するとき、このキーを押すごとに、画面上のカーソルの位置に文字を挿入するか、カーソルの位置から文字を上書きするかが切り換わります。
• Print Screen／Sys Rq（プリントスクリーン／システムリクエスト）キー Print Screen Sys Rq	デスクトップ画面全体を画像として本機に取り込みます。Alt（オルト）キーを押しながらこのキーを押すと、アクティブなウィンドウを取り込みます。取り込んだ画像は「ペイント」などのソフトウェア上に貼りつけられます。

アクティブなウィンドウとは

デスクトップ画面上で表示されているウィンドウの中で最前面に表示されているウィンドウはタイトルバー（ウィンドウの上の部分）が青い色になります。この最前面に表示されているウィンドウのことを「アクティブなウィンドウ」と言います。

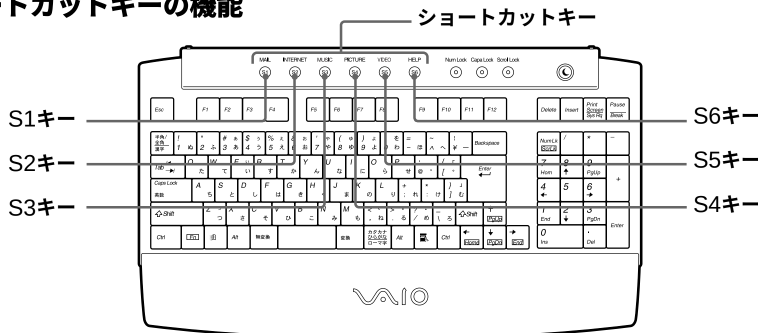
次のページにつづく

なまえ	機能
• Pause／Break（ポーズ／ブレイク）キー Pause/Break	使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくは各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。 Ctrl（コントロール）キーを押しながらこのキーを押すと、Breakキーとして働きます。使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくは各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
14 スタンバイキー	本機のシステム全体の動きを一時的に停止します（スタンバイモード）。
15 Backspace（バックスペース）キー Backspace	画面上のカーソルキーの左の文字を消すときに押します。

キーボードショートカット

メニューを開かなくても、キーボードから各種コマンドを実行できます。

ショートカットキーの機能



各キーに割り当てられたソフトウェアを起動するときに押します。
各キーに割り当てられているソフトウェアは以下のとおりです。

なまえ		機能
S 1キー（MAIL）	S1	「Outlook Express」ソフトウェアを起動します。
S 2キー（INTERNET）	S2	「Internet Explorer」ソフトウェアを起動します。
S 3キー（MUSIC）	S3	「Media Bar」ソフトウェアを起動します。初めて押したときは「AV再生の設定」画面が表示されます。詳しくは「音楽CD／ビデオCDを再生する」（81ページ）をご覧ください。
S 4キー（PICTURE）	S4	「PictureGear」ソフトウェアを起動します。
S 5キー（VIDEO）	S5	「DVgate Motion」ソフトウェアを起動します。
S 6キー（HELP）	S6	「サイバーサポート（CyberSupport for VAIO）」ソフトウェアを起動します。詳しくは「「サイバーサポート」ソフトウェアの使いかた」（13ページ）をご覧ください。

ご注意

S1キーとS2キーを使うには、インターネットに接続するための接続および設定、電子メールソフトウェアを使うための設定が完了していることが必要です。詳しくは、別冊の「はじめにお読みください」の「インターネットを始める」をご覧ください。

ショートカットキーへ割り当てられているソフトウェアを変更するには

お買い上げ時にショートカットキーに割り当てられているソフトウェアを、付属の「VAIO Action Setup」ソフトウェアを使って、好みのソフトウェアが起動するように変更できます。

ここでは、(S1)キーを押すと「オンラインマニュアル」（この取扱説明書の内容）が起動するようにしてみます。

1 デスクトップ画面右下の をダブルクリックする。

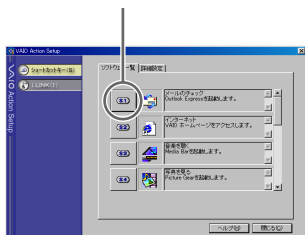
「ソフトウェア一覧」画面が表示されます。

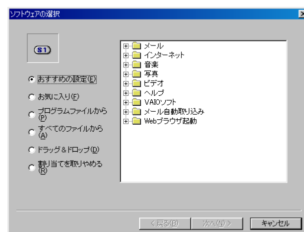


2  **をクリックする。**

「ソフトウェアの選択」画面が表示されます。

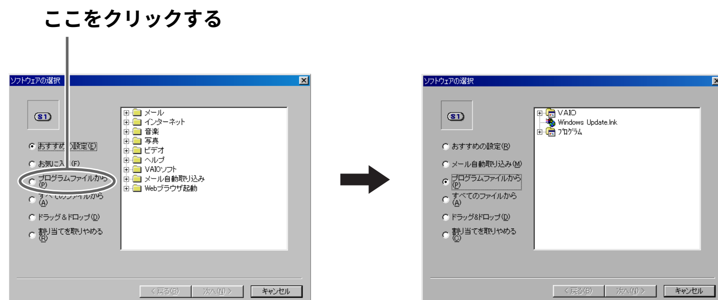
ここをクリックする





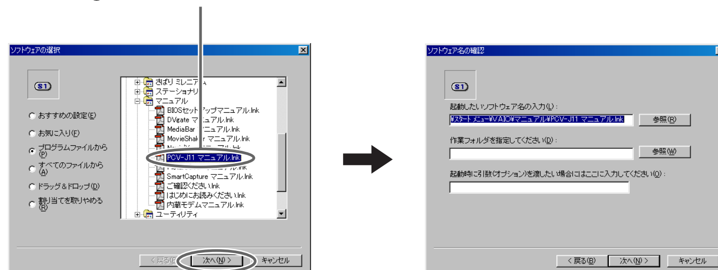
3 ［プログラムファイルから］をクリックする。

本機に付属しているソフトウェアなどのリストが右側に表示されます。



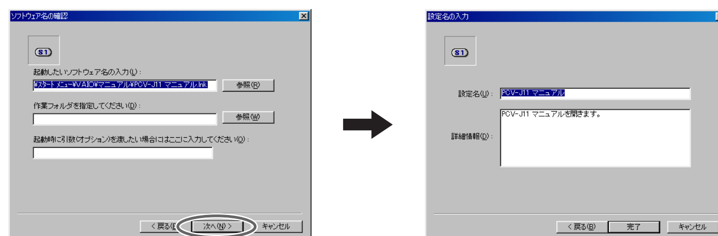
4 ［VAIO］、［マニュアル］の順にダブルクリックし、［PCV-J11マニュアル.lnk］をクリックしてから 次へ(N) > をクリックする。

「ソフトウェア名の確認」画面が表示されます。



5 次へ(N) > をクリックする。

「設定名の入力」画面が表示されます。



次のページにつづく

6 「設定名」と「詳細情報」を入力してから［完了(F)］をクリックする。

これで設定は完了です。キーボードの(S1)キーを押すと「オンラインマニュアル」が起動します。

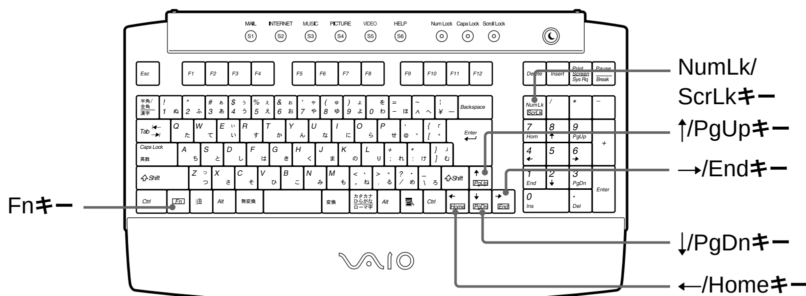


「VAIO Action Setup」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「VAIO Action Setup」のヘルプをご覧ください。

ちょっと一言

ショートカットキーへのソフトウェアの割り当てを変更したときのために、本機にはショートカットキー用のテンプレートが付属しています。新しく割り当てたソフトウェア名をペンでテンプレートに記入し、ショートカットキーの上に置くと、新しい割り当てを忘れずにすみます。

Fnキーとの組み合わせと機能

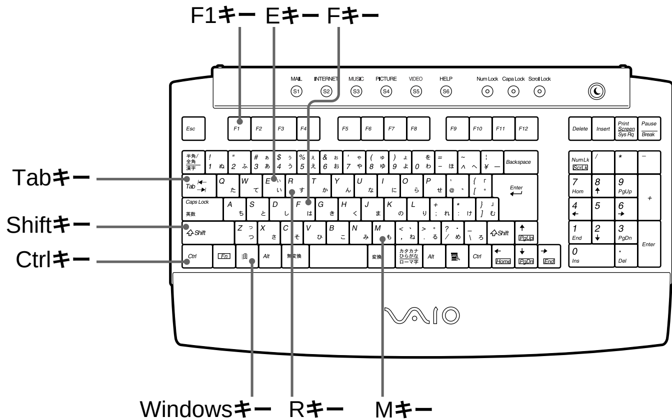


キー操作の表記

例：Fn＋NumLk ➡ Fnキーを押しながらNumLkキーを押す。

組み合わせ	機能
Fn＋NumLk ➡ ScrLk （スクロール・ロック）キー Fn ＋ NumLk ScrLk	ScrLk（スクロール・ロック）キーとして働きます。 使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくは各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
Fn＋↑ ➡ PgUp （ページアップ）キー Fn ＋ ↑ PgUp	PgUp（ページアップ）キーとして働きます。 現在表示している画面の前のページを表示します。
Fn＋→ ➡ End （エンド）キー Fn ＋ → End	End（エンド）キーとして働きます。 行の最後にカーソルを移動します。
Fn＋↓ ➡ PgDn （ページダウン）キー Fn ＋ ↓ PgDn	PgDn（ページダウン）キーとして働きます。 現在表示している画面の次のページを表示します。
Fn＋← ➡ Home （ホーム）キー Fn ＋ ← Home	Home（ホーム）キーとして働きます。 行の先頭にカーソルを移動します。

Windowsキーとの主な組み合わせと機能



キー操作の表記

例：⊞ +F ➡ Windowsキーを押しながらFキーを押す。

組み合わせ	機能
⊞ +F1	Windowsのヘルプを表示します。
⊞ +Tab	タスクバーに表示されているボタンの選択を切り替えます。
⊞ +E	エクスプローラ*を表示します。
⊞ +F	「ファイルやフォルダ」の「検索」画面を表示します。 ［スタート］メニューから［検索］の［ファイルやフォルダ］を選んだときと同じです。
⊞ +Ctrl+F	「ほかのコンピュータ」の「検索」画面を表示します。 ［スタート］メニューから［検索］の［ほかのコンピュータ］を選んだときと同じです。
⊞ +M	表示されているすべての画面を最小化します。
Shift+⊞ +M	最小化されているすべての画面を元のサイズに戻します。
⊞ +R	「ファイル名を指定して実行」画面を表示します。 ［スタート］メニューから「ファイル名を指定して実行…」を選んだときと同じです。

* コンピュータの内容（ファイルやフォルダ）をツリー図で表示します。作成したファイルなどがコンピュータのどこに保存されているか、一目で確認できます。

CD-ROMを使う

CD-ROMは、コンピュータで扱うソフトウェアやデジタルデータが記録された、読み取り専用のコンパクトディスクです。読み取り専用なので、自分で作った文書ファイルなどを保存することはできません。
ここでは、CD-ROMの使いかたについて説明します。

ご注意

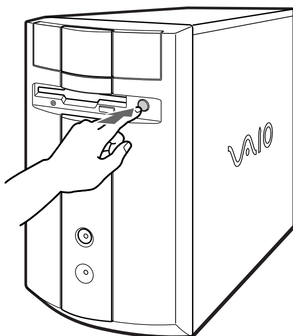
- **CD-ROMを出し入れするときは、フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクが完全に入っていることを確認してからCD-ROMイジェクトボタンを押してください。フロッピーディスクが完全に入っていない状態でOPEN／CLOSEボタンを押すと、CD-ROMドライブのカバーとフロッピーディスクが引っ掛かり、本機の故障の原因となることがあります。**
- **以下のようなディスクはCD-ROMドライブに入れないでください。**
  －ひびがはいっているディスク
  －割れているディスク
  －反っているディスク
  このような状態のディスクをCD-ROMドライブに入れると、本機内部でディスクが破損し、本機の故障の原因となることがあります。

ディスクを入れる

次の手順に従ってディスクをCD-ROMドライブに入れます。

1 本機の電源を入れる（26ページ）。

2 OPEN／CLOSEボタンを押す。
ディスクトレイが自動的に引き出されます。

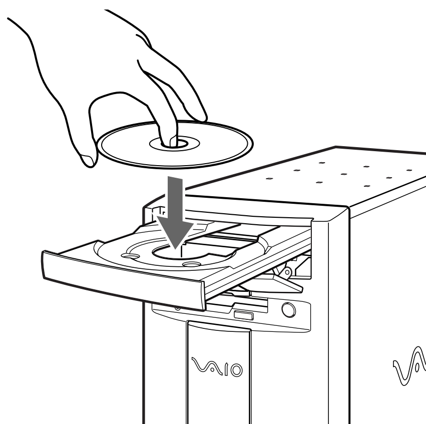


ご注意

OPEN／CLOSEボタンを押してからディスクトレイが引き出されるまで2〜3秒かかります。

次のページにつづく

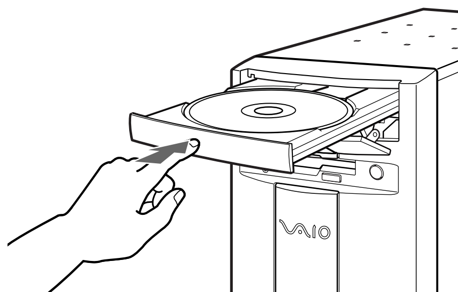
3 **レーベル面（文字が書いてある面）を上にしてディスクをトレイの中央に置く。**



ご注意

CD-ROMディスクの記録面（文字が印刷されていない面）には絶対に触れないようにご注意ください。

4 **ディスクトレイを軽く押して、トレイを閉める。**

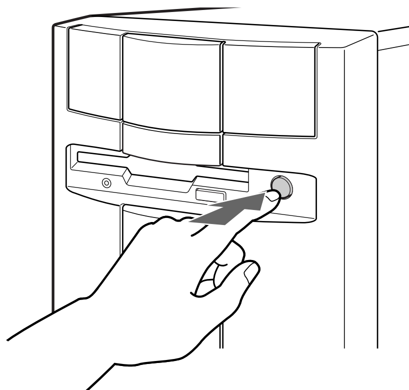


データの内容が読み込まれます。

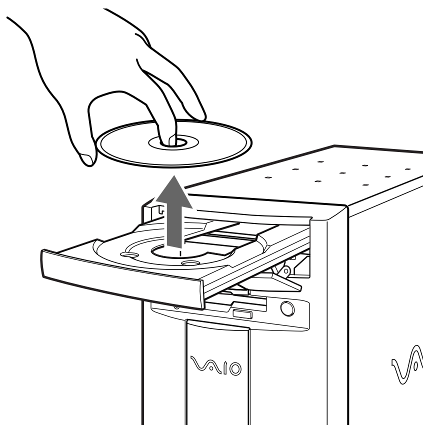
ディスクを取り出すには

1 OPEN／CLOSE**ボタンを押す。**

ディスクトレイが自動的に引き出されます。



2 **ディスクを取り出す。**



ご注意

OPEN／CLOSEボタンは、本機の電源が入っていないと動作しません。

ディスクを取り出せないときは

いったん本機の電源を切り（27ページ）電源を入れ直して（26ページ）から、上記の「ディスクを取り出すには」の操作を行ってください。

データを使う

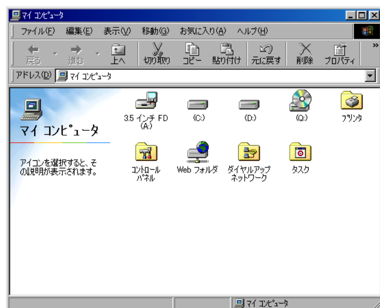
ここではディスクから本機に読み込まれたデータを使う方法を説明します。

ちょっと一言

ディスクをCD-ROMドライブに入れると、自動的に再生が始まるディスクもあります。このようなディスクの場合は、エクスプローラを使って内容を表示させてください。エクスプローラを起動するには、ディスクトップ画面左下の スタート をクリックし［プログラム］にポインタを合わせ、［エクスプローラ］をクリックします。

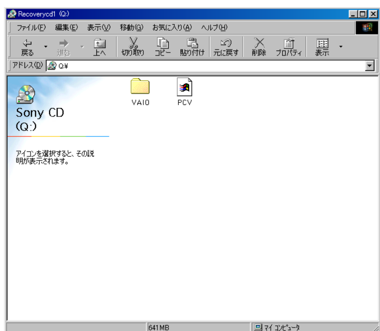
1 デスクトップ画面左上の（マイコンピュータ）をダブルクリックする。

「マイコンピュータ」画面が表示されます。



2 をダブルクリックする。

「ディスクを入れる」の手順4で読み込まれたディスクの内容が表示されます。



ちょっと一言

画面ではCD-ROMドライブはQ:ドライブと表示されていますが、実際の画面ではQ:ドライブ以外のこともあります。

3 目的に応じて操作する。

ディスクの中のデータを本機のハードディスクドライブにコピーしたり、移動したりすることができます。
詳しくは、別冊の「はじめにお読みください」の「ファイルを操作する」または、付属のMicrosoft Windows 98のファーストステップガイドおよびヘルプをご覧ください。
Windows 98のヘルプを見るには、デスクトップ画面左下の  をクリックし、表示されるメニューから［ヘルプ］をクリックします。

 **ハードディスクドライブとは**

コンピュータの記憶装置のことで、データの書き込み／読み出しを高速で行います。

使用できるディスク

本機のCD-ROMドライブで再生できるディスクは以下の通りです。

ディスクの種類	マーク
CD-ROM	COMPACT disc
音楽CD	COMPACT disc DIGITAL AUDIO
CD Extra	COMPACT disc+ DIGITAL AUDIO / CD EXTRA TM
ビデオCD	COMPACT disc DIGITAL VIDEO / VIDEO CD
CD-RW*	COMPACT disc ReWritable
CD-R*	COMPACT disc Recordable / COMPACT disc DIGITAL AUDIO Recordable

* 本機では、何も書き込まれていないディスク、書き込みに失敗したディスク、データ書き込み後にCD-ROMドライブでデータを読み込めるように設定していないディスクはお使いになれません。また、作成したドライブやソフトウェアによっては再生できないディスクもあります。

ご注意

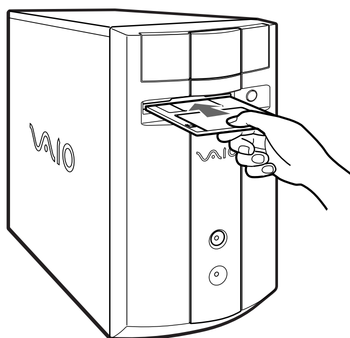
- 本機では円形ディスクのみお使いいただけます。円形以外の特殊な形状（星型、ハート型など）をしたディスクを使用すると、本機の故障の原因となります。
- 破損したディスクを使用すると、本機の故障の原因となります。

フロッピーディスクを使う

フロッピーディスクは、薄くて軽く、手軽に取り扱うことのできる記録メディアです。自分で作った文書ファイルなどのデータを保存することができます。
ここでは、フロッピーディスクの取り扱いについて説明します。

フロッピーディスクを入れる

フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに入れます。



フロッピーディスクの上下を確認し、フロッピーディスクが完全にセットされるまで静かに押し込む。

本機では、市販されている「DOS／V」と記載された3.5インチフロッピーディスクのみお使いいただけます。
本機で使えるフロッピーディスクについて詳しくは、「使用できるフロッピーディスク」（60ページ）をご覧ください。
「DOS／V 1.44MBフォーマット済」などと記載されたフロッピーディスクをご購入いただくと、初期化する手間が省けます。初期化とは何かについては、「フロッピーディスクを初期化する」（57ページ）をご覧ください。

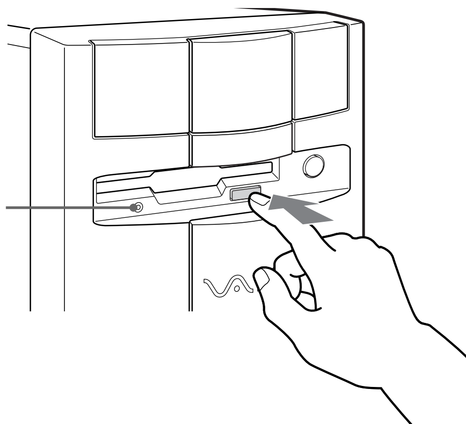
フロッピーディスクを取り出すには

フロッピーディスクドライブアクセスランプが点灯していないことを確認してから、フロッピーディスクイジェクトボタンを押します。

ご注意

フロッピーディスクドライブアクセスランプが点灯しているときにフロッピーディスクイジェクトボタンを押すと、ディスクおよびデータの破損の原因となります。

フロッピーディスクドライブアクセスランプ

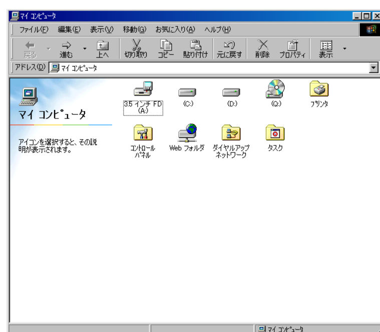


フロッピーディスクのデータを使う

ここではフロッピーディスクから本機に読み込まれたデータを使う方法を説明します。

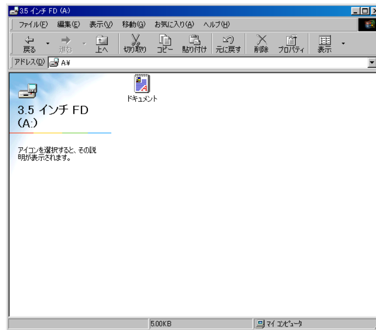
1 デスクトップ画面左上の（マイコンピュータ）をダブルクリックする。

「マイコンピュータ」画面が表示されます。



2 (3.5インチFD (A:)) をダブルクリックする。

フロッピーディスクの内容が表示されます。



3 目的に応じて操作する。

フロッピーディスクの中のデータを本機のハードディスクドライブにコピーしたり、移動したりすることができます。

詳しくは、付属のMicrosoft Windows 98のファーストステップガイドおよびヘルプをご覧ください。

Windows 98のヘルプを見るには、デスクトップ画面左下の スタート をクリックし、表示されるメニューから［ヘルプ］をクリックします。

フロッピーディスクにデータをコピーする

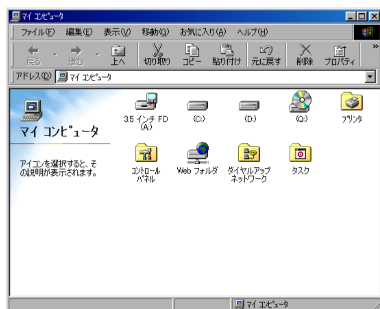
作成した文書などのデータをフロッピーディスクにコピーするには、以下の手順に従ってください。

1 **フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに入れる。**

入れかたについては53ページをご覧ください。

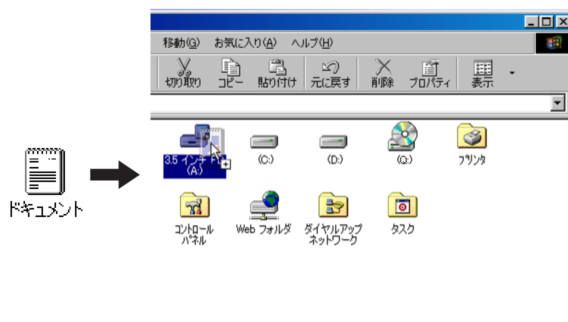
2 **デスクトップ画面上の（マイ コンピュータ）をダブルクリックする。**

「マイ コンピュータ」画面が表示されます。



3 **コピーするデータのアイコンをクリックし、（3.5インチFD（A:））に重なるようにドラッグする。**

（3.5インチFD（A:））が反転表示されます。



4 **マウスのボタンを離す。**

データがフロッピーディスクにコピーされます。

フロッピーディスクを初期化する

「DOS／V 1.44MB フォーマット済」などと記載されたフロッピーディスクは、そのまま本機のフロッピーディスクに入れてすぐにお使いになれますが、以下の場合は「初期化」（または「フォーマット」ともいう）という作業が必要です。

- 「DOS／V 1.44MB フォーマット済」などと記載されていないフロッピーディスクを初めて使うとき
- フロッピーディスクの中のデータがいっぱいになり、そのデータを一度に消して初期状態に戻したいとき

「初期化」とは、お使いのコンピュータでフロッピーディスクにデータを読み書きできるようにフロッピーディスクの記録方式を決めることです。
初期化するとフロッピーディスクは、区画に分けられ番地が付けられ、どの区画にどんな情報が書き込まれているかを記録し、管理する部分が作られます。
本機でフロッピーディスクを初期化するには、以下の手順に従ってください。

ご注意

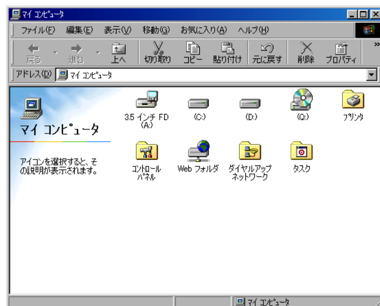
データが書き込まれているフロッピーディスクを初期化すると、そのデータはすべて消去されてしまいます。誤って大切なデータを消すことがないようにご注意ください。

1 初期化したいフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに入れる。

入れかたについては53ページをご覧ください。

2 デスクトップ画面左上の（マイコンピュータ）をダブルクリックする。

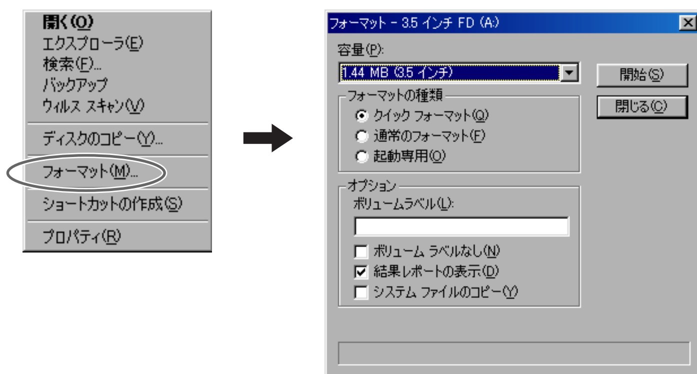
「マイコンピュータ」画面が表示されます。



次のページにつづく

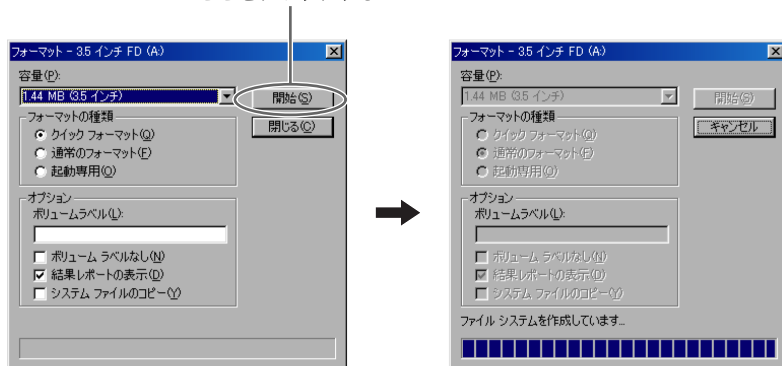
3 (3.5インチFD (A:)) を右クリックし、表示されるメニューから［フォーマット］をクリックする。

フォーマットの画面が表示されます。



4 開始(S) をクリックする。

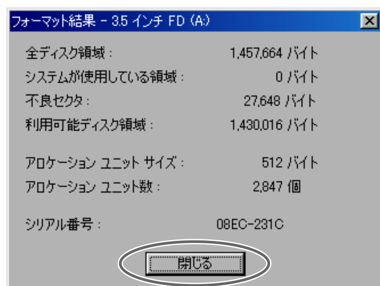
フロッピーディスクが初期化されます。



青い部分がいっぱいになると初期化が完了し、「フォーマット結果」画面が表示されます。

5 閉じる をクリックする。

「フォーマット結果」画面が閉じます。



データを書き込み禁止にする

大切なデータを誤って消してしまうことのないように、フロッピーディスクには書き込み禁止のタブがついています。このタブを上下に動かして、フロッピーディスクを書き込み可能に、あるいは書き込み禁止にできます。

❑ 書き込み可能

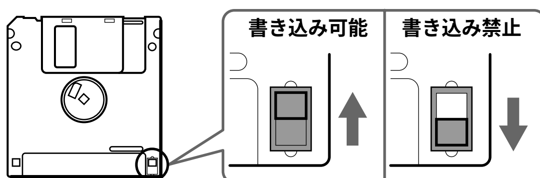
データの書き込みが可能な状態です。次のような場合には書き込み可能な状態にしておきます。

- 初期化するとき
- 別のディスクの内容をコピーするとき
- ソフトウェアのデータディスクとして使うとき

❑ 書き込み禁止

穴が見える位置にタブをスライドさせると、書き込み禁止の状態になります。データの読み出しはできますが、書き込みはできません。内容を読み出すことはあっても、書き込みは行わないときは、書き込み禁止にしておきます。

フロッピーディスク裏面



使用できるフロッピーディスク

本機では、パッケージに「DOS／V」と記載された3.5インチフロッピーディスクのみお使いいただけます。また、3.5インチフロッピーディスクには、2HD（両面高密度）タイプと2DD（両面倍密度倍トラック）タイプのものがあり、フォーマットによって2HD 1.44Mバイト、2DD 720Kバイト、2HD 1.2Mバイトの3種類に分けることができます。本機はこれらのフロッピーディスクに対応しています。

種類	本機でできること
2HD 1.44Mバイト	フォーマット、読み書きともに可。
2DD 720Kバイト	フォーマット、読み書きともに可。
2HD 1.2Mバイト	Windows上では読み書きともに可。 MS-DOSプロンプトやMS-DOSモードでは読み書きとも不可。

ご注意

- データを保存するときは、2HD 1.44Mバイトまたは2DD 720Kバイトタイプのフロッピーディスクをご使用ください。
- 他のコンピュータとデータのやりとりをする場合は、下記のフロッピーディスクをご使用ください。

データをやりとりしたいパソコンのフロッピーディスクドライブの種類	使用するフロッピーディスク
1.44Mバイトの フロッピーディスクドライブ	2HD 1.44Mバイトまたは 2DD 720Kバイト
1.2Mバイトの フロッピーディスクドライブ	2HD 1.2Mバイトまたは 2DD 720Kバイト

- 2HD 1.2Mバイトタイプのフロッピーディスクのデータを利用するときは、いったん2HD 1.44Mバイトタイプのフロッピーディスクへコピーしてから利用することをおすすめします。
- 市販のソフトウェアはフロッピーディスクの種類に関係なく作られていますが、一部のソフトウェアには2HD 1.44Mバイトおよび2DD 720Kバイト専用に作られているものがあります。これらのソフトウェアから2HD 1.2Mバイトのフロッピーディスクに読み書きを行ったときは、一部の機能が正しく動作しない場合があります。

インターネットを楽しむ

本機を電話回線につなぐとインターネットを楽しむことができます。
インターネットに接続するには、あらかじめ以下のことを行っておく必要があります。

- 本機を電話回線につなぐ
- インターネットサービスプロバイダと契約する
- インターネットに接続するためのさまざまな設定をする
- 電子メールソフトウェアの設定をする（電子メールをやりとりする場合）

上記の接続や設定について詳しくは、別冊の「はじめにお読みください」の「接続する」および「インターネットを始める」をご覧ください。

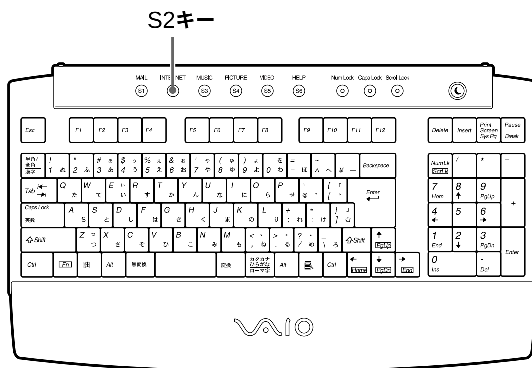
ホームページを見る

本機でインターネット上のホームページを見てみましょう。
ここでは付属の「Internet Explorer」ソフトウェアを使っていろいろな方法でホームページを見てみます。

1 「Internet Explorer」ソフトウェアを起動する

まず、「Internet Explorer」ソフトウェアを起動します。

キーボードの S2 キーを押す。



次のページにつづく

ちょっと一言

以下の方法でも「Internet Explorer」ソフトウェアを起動できます。

- デスクトップ画面上の （Internet Explorer）をダブルクリックする。
- デスクトップ画面左下の スタート をクリックし、［プログラム］にポインタを合わせ、［Internet Explorer］をクリックする。

「Internet Explorer」ソフトウェアが起動します。



ちょっと一言

最初に表示されるホームページが上図と違っていても、故障ではありません。「Internet Explorer」ソフトウェアを起動したときに表示されるホームページは各自の設定により異なります。上図は最初に表示されるホームページをVAIOホームページに設定したときの例です。他のホームページに設定するときは「Internet Explorer」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

2 他のホームページを表示する

次に他のホームページを見てみましょう。
ここでは「VAIOカスタマーリンク」のホームページのURLを直接入力して、「VAIOカスタマーリンク」のホームページを表示させてみます。

URLとは

ホームページにはインターネット上のアドレスがあり、このアドレスのことを「URL」（ユーアールエル）と言います。

1 アドレスをクリックする。

現在のURLが反転します。

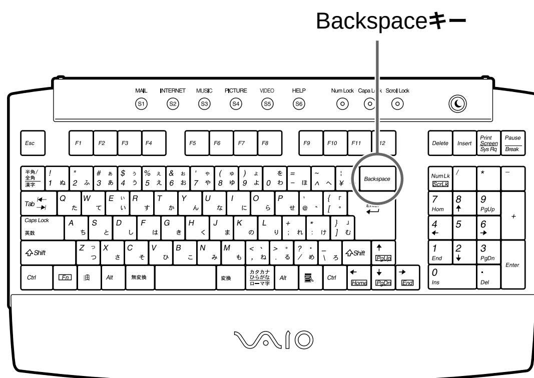


ご注意

現在のURLの後ろの空欄の部分をクリックしてください。画面上の「アドレス」という文字や、現在のURLの文字の上をクリックしないでください。

2 キーボードのBackspace（バックスペース）キーを押す。

現在のURLが削除されます。



3 デスクトップ画面右下のMS-IMEツールバー左側の［あ］をクリックして［直接入力］を選ぶ。

ツールバーの表示が［ _A］になり、アルファベットが入力できる状態になります。



4 「http://vcl.vaio.sony.co.jp/」と入力する。

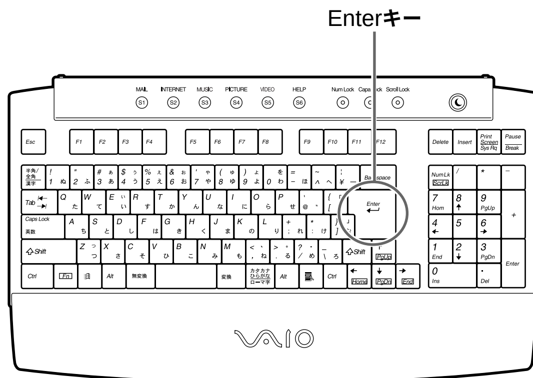


次のページにつづく

ちょっと一言

URLには、「.../~vaio/...」のように「~」（チルダ）が使われているものがあります。URLで使われる半角の「~」（チルダ）を入力するには、[~ へ]キー を押します。

5　キーボードの[Enter]（エンター）キーを押す。



VAIOカスタマーリンクのホームページが表示されます。



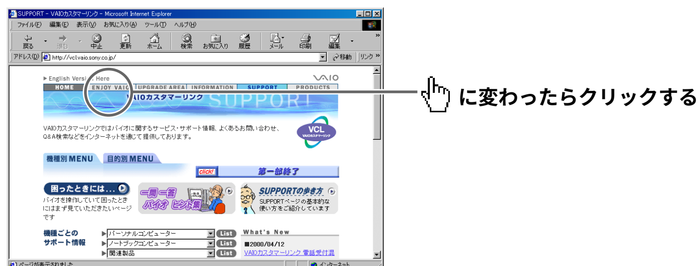
ちょっと一言

画面表示は本書と違うことがあります。

3　リンクをたどる

ホームページから他のホームページにジャンプしたり、データをインターネット上から本機にコピーすることができます。このように、ホームページから、他のホームページにジャンプしたり、データにジャンプすることを「リンクする」と言います。
ここでは、VAIOカスタマーリンクのホームページから、ENJOY VAIOのホームページにジャンプしてみましょう。

1 マウスを使って（カーソル）を移動して、に変わったらクリックする。




ちょっと一言

ホームページの中で、（カーソル）がに変わる文字や画像は、リンクが貼られているところです。

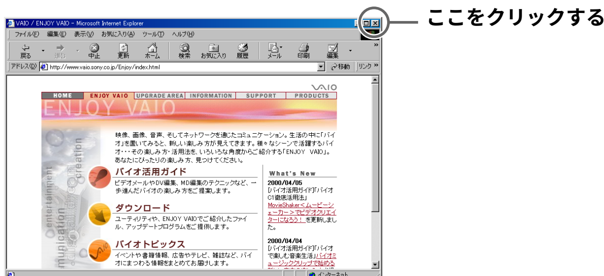
ENJOY VAIOのホームページが表示されます。



4 「Internet Explorer」ソフトウェアを終了する

最後に「Internet Explorer」ソフトウェアを終了させます。

1 画面右上の（閉じるボタン）をクリックする。



2 デスクトップ画面右下のを右クリックして表示されるメニューから［切断］をクリックする。

インターネットへの接続が切断されます。

ご注意

インターネットに接続している間は、ホームページを見たり、電子メールを送受信するなどの操作を行っていないときでも、通話料やインターネットサービスプロバイダへの接続料金がかかります。また、「Internet Explorer」ソフトウェアを終了しても、インターネットへの接続は解除されません。ホームページを見ている間など、操作を行わないときや、操作を終わった後などは、インターネットへの接続を切断してください。

「Internet Explorer」ソフトウェアについて詳しくは、ヘルプをご覧ください。「Internet Explorer」のヘルプを見るときは、［ヘルプ］をクリックしてください。

ここをクリックする



電子メールをやりとりする

インターネットを通して、文章や画像などを相手に送ることができます。これを「電子メール」と言います。
ここでは「Outlook Express」ソフトウェアを使って、自分あてに電子メールを出してみましょう。

 **ちょっと一言**

電子メールをやりとりするには、あらかじめ電子メールソフトウェアの設定が必要です。詳しくは、別冊の「はじめにお読みください」の「インターネットを始める」をご覧ください。

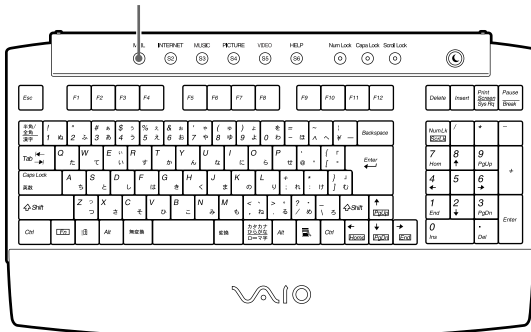
1 「Outlook Express」ソフトウェアを起動する

まず、「Outlook Express」ソフトウェアを起動します。

1 キーボードのS1キーを押す。

［メッセージの作成］ウィンドウが表示されます。

S1キー



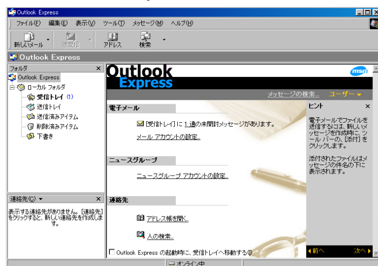


ちょっと一言

以下の方法でも「Outlook Express」ソフトウェアを起動できます。

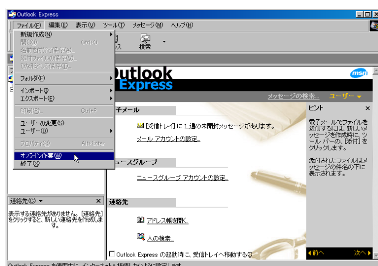
- デスクトップ画面上の (Outlook Express) をダブルクリックする。
- デスクトップ画面左下の スタート をクリックし、［プログラム］にポインタを合わせ、［Outlook Express］をクリックする。

「Outlook Express」ソフトウェアが起動します。



2 ［ファイル］をクリックして、表示されるメニューから［オフライン作業］をクリックする。

「オフライン作業」の前にチェックがつきます。



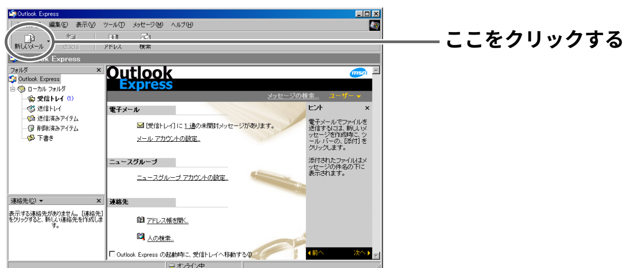
ちょっと一言

インターネットに接続している間は、電子メールを送受信していないときでも通話料やインターネットサービスプロバイダへの接続料金がかかります。
電子メールの文章を作成するときは、インターネットに接続している必要はないので、手順2を行いインターネットへの接続を切断します。

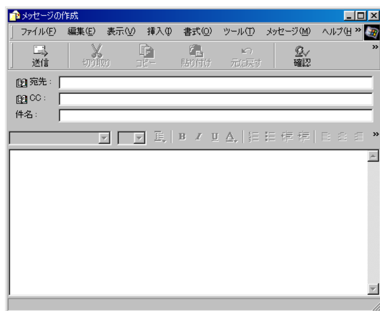
2 電子メールを作成して送る

次に、電子メールを作成して自分に送ってみましょう。
電子メールを送るときは、送り先の電子メールのあて先を指定します。このあて先のことを「電子メールアドレス」と言います。ここでは例として、自分の電子メールアドレスを入力します。

1 ［新しいメール］をクリックする。

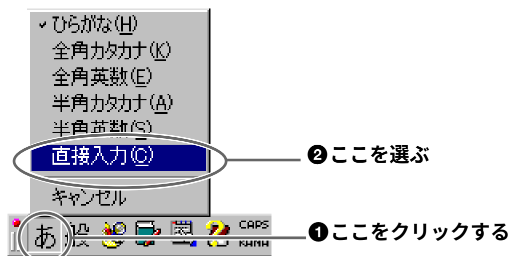


「メッセージの作成」ウィンドウが表示されます。

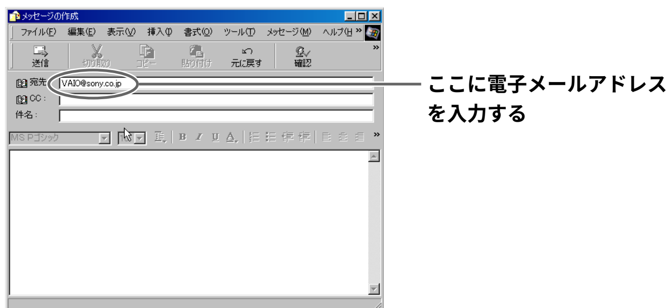


2 **デスクトップ画面右下のMS-IMEツールバー左側の［あ］をクリックして［直接入力］を選ぶ。**

ツールバーの表示が［␣A］になり、アルファベットが入力できる状態になります。



3 **［宛先］欄をクリックしてから、自分の電子メールアドレスを入力する。**

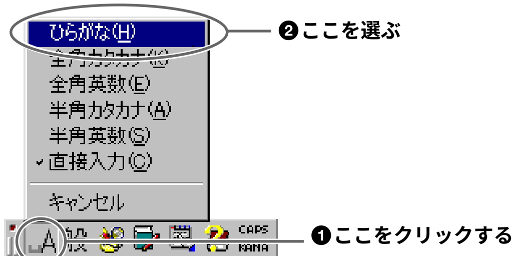


ご注意

- 「sony.co.jp」の「.」も必ず入力してください。
- 本書に記載されているのは、架空の電子メールアドレスです。この電子メールアドレスを入力しても電子メールは届きません。

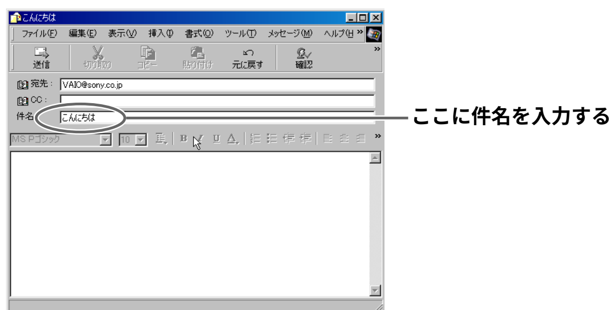
4 **デスクトップ画面右下のMS-IMEツールバー左側の［␣A］をクリックして［ひらがな］を選ぶ。**

ツールバーの表示が［あ］になり、日本語が入力できる状態になります。



次のページにつづく

5 ［件名］欄をクリックしてから、件名を入力する。



6 ［本文］欄をクリックしてから、本文を入力する。

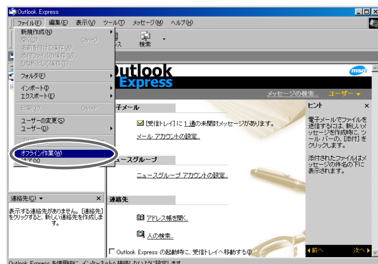
文字の入力のしかたについて詳しくは、別冊の「はじめにお読みください」の「文字の入力を練習する（キーボードの使いかた）」をご覧ください。



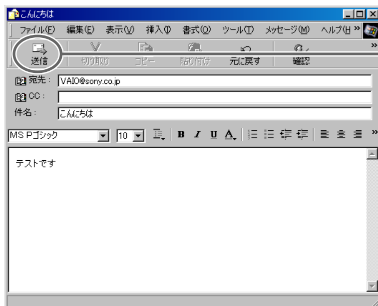
これで電子メールの完成です。

7 ［ファイル］メニューから［オフライン作業］を選ぶ。

「オフライン作業」の前のチェックがはずれます。



8 ［送信］をクリックする。

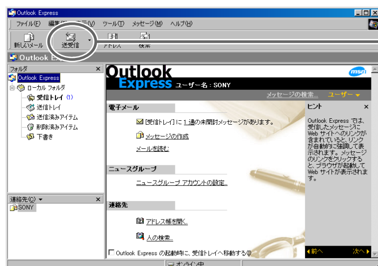


電子メールが送信されます。

3 電子メールを受け取る

次にさきほど自分あてに出した電子メールアドレスを受け取ってみましょう。

1 ［送受信］をクリックする。



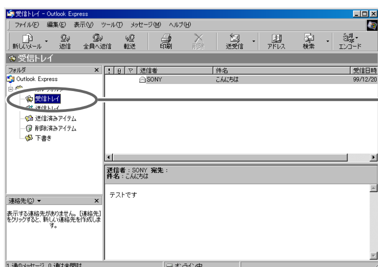


ちょっと一言

電子メールが届くまでには、しばらく時間がかかります。送信後、しばらくしてからクリックしてください。

2 ［受信トレイ］をクリックする。

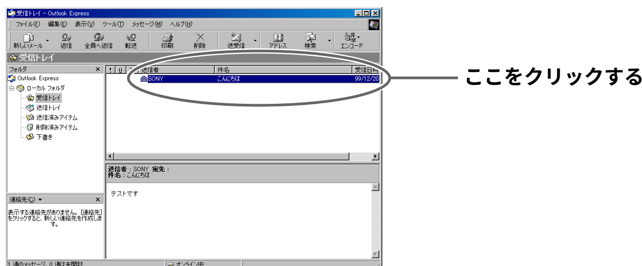
受信したメッセージが表示されます。



次のページにつづく

3 受信したメッセージをクリックする。

本文が表示されます。

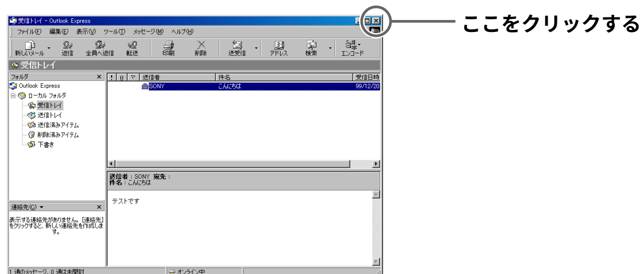


4 「Outlook Express」ソフトウェアを終了する

最後に「Outlook Express」ソフトウェアを終了させます。

1 画面右上の ✕（閉じるボタン）をクリックする。

「Outlook Express」ソフトウェアが終了します。



2 デスクトップ画面右下の をを右クリックして表示されるメニューから［切断］をクリックする。

インターネットへの接続が切断されます。

ご注意

インターネットに接続している間は、ホームページを見たり、電子メールを送受信するなどの操作を行っていないときでも、通話料やインターネットサービスプロバイダへの接続料金がかかります。また、「Outlook Express」ソフトウェアを終了しても、インターネットへの接続は解除されません。電子メールを書いている間や読んでいる間など、操作を行わないときや、操作を終わった後などは、インターネットへの接続を切断してください。

動画で楽しむ

本機にi.LINK対応機器から動画を取り込み、動画を加工／編集したり、電子メールに添付して送ったりして楽しむことができます。

ここでは本機を使ってできる以下の動画の楽しみかたを説明します。

- i.LINK対応機器から動画を取り込む
- 動画を加工／編集する
- 動画を電子メールで送る

ちょっと一言

本機を使って、i.LINK対応機器から動画を取り込むには別売りの i.LINKケーブルが必要です。詳しくは、「必要な i.LINKケーブル」（89ページ）をご覧ください。

i.LINK対応機器から動画を取り込む

付属の「DVgate Motion」または「Smart Capture」ソフトウェアを使って、デジタルビデオカメラレコーダーなどのi.LINK対応機器から動画を本機に取り込めます。以下の流れに沿って動画を取り込みます。

i.LINK対応機器を本機に接続する

i.LINK対応機器の接続について詳しくは、「i.LINK対応機器をつなぐ」（84ページ）をご覧ください。

↓

「DVgate Motion」または「Smart Capture」ソフトウェアを起動する

起動後は、「DVgate Motion」または「Smart Capture」ソフトウェアを使って動画を取り込みます。各ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「DVgate」または「Smart Capture」ソフトウェアのオンラインマニュアルをご覧ください。

ご注意

- ディスプレイの表示を、解像度を高く、リフレッシュレートを高く、また表示色数を多く設定したとき、動画がスムーズに表示されないことがありますが、取り込む動画に影響はありません。ディスプレイの設定を変更するときは、「ディスプレイの設定を変更する」(105ページ)をご覧ください。
- 「DVgate Motion」ソフトウェアを使って取り込む動画データは容量が大きいので、本機では、ハードディスクがC:ドライブとD:ドライブの2つに分かれており(お買い上げ時)、動画を扱うためのデータのスペースとしてD:ドライブが確保されています。お使いになる状況によって、D:ドライブに割り当てられている容量を変えることができます。パーティションサイズを変更するには、「パーティションサイズを変更する」(149ページ)をご覧ください。

 **リフレッシュレートとは**

コンピュータでは、ディスプレイ上の表示を一定の間隔で書き換えています。この書き換えの間隔のことをリフレッシュレートといいます。数値が多い方が書き換えが高速で、目に優しい表示ですが、コンピュータによって、リフレッシュレートには上限があります。「最適」を選択すると、最適な値が自動的に設定されます。

動画を加工/編集する

i.LINK対応機器で録画した動画を本機に取り込んで加工/編集することができます。不要なシーンを切り取ったり、複数の動画をつなげるといった加工をするときは付属の「DVgate Assemble」ソフトウェアを使います。
また付属の「MovieShaker」ソフトウェアを使うと、動画と動画をつなぐオーバーラップ効果や色の調整、特殊効果、テキスト文字の挿入などさまざまなビデオ編集ができます。加工/編集した動画はi.LINK対応機器に録画することもできます。

i.LINK対応機器から動画を取り込む

「DVgate Motion」ソフトウェアを使って、i.LINK対応機器から動画を取り込みます。
i.LINK対応機器からの動画の取り込みかたについては、「i.LINK対応機器から動画を取り込む」(73ページ)をご覧ください。

動画の簡単な加工をする

「DVgate Assemble」ソフトウェアを使って動画を加工します。
「DVgate Assemble」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「DVgate」ソフトウェアのオンラインマニュアルをご覧ください。

動画を編集する

「MovieShaker」ソフトウェアを使って動画を編集します。
「MovieShaker」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「MovieShaker」のオンラインマニュアルをご覧ください。

動画を電子メールで送る

i.LINK対応機器から取り込んだ動画を電子メールに添付して送ることができます。動画をメールに添付して送るには、付属の「Smart Capture」ソフトウェアを使い、以下の流れに沿って行います。

i.LINK対応機器から動画を取り込む

「Smart Capture」ソフトウェアを使ってi.LINK対応機器から動画を取り込みます。
i.LINK対応機器からの動画の取り込みかたについては、「i.LINK対応機器から動画を取り込む」（73ページ）をご覧ください。

動画を電子メールで送る

「Smart Capture」ソフトウェアを使って動画を電子メールで送ります。
「Smart Capture」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「Smart Capture」のオンラインマニュアルをご覧ください。

静止画で楽しむ

本機にi.LINK対応機器から静止画を取り込み、静止画を電子メールに添付して送ったり、パノラマ画像や写真入りのラベルを作ったりして楽しむことができます。

ここでは本機を使ってできる以下の静止画の楽しみかたを説明します。

- i.LINK対応機器から静止画を取り込む
- 静止画を電子メールで送る
- パノラマ画像を作る
- 写真入りのラベルを作る

ちょっと一言

本機を使って、i.LINK対応機器から静止画を取り込むには、別売りの i.LINKケーブルが必要です。詳しくは、「必要な i.LINKケーブル」（89ページ）をご覧ください。

i.LINK対応機器から静止画を取り込む

付属の「DVgate Still」または「Smart Capture」ソフトウェアを使って、デジタルビデオカメラレコーダーなどのi.LINK対応機器で録画した映像から、お好みの場面を静止画として本機に取り込めます。
以下の流れに沿って静止画を取り込みます。

i.LINK対応機器を本機に接続する

i.LINK対応機器の接続について詳しくは、「i.LINK対応機器をつなぐ」（84ページ）をご覧ください。

↓

「DVgate Still」または「Smart Capture」ソフトウェアを起動する

起動後は、「DVgate Still」または「Smart Capture」ソフトウェアを使って静止画を取り込みます。各ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「DVgate」または「Smart Capture」ソフトウェアのオンラインマニュアルをご覧ください。

ご注意

ディスプレイの表示を、解像度を高く、リフレッシュレートを高く、また表示色数を多く設定したとき、動画がスムーズに表示されないことがありますが、取り込む静止画に影響はありません。ディスプレイの設定を変更するときは、「ディスプレイの設定を変更する」（105ページ）をご覧ください。

 **リフレッシュレートとは**

コンピュータでは、ディスプレイ上の表示を一定の間隔で書き換えています。この書き換えの間隔のことをリフレッシュレートといいます。数値が多い方が書き換えが高速で、目に優しい表示ですが、コンピュータによって、リフレッシュレートには上限があります。「最適」を選択すると、最適な値が自動的に設定されます。

静止画を電子メールで送る

i.LINK対応機器から取り込んだ静止画を電子メールに添付して送ることができます。静止画をメールに添付して送るには、付属の「Smart Capture」ソフトウェアを使い、以下の流れに沿って行います。

i.LINK対応機器から静止画を取り込む

「Smart Capture」ソフトウェアを使ってi.LINK対応機器から静止画を取り込みます。
i.LINK対応機器からの静止画の取り込みかたについては、「i.LINK対応機器から静止画を取り込む」（76ページ）をご覧ください。

↓

静止画を電子メールで送る

「Smart Capture」ソフトウェアを使って静止画を電子メールで送ります。「Smart Capture」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「Smart Capture」のオンラインマニュアルをご覧ください。

パノラマ画像を作る

本機に取り込んだ静止画を何枚かつなげて、パノラマ画像を作ることができます。パノラマ画像を作るには、付属の「PictureGear」ソフトウェアを使い、以下の流れに沿って行います。

パノラマ画像の作成に必要な静止画を撮影する

デジタルビデオカメラレコーダーなどのi.LINK対応機器で、パノラマ画像作成に使用する静止画を撮影します。デジタルビデオカメラレコーダーの使いかたについて詳しくは、デジタルビデオカメラレコーダーに付属の取扱説明書をご覧ください。

静止画を取り込む

i.LINK対応機器から静止画を取り込みます。
i.LINK対応機器からの静止画の取り込みかたについては、「i.LINK対応機器から静止画を取り込む」（76ページ）をご覧ください。

「PictureGear」ソフトウェアを起動する

起動後は、「PictureGear」ソフトウェアを使ってパノラマ画像を作ります。「PictureGear」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「PictureGear」のオンラインマニュアルおよびヘルプをご覧ください。

写真入りのラベルを作る

本機に取り込んだ静止画を使ったラベルを作成し、印刷してフロッピーディスクのケースなどに貼ることができます。写真入りのラベルを作るには、付属の「PictureGear」ソフトウェアを使い、以下の流れに沿って行います。

ラベルに入れる静止画を撮影する

デジタルビデオカメラレコーダーなどのi.LINK対応機器で、ラベル作成に使用する静止画を撮影します。デジタルビデオカメラレコーダーの使いかたについて詳しくは、デジタルビデオカメラレコーダーに付属の取扱説明書をご覧ください。

静止画を取り込む

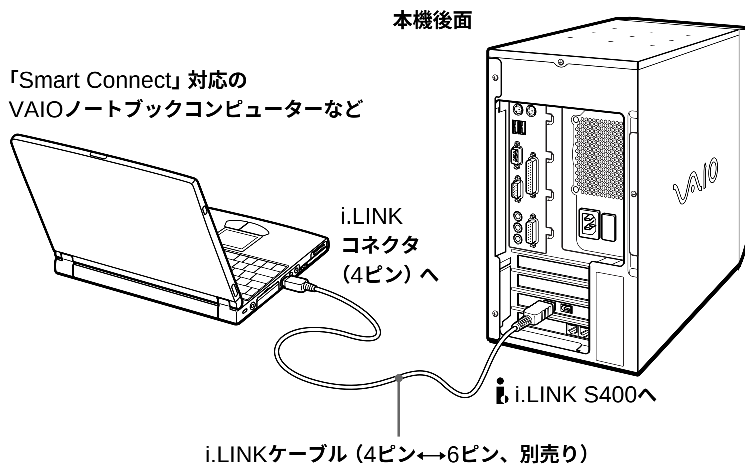
i.LINK対応機器から静止画を取り込みます。
i.LINK対応機器からの静止画の取り込みかたについては、「i.LINK対応機器から静止画を取り込む」（76ページ）をご覧ください。

「PictureGear」ソフトウェアを起動する

起動後は、「PictureGear」ソフトウェアを使って静止画や文字をレイアウトして、写真入りのラベルを作ります。「PictureGear」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「PictureGear」のオンラインマニュアルおよびヘルプをご覧ください。

「Smart Connect」対応のVAIOとデータをやりとりする

「Smart Connect」に対応したVAIOと本機を、別売りのi.LINKケーブル（4ピン←→6ピンまたは6ピン←→6ピン）で接続すると、お互いのファイルをコピーしたり、削除、編集などを行うことができます。また、接続先のVAIOにつないだプリンタを使って印刷することもできます。
使いかたについて詳しくは、「Smart Connect」のヘルプをご覧ください。
i.LINK接続については、「i.LINK対応機器をつなぐ」（84ページ）をご覧ください。



ちょっと一言

「Smart Connect」を使ったデータのやりとりの状態は、「Smart Connectモニタ」で確認できます。デスクトップ画面右下のタスクトレイの をダブルクリックして確認します。詳しくは、「Smart Connectモニタ」のヘルプをご覧ください。

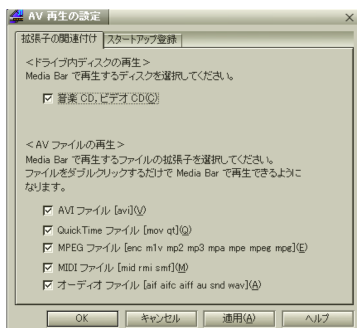
ご注意

「Smart Connect」を使って他のVAIOと接続しているときに、「DVgate」、「Smart Capture」のいずれかのソフトウェアを起動すると、本機が正常に動作しなくなることがあります。「Smart Connect」を使って他のVAIOと接続しているときは、これらのソフトウェアは起動しないでください。

音楽CD／ビデオCDを再生する

付属の「Media Bar」ソフトウェアを使って、音楽CDやビデオCDを再生して楽しむことができます。音楽CDを再生して音楽を聞きながら、他のソフトウェアを操作することもできます。（一部ソフトウェアを除きます。）
「Media Bar」ソフトウェアを使うとMIDIファイルなどの音声・動画ファイルを再生することもできます。
「Media Bar」ソフトウェアを使うには以下の手順に従って操作してください。

1 初めて「Media Bar」ソフトウェアを使うときはデスクトップ画面上の（AV再生の設定）をクリックする。
「AV再生の設定」画面が表示されます。



2 画面の指示に従って各チェックボックスをクリックしてから、 OK をクリックする。
「Media Bar」操作画面が表示されます。



3 再生する。
「Media Bar」ソフトウェアの使いかたについては、「Media Bar」の取扱説明書をご覧ください。

ちょっと一言

一度上記の流れに従って「Media Bar」ソフトウェアの再生のための設定を終了すると、(AV再生の設定）は表示されず、2回目以降はすぐに再生を楽しむことができます。再度設定を行いたい場合は、デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［プログラム］にポインタを合わせ、［Media Bar］から［AV再生の設定］をクリックします。

拡張編

i.LINK対応機器をつなぐ

デジタルビデオカメラレコーダーなどのi.LINK対応機器を本機につないで、動画や静止画を取り込んだり、本機から動画を送出してテープに録画できます。

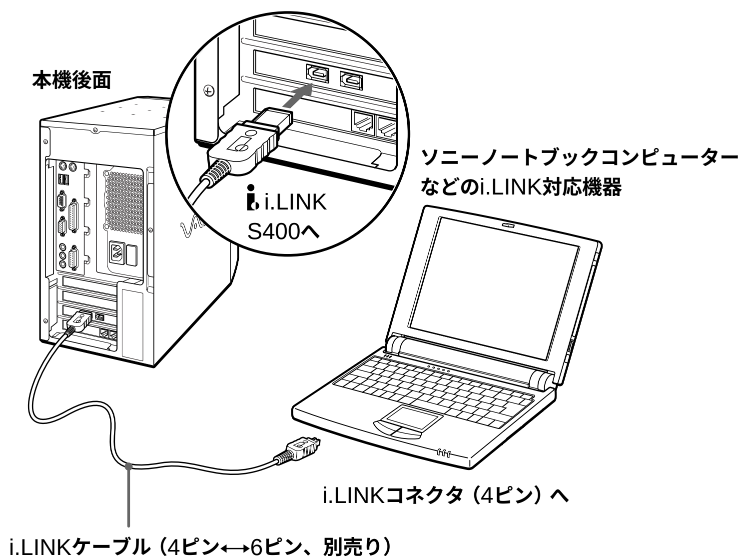
ご注意

- i.LINKを使った接続や操作には、機器によって異なるものがあります。接続に必要なケーブルや、操作できる機器について詳しくは、「必要なi.LINKケーブル」（89ページ）および「本機と操作できるi.LINK対応機器」（89ページ）をご覧ください。
- デジタルビデオカメラレコーダーを接続するときは一度電源を切ってから接続し、電源を入れ直してください。本機の電源は切る必要はありません。
- 一度に接続できるデジタルビデオカメラレコーダーは1台のみです。同時に2台以上のデジタルビデオカメラレコーダーを接続することはできません。
- 本機のi.LINKコネクタは最大400Mbpsのデータ転送に対応していますが、実際の転送速度は接続したi.LINK対応機器の転送速度により変わります。
- 接続のしかたや画像の取り込みかたは、接続するi.LINK対応機器や使用するソフトウェアによって異なります。詳しくは、i.LINK対応機器の取扱説明書や、本機に付属の「DVgate」などの各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

 **ちょっと一言**

i.LINK対応機器をつないだときに自動的にお好みのソフトウェアが起動するように設定することができます。詳しくは「VAIO Action Setup」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

i.LINKケーブル（別売り）を使って、本機とi.LINK対応機器をつなぎます。
i.LINK対応機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。



i.LINKとは？

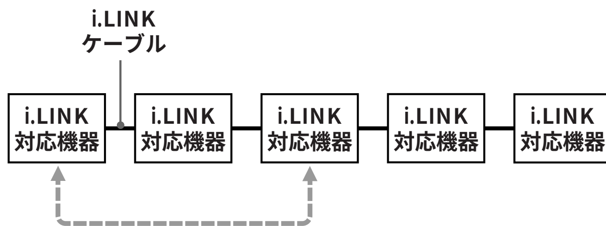
i.LINKは、i.LINKコネクタを持つ機器間で、デジタル映像やデジタル音声などのデータを双方向でやりとりしたり、他機をコントロールしたりするためのデジタルシリアルインターフェイスです。
i.LINK対応機器は、i.LINKケーブル1本で接続できます。多彩なデジタルAV機器を接続して、さまざまな操作やデータのやりとりができます。また将来、さらに多様な機器を接続して、操作やデータのやりとりができることが考えられています。
複数のi.LINK対応機器を接続した場合、直接つないだ機器だけではなく、他の機器を介してつながれている機器に対しても、操作やデータのやりとりができます。このため、機器を接続する順序を気にする必要はありません。
ただし、接続する機器の特性や仕様によっては、操作のしかたが異なったり、接続しても操作やデータのやりとりができない場合があります。

ちょっと一言

- i.LINK（アイリンク）はIEEE1394の親しみやすい呼称としてソニーが提案し、国内外多数の企業からご賛同いただいている商標です。
  IEEE1394は電子技術者協会によって標準化された国際標準規格です。
- 著作権保護に対応したi.LINK対応機器には、デジタルデータのコピー・プロテクション技術が採用されています。
  この技術のひとつは、DTLA（The Digital Transmission Licensing Administrator）というデジタル伝送における著作権保護技術の管理運用団体から許可を受けているものです。
  このDTLAのコピー・プロテクション技術を搭載している機器間では、コピーが制限されている映像／音声／データにおいて、i.LINKでのデジタルコピーができない場合があります。
  また、DTLAのコピー・プロテクション技術を搭載している機器と搭載していない機器との間では、i.LINKでデジタルの映像／音声／データのやりとりができない場合があります。

i.LINKでの接続について

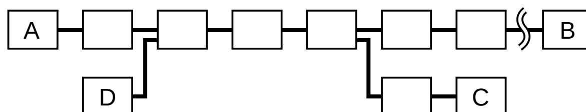
i.LINK対応機器は、i.LINKケーブルで数珠つなぎにして接続します。このような接続のしかたを「デイジー・チェーン」と呼びます。



2つの機器の間に他の機器がつながれていても、操作やデータのやりとりを行うことができます。

途中から分岐してつなぐこともできます

- i.LINKコネクタを3つ以上持つ機器の場合、途中から分岐してつなぐこともできます。
- i.LINKの規格上、i.LINK対応機器は本機を含めて63台まで接続できます。ただし、一番長い経路の接続は17台までです。（i.LINKケーブルは、一番長い経路に対して連続して16本まで使用することができます。）
  ひとつの経路に対して使用したi.LINKケーブルの数を「ホップ」と呼びます。例えば、下図のA→Cの経路は6ホップ、A→Dの経路は3ホップとなります。

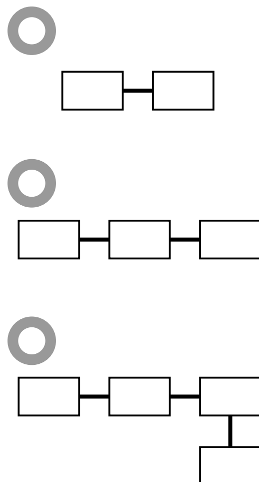


A→B、A→C、A→D、B→C、B→D、C→D、**いずれの経路も最大17台の機器を接続できます（最大16ホップ）。**

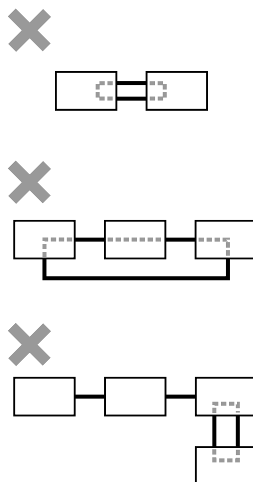
接続が輪にならないようにご注意ください

デジタル信号は、接続したすべてのi.LINKケーブルに流れます。信号を出力した機器に同じ信号が戻らないよう、接続が輪にならないようにつないでください。接続が輪（環状）になることを「ループ」と呼びます。

正しい接続例



ループの接続例



接続についてのご注意

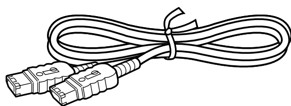
- パソコンなど一部のi.LINK対応機器の中には、電源が切られていたり、省電力モードに入っているとデータを中継しない機器があります。i.LINKでの接続の際は、接続する機器の取扱説明書もご覧ください。
- i.LINK対応機器には、その機器が対応している最大データ転送速度がi.LINKコネクタの周辺に表記されています。i.LINKの最大データ転送速度は、約100／200／400Mbpsが定義されており、200MbpsのものはS200、400MbpsのものはS400と表記されます。最大データ転送速度が異なる機器を接続した場合や、機器の仕様により、実際の転送速度が表記と異なることがあります。

必要なi.LINKケーブル

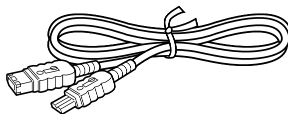
ソニーのi.LINKケーブルをお使いください

i.LINK対応機器の接続には、本機で操作できるi.LINK対応機器に付属のi.LINKケーブルまたは、次ページのソニー製i.LINKケーブル（別売り）をお使いください。

6ピン←→6ピン
- VMC-IL6615A（1.5 m）
- VMC-IL6635A（3.5 m）



4ピン←→6ピン
- VMC-IL4615A（1.5 m）
- VMC-IL4635A（3.5 m）



ご注意

DVケーブルはご使用になれません。

本機と操作できるi.LINK対応機器

本機では、下記のi.LINK対応機器と組み合わせて操作できます。
（2000年5月10日現在）

- i.LINKコネクタを持つソニーパーソナルコンピューター
- i.LINKコネクタを持つソニーノートブックコンピューター*

 * 別売りのパワーアップステーションやポートリプリケーターを取り付ける必要があるモデルがあります。
 取り付けかたについて詳しくは、お使いのノートブックコンピュータの取扱説明書をご覧ください。

- ソニーi.LINK CD-RWドライブ PCVA-CRW1
- ソニーが2000年4月末日までに日本国内で発売した、DV端子付きの家庭用DV機器（メディアコンバーターおよびDigital 8デジタルビデオカメラレコーダーを含む、ツーリストモデルは除く）

ご注意

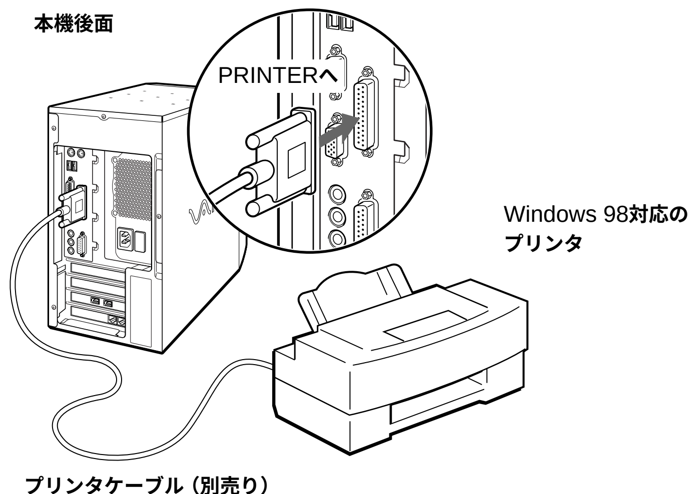
本機はDTLAコピー・プロテクション技術（86ページ）に対応していないため、デジタルCSチューナーやD-VHSビデオデッキなどのDTLAコピー・プロテクション技術に対応した機器に接続しても操作することはできません。

プリンタをつなぐ

Windows 98に対応しているプリンタを本機につないで、作成した書類などを印刷できます。
プリンタに付属または別売りのプリンタケーブルを使って本機につなぎます。

ご注意

- すべての機器の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてから接続してください。
- 接続後は、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。
- Windows 98に対応していないプリンタを本機につないでも、正常に動作しません。



プリンタを使用するには

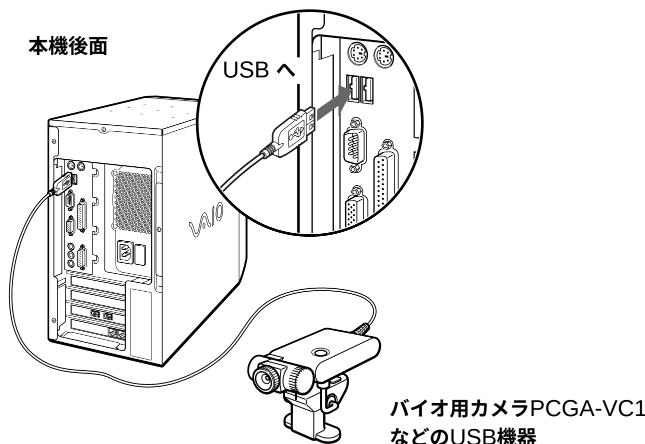
プリンタを使用するには、プリンタに付属のドライバを本機にインストールする必要があります。
詳しくはプリンタおよび付属のMicrosoft Windows 98のファーストステップガイドをご覧ください。

 **ドライバとは**

どのような周辺機器がどのように接続されているかをコンピュータ側に知らせ、周辺機器を正しく動かすために必要なソフトウェアです。プリンタのドライバを本機にインストールすることにより、本機からプリンタの動作をコントロールできるようになります。

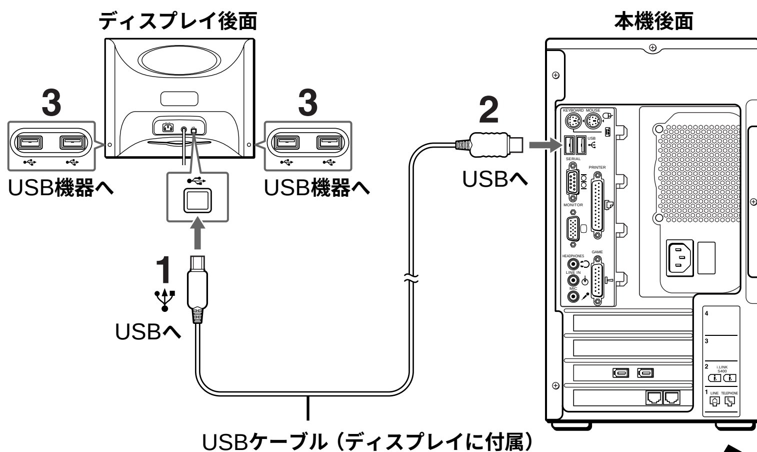
USB機器をつなぐ

本機の後面にあるUSBコネクタを使って、バイオ用カメラPCGA-VC1などのUSB機器をつなぐことができます。接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。



付属のディスプレイをUSB機器のハブ（中継点）として使うときは

付属のディスプレイはUSB機器のハブ（中継点）の役割を果たすため、ディスプレイのUSBコネクタを使って、USB機器を簡単につなげます。ディスプレイをUSB機器のハブ（中継点）として使うときは、ディスプレイに付属のUSBケーブルを使い、以下の手順に従ってつないでください。



次のページにつづく

ご注意

USBコネクタには正方形と長方形の2つの形状があります。USBケーブルをつなぐときは、プラグの形状を間違わないようにご注意ください。

1 **付属のUSBケーブルをディスプレイのアップストリーム端子（正方形の ⭠）につなぐ。**

2 **USBケーブルのもう一方を本機後面パネルのUSBコネクタ（長方形の ⭠）につなぐ。**

 **ちょっと一言**

本機のUSBコネクタは2つあります。USBケーブルはどちらにつないでもかまいません。

3 **USB機器をディスプレイのダウンストリーム端子（長方形の ⭠）につなぐ。**

ご注意

- ディスプレイがUSB機器のハブ（中継点）として機能するのは、省電力状態も含めてディスプレイの電源が入っているときのみです。
- 本機の動作中に、ディスプレイの電源を切り、再度電源を入れた場合、以下のような画面が表示されることがあります。この場合は、リセット(R) をクリックして画面を閉じてください。



- USB機器によっては、ハブ（中継点）に対応していないものがあります。この場合は、本機後面パネルのUSBコネクタにつないでお使いください。

ジョイスティック／MIDI機器をつなぐ

ジョイスティックをつないでゲームをよりリアルに楽しんだり、MIDI（Musical Instrument Digital Interface）に対応した電子楽器をつないで音楽を楽しめます。

ご注意

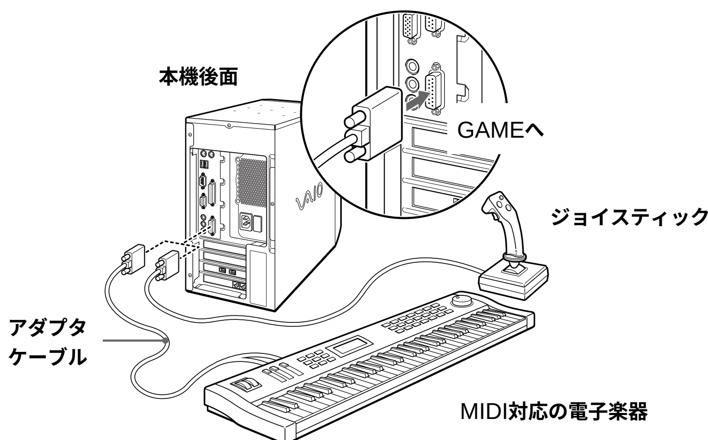
- すべての機器の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてから接続してください。
- 接続後は、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。

ジョイスティックとは

ゲームなどでよく使われる操作用の機器です。方向をコントロールする柄の部分と、操作をコントロールするボタンから成っています。ジョイスティックを使うと、ゲームをよりリアルに楽しむことができます。ジョイスティックをつなぐときは、ジョイスティックの取扱説明書もあわせてご覧ください。

MIDI機器とは

MIDIとは、電子楽器間で情報をやりとりするために決められた通信規格のことです。MIDIに対応した電子機器をつなぐことで、本機からMIDI機器をコントロールして、自動演奏を楽しむことができます。MIDI機器をつなぐときは、電子楽器の取扱説明書もあわせてご覧ください。



ご注意

MIDIに対応していない電子楽器はつなげません。

拡張ボードを増設する

本機では拡張ボードと呼ばれる別売り品を装着することで、さまざまな機能を拡張し、よりご自分にあった作業環境を構築することができます。

拡張ボードの種類

本機では「PCI」という規格に対応した拡張ボードを取り付けることができます。拡張ボードをお買い求めの際は、Windows 98とPCI規格に対応していることをご確認ください。
本機では空きスロット（拡張ボードを増設できる場所）が2か所あり、PCI拡張ボードを2枚取り付けることができます。

拡張ボードの大きさについて

本機に取り付けられる拡張ボードの長さは、約200mmまでです。

 **増設できる拡張ボードについて**

ご購入されるメーカーまたは販売店にお問い合わせください。
VAIOカスタマーリンクのホームページ（http://vcl.vaio.sony.co.jp/）では、増設できる拡張ボードの情報を掲載しています。

プラグアンドプレイについて

「プラグアンドプレイ」とは、拡張ボードを装着するだけで特別な設定をしなくてもすぐに使用できる状態になる機能です。本機に取り付けられるPCI規格の拡張ボードはプラグアンドプレイに対応しています。PCI規格の拡張ボードは、ボードを取り付けた後、リソースの設定が自動的に行われるので、ご自分で面倒な設定をする必要がありません。

リソースについて

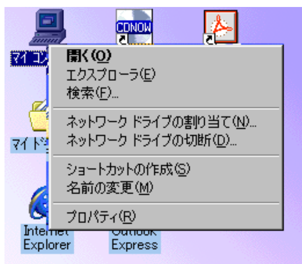
拡張ボードは一般的にそれぞれ専用の割り込み番号（IRQ）、メモリ、I／Oポートなどの「リソース」（資源）を使用します。
PCI規格の拡張ボードではこれらのリソースが自動的に設定されます。

リソースを確認するには

「システムのプロパティ」画面で現在使用中のリソースを確認することができます。以下の手順に従って確認します。

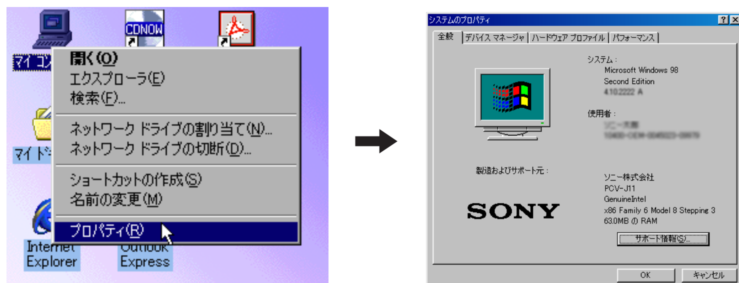
1 デスクトップ画面左上の （マイコンピュータ）を右クリックする。

ショートカットメニューが表示されます。



2 ［プロパティ］をクリックする。

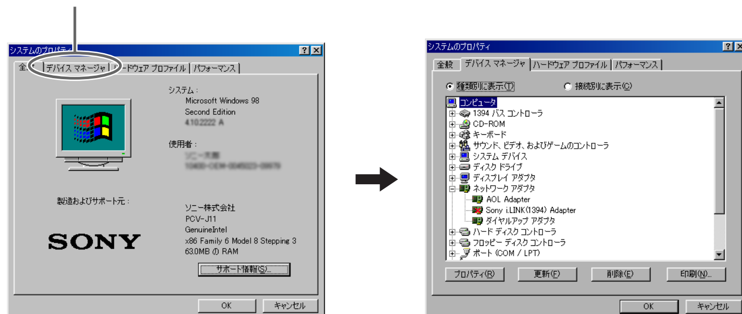
「システムのプロパティ」画面が表示されます。



3 ［デバイスマネージャ］タブをクリックする。

「デバイスマネージャ」画面が表示されます。

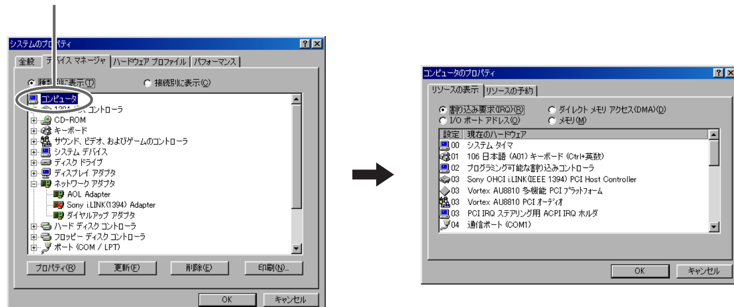
ここをクリックする



4 ［コンピュータ］をダブルクリックする。

「コンピュータのプロパティ」画面が表示され、現在使用中のリソースが表示されます。

ここをダブルクリックする



拡張ボード取り付けの流れ

以下の流れに沿って、拡張ボードを増設します。

本機の電源を切り、電源コードをコンセントから抜く

電源の切りかたについて詳しくは「電源を切る」(27ページ)をご覧ください。

拡張ボードを取り付ける

拡張ボードの取り付けかたについて詳しくは、「拡張ボードを取り付ける」(98ページ)をご覧ください。

電源コードをコンセントに差し込み、本機の電源を入れる

電源の入れかたについて詳しくは「電源を入れる」(26ページ)をご覧ください。

ドライバの設定、インストールを行う

拡張ボードが本機に認識されると、メッセージが表示されるので、拡張ボードの取扱説明書なども参照の上、指示に従って操作してください。


ドライバとは

どのような周辺機器がどのように接続されているかをコンピュータ側に知らせ、周辺機器を正しく動かすために必要なソフトウェアです。拡張ボードを増設したときには、ドライバのインストールが必要となる場合があります。

拡張ボードを取り付ける

以下の手順に従って拡張ボードを取り付けます。

取り付けるときのご注意

拡張ボードの取り付けや取りはずしは、必ず本機および周辺機器の電源コードをコンセントから抜いた状態で行ってください。電源コードを差したまま拡張ボードを取り付けたり取りはずしたりすると、拡張ボードや本機、周辺機器が壊れることがあります。

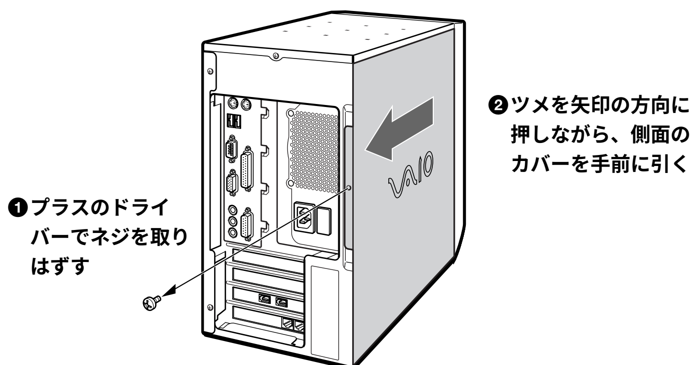
- 拡張ボードの部品には直接手を触れないでください。人体の静電気によって部品が故障することがあります。拡張ボードを触る前には、金属製のものに触れて体内の静電気を放電してください。
- じゅうたんの上など、静電気の発生しやすいところに拡張ボードを放置しないでください。静電気の影響で拡張ボードの部品が壊れてしまうことがあります。
- コネクタ部に直接手を触れないようにご注意ください。
- 拡張ボード内部には精密な電子部品があります。落としたり、強い衝撃を与えないようにご注意ください。
- 拡張ボードを本機から取りはずすときは、必ず本機の拡張ボードの取り扱いかたに従ってください。無理に引き抜くと拡張ボードや本機の故障の原因になります。
- 拡張ボードを水で濡らさないでください。
- 拡張ボード増設の際に異物（ネジなどの金属物など）が本機内部に混入したままの状態で電源を入れると、発煙の恐れがあります。必ず異物を取り除いて側面のカバーを取り付けてから電源を入れてください。

1　本機と周辺機器の電源を切り、電源コードおよびすべての接続ケーブルを取りはずす。

ご注意

電源を切ったすぐあとは、本機の内部が熱くなっており、やけどをする可能性があります。本機が冷えるのを待ってから作業を行ってください。

2 側面のカバーを取りはずす。

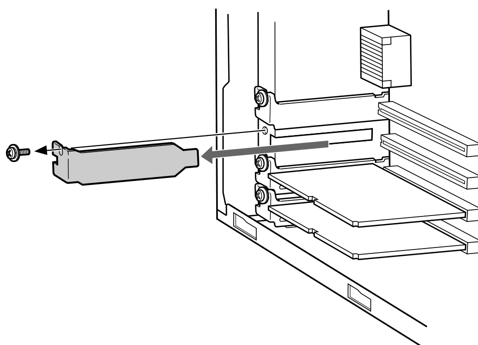


ご注意

取りはずしたネジはカバーを取り付けるときに必要になります。
紛失しないようにご注意ください。

3 拡張ボードを取り付けるスロットのカバーを取りはずす。

スロットのカバーを取り付けているネジをはずし、本体の内部からカバーを取りはずします。



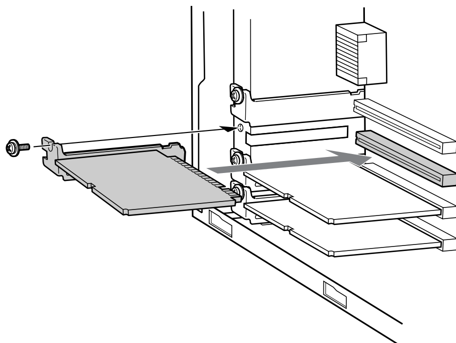
ご注意

内部の基板やケーブル類を傷つけないようにご注意ください。

次のページにつづく

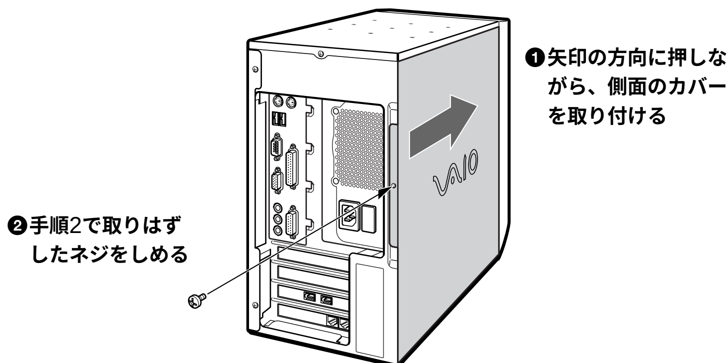
4 拡張ボードを取り付ける。

拡張ボードを空きスロットに合わせて取り付け、ネジで固定します。詳しくは、拡張ボードの取扱説明書をご覧ください。



5 カバーを取り付ける。

側面のカバーを取り付け、ネジをしめます。



6 手順1ではずした周辺機器を接続し、本機の電源を入れる。

Windows 98が起動すると、「新しいハードウェアが検出されました。必要なソフトウェアをインストールしています。」というメッセージが表示されるので、画面の指示とボードの取扱説明書に従って操作します。

拡張ボードを取りはずすには

取り付けとは逆の手順で取りはずします。取りはずしの作業は、本機と周辺機器の電源を切り、電源コードおよびすべての接続ケーブルを取りはずしてから行ってください。

メモリを増設する

メモリを増設すると、データの処理速度や複数のソフトウェアを同時に起動したときの処理速度が向上します。

メモリの増設は本機内部の電源部分やケーブル類を取りはずすなどの作業が必要です。電気的な専門知識が必要な作業ですので、販売店などに取り付けをご依頼ください。メモリーの増設をご自分で行うと、本機が故障したり、手や指をけがする恐れがありますので、絶対に行わないでください。

ソニー製のメモリーモジュールを取り付けるときはVAIOカスタマーリンク修理窓口または販売店にご依頼ください。メモリー増設サービス（有料）をご利用いただけます。
ソニー製のメモリーモジュールは、以下のものが本機に取り付けられます。

容量	メモリーモジュール
64Mバイト	PCVA-MM64Q
128Mバイト	PCVA-MM128Q

ご注意

メモリの増設についてのご相談やご質問は、VAIOカスタマーリンク修理窓口までご連絡ください。

セットアップ編

操作環境を自分の好みに合わせる

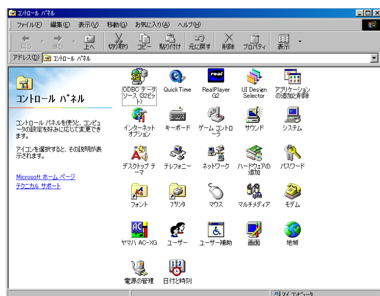
本機の操作環境を自分の好みに合わせて変えることができます。例えば、画面の解像度を変えて表示するウィンドウや文字の大きさを変えたり、画面の背景やスクリーンセーバー（電源を入れたままでコンピュータを長時間使わないときに画面の焼き付きを防ぐために表示される画像）などを変えて、自分に合った環境で使うことができます。操作環境の変更は、Windows 98のコントロールパネルで行います。

コントロールパネルとは

操作環境やハードウェアの環境を設定するためにWindows 98に標準で装備されているツールです。

コントロールパネルを開くには、デスクトップ画面左下の スタート をクリックし、［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックします。

設定したい項目のアイコンをダブルクリックして項目の画面を表示させ、設定を変えます。



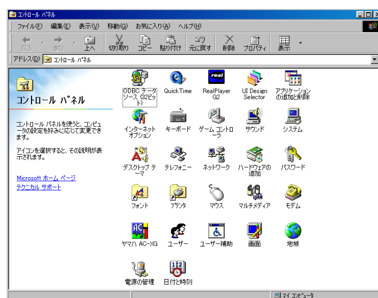
アイコン	できること
(キーボード)	キーボードの設定を変更できます。
(UI Design Selector)	ソニー製ソフトウェアのデザインを変更できます。(120ページ)
(ヤマハ AC-XG)	音質の設定を変更できます。(121ページ)
(サウンド)	Windows 98の起動時や終了時の音、警告音などを変更できます。
(マウス)	ポインタの動きかたを変更したり、ホイール機能の設定ができます。(123ページ)
(マルチメディア)	音や映像の設定を変更できます。
(日付と時刻)	本機に登録してある日付や時刻を変更できます。
(画面)	解像度を変更したり、画面の背景、スクリーンセーバーを変更できます。(105ページ)

ディスプレイの設定を変更する

画面の背景、スクリーンセーバー、ウィンドウの枠の色、デスクトップ画面上のアイコンのデザイン、アクティブデスクトップ、ディスプレイの解像度などの設定を変更するには以下の手順に従ってください。

1 デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。

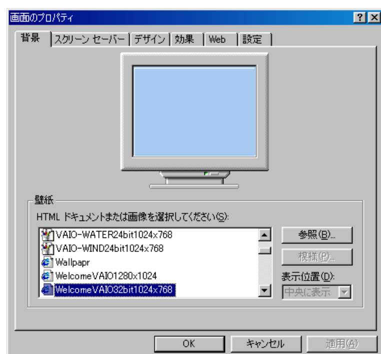
「コントロールパネル」ウインドウが表示されます。



次のページにつづく

2 （画面）をダブルクリックする。

「画面のプロパティ」画面が表示されます。



3 ［背景］、［スクリーンセーバー］、［デザイン］、［効果］、［Web］、［設定］の設定画面をそれぞれ選び、各種の設定を行う。

設定画面を選ぶときは、それぞれの画面のタブをクリックします。



4 設定が終了したら、［OK］または［適用(A)］をクリックする。

手順3で変更した設定が反映されます。

各画面の設定項目については、以下のページをご覧ください。

❑ **背景**（107ページ）

画面の背景について設定する画面です。

❑ **スクリーンセーバー**（108ページ）

スクリーンセーバー、省電力機能について設定する画面です。

❑ **デザイン**（109ページ）

ウィンドウやメニューの枠の色について設定する画面です。

❑ **効果**（110ページ）

アイコンを変更したり視覚効果を設定する画面です。

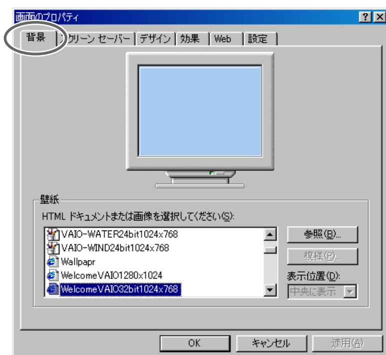
❑ Web（111ページ）

アクティブデスクトップについて設定する画面です。

❑ **設定**（112ページ）

解像度や画面上の文字のサイズなどについて設定する画面です。

背景



❑ 壁紙

表示したい壁紙をクリックして選ぶ。選んだ壁紙が上のディスプレイ画面にプレビュー表示される。

[参照]: クリックすると、壁紙にできる画像ファイルやアクティブデスクトップを使っているときのみインターネットドキュメント（HTML ファイル）を選ぶ画面が表示される。

[模様]: クリックすると、デスクトップに使用する模様を選択する画面が表示される。

表示位置: 壁紙の表示位置を、▼ をクリックしてリストから選ぶ。

中央に表示: 壁紙が画面の中央に表示される。

並べて表示: 壁紙が並べられて画面全体に表示される。

拡大：壁紙が画面全体に拡大されて表示される。

 **壁紙とは**

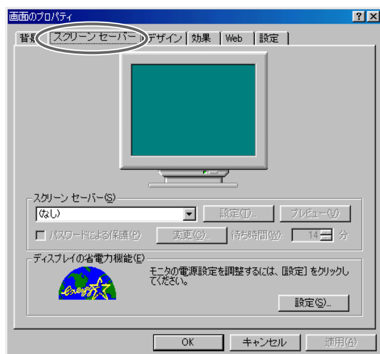
デスクトップ画面の背景を飾る画像のことです。

 **アクティブデスクトップとは**

ホームページなど、インターネットのさまざまな情報を常に表示しておき、インターネットに簡単にアクセスできるデスクトップのことです。

次のページにつづく

スクリーンセーバー



❑ スクリーンセーバー

(なし): 使用するスクリーンセーバーを ▼ をクリックしてリストから選ぶ。

[設定]: クリックすると、選んだスクリーンセーバーを設定する画面が表示される。

[プレビュー]: クリックすると、設定したスクリーンセーバーが画面全体に表示される。

パスワードによる保護: ☐ をクリックして☑にすると、スクリーンセーバーがパスワードで保護される。

[変更]: クリックすると、スクリーンセーバーを保護するパスワードが設定される。

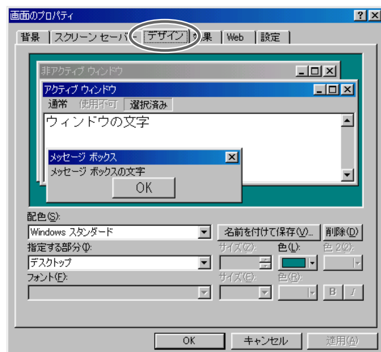
待ち時間: 本機を何分間使わなかったらスクリーンセーバーを画面に表示するかを ⬍ をクリックして選ぶ。

❑ ディスプレイの省電力機能

[設定]: クリックすると、ディスプレイの電源を設定する画面が表示される。

スクリーンセーバーが設定されているときは、スクリーンセーバー実行後、「待ち時間」で設定した時間が経過すると、省電力機能が実行されます。

デザイン



❑ 配色

[Windows スタンダード ▼]: 画面に表示されるウィンドウやメニューの枠の色を ▼ をクリックしてリストから選ぶ。

[名前を付けて保存]: クリックすると、作成した配色に名前をつけて登録する画面が表示される。

[削除]: 名前をつけて登録した配色を削除する。

❑ 指定する部分

[デスクトップ ▼]:「配色」の設定を有効にする部分を選ぶ。

サイズ: 指定する部分の大きさを ▲▼ をクリックして選ぶ。

色: 指定する部分の色を ▼ をクリックして選ぶ。

色2: 色を指定する部分が2つあるときに、もう1つの部分の色を ▼ をクリックして選ぶ。

❑ フォント

[▼]: 画面に表示されるウィンドウやメニューの文字の種類を ▼ をクリックしてリストから選ぶ。

サイズ: 文字の大きさを ▼ をクリックして選ぶ。

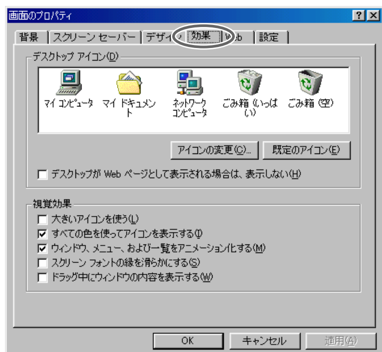
色: 文字の色を選ぶ。

B: クリックすると、文字が太くなる。

I: クリックすると、文字が斜体になる。

次のページにつづく

効果



❑ デスクトップアイコン

変更したいアイコンをクリックして変更します。

[アイコンの変更]: クリックすると、変更できるアイコンの一覧の画面が表示される。

[既定のアイコン]: クリックすると、変更したアイコンをデフォルトのアイコンに戻す。

デスクトップがWebページとして表示される場合は、表示しない: □をクリックして☑にすると、アクティブデスクトップを使用しているときはデスクトップにアイコンを表示しないように設定する。

❑ 視覚効果

大きいアイコンを使う: □をクリックして☑にすると、デスクトップに表示されるアイコンに大きいアイコンを使用する。

すべての色を使ってアイコンを表示する: □をクリックして☑にすると、アイコンを現在のディスプレイの種類と色の設定で使用できるすべての色を使って表示する。

ウィンドウ、メニュー、および一覧をアニメーション化する: □をクリックして☑にすると、画面やメニューの開きかたや閉じかたがアニメーションになる。

スクリーンフォントの縁を滑らかにする: □をクリックして☑にすると、複雑な文字が見やすくなる。

ご注意

この項目をチェックすると、表示スピードが遅くなることがあります。

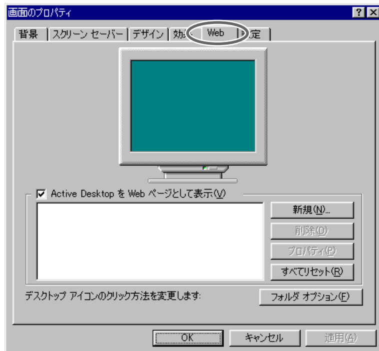
ドラッグ中にウィンドウの内容を表示する:□をクリックして☑にすると、画面をドラッグするときに画面を表示したままドラッグする。

Web

アクティブデスクトップについて設定する画面です。

 **アクティブデスクトップとは**

ホームページなど、インターネットのさまざまな情報を常に表示しておき、インターネットに簡単にアクセスできるデスクトップのことです。



❑ Active DesktopをWebページとして表示

□をクリックして☑にすると、アクティブデスクトップを使用するように設定される。

下のリストのアクティブデスクトップ項目の□をクリックして☑にすると、表示するアクティブデスクトップ項目を選ぶことができます。

[新規]: 新しいアクティブデスクトップ項目をインストールする。

[削除]: 指定したアクティブデスクトップ項目を削除する。

[プロパティ]: 指定したアクティブデスクトップ項目についての詳細が表示される。

[すべてリセット]: デスクトップを標準の設定に戻す。

❑ フォルダオプション

クリックすると、フォルダに関する詳細を設定する画面が表示される。

この項目を選ぶと「画面のプロパティ」画面は保存され、閉じられる。

次のページにつづく

設定



❏ ディスプレイ

接続されているディスプレイが表示される。

❏ 色

[True Color (24 ビット)]: 画面の表示色数を [▼] をクリックしてリストから選ぶ。

ご注意

本機では「True Color（24ビット）」に設定してお使いになることをおすすめします。

❏ 画面の領域

スライダを左右に動かして画面の解像度を設定する。

ご注意

本機では1024×768ピクセルに設定してお使いになることをおすすめします。

❏ Windowsデスクトップをこのモニタ上で移動できるようにする

マルチディスプレイのときに有効になる。

マルチディスプレイとは

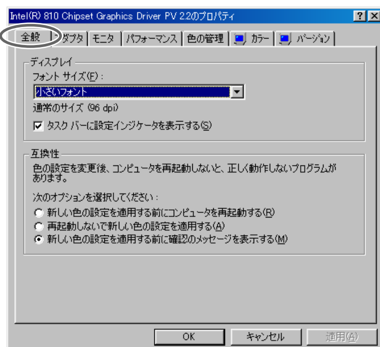
1台のコンピュータに複数のディスプレイを接続して、それぞれに違う画面を表示する機能です。

❏ [詳細]

クリックすると、フォントサイズ、リフレッシュレート、ディスプレイを設定する画面が表示される。

［詳細］をクリックすると、以下のオプションを設定することができます。

全般



- **ディスプレイ**

  フォントサイズ: 画面に表示される文字の大きさの大小を ▼ をクリックしてリストから選ぶ。(解像度が800×600ピクセルより大きい場合のみ選べます。解像度について詳しくは、「画面の領域」(112ページ) をご覧ください。)

  タスクバーに設定インジケータを表示する:

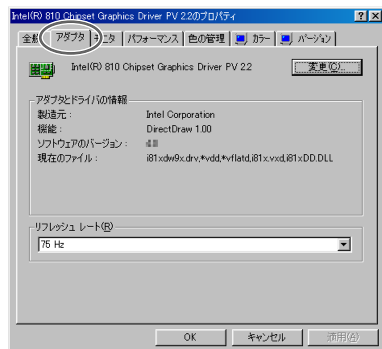
  □ をクリックして☑ にすると、 がデスクトップ画面右下のタスクバーに表示される。

- **互換性**

  ディスプレイの色の設定を変更するときに適用するオプションの ○ をクリックして ◉ にして選ぶ。

次のページにつづく

アダプタ



- **[変更]**
  クリックすると、新しいディスプレイアダプタのソフトウェアをインストールするための画面が表示される。

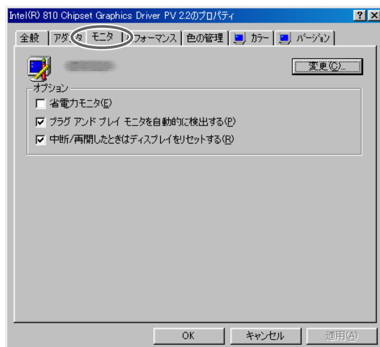
- **アダプタとドライバの情報**
  現在使用しているディスプレイアダプタの情報が表示される。

- **リフレッシュレート**
  変更したいリフレッシュレートを ▼ をクリックしてリストから選ぶ。

 **リフレッシュレートとは**

コンピュータでは、デスクトップ画面上の表示を一定の間隔で書き換えています。この書き換えの間隔のことをリフレッシュレートと言います。数値が多い方が書き換えが高速で、目に優しい表示ですが、コンピュータによって、リフレッシュレートには上限があります。「最適」を選択すると、最適な値が自動的に設定されます。

モニタ



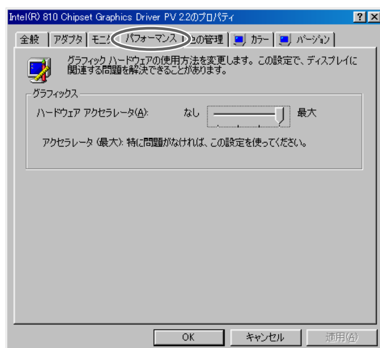
- **[変更]**

  クリックすると、接続されているディスプレイを変更する画面が表示される。

- **オプション**

  それぞれの□をクリックして☑にし、ディスプレイに関するオプションの設定を変更する。

パフォーマンス



- **グラフィックス**

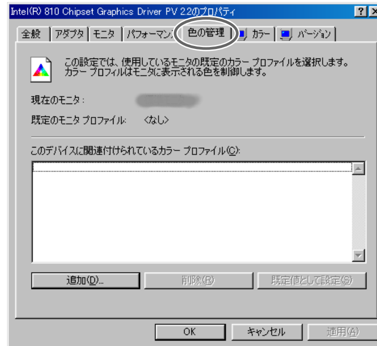
  ハードウェアアクセラレータ: スライダを左右に動かして、ハードウェアアクセラレータの機能をどの程度使うか指定する。



ハードウェアアクセラレータとは

コンピュータの画面表示を高速にしたり、表示できる色数を増やすために、コンピュータに内蔵されている装置のことです。

色の管理



- **現在のモニタ**

  接続されているディスプレイの名前が表示される。

- **既定のモニタ プロファイル**

  接続されているディスプレイの設定のカラープロファイルの名前が表示される。

- **このデバイスに関連付けられているカラープロファイル**

  接続されているディスプレイに現在関連付けられているすべてのカラープロファイルの一覧が表示される。使用するプロファイルをクリックして選ぶ。

- **[追加]**

  クリックすると、このディスプレイに新しく関連付けたいカラープロファイルを選択する画面が表示される。

- **[削除]**

  クリックすると、選択したカラープロファイルを一覧から削除する。

- **[既定値として設定]**

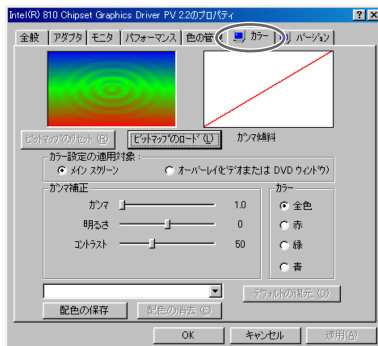
  クリックすると、選択したカラープロファイルを既定のカラープロファイルとして設定する。

 **プロファイルとは**

Windows 98のユーザー設定をまとめたもので、ユーザーごとに保持されます。

カラー

ディスプレイの色の補正を行うための画面です。グラフィックの編集をするときなどに画面に表示される色を調整できます。プリンタで印刷された色と画面に表示される色を合わせたいときに便利です。

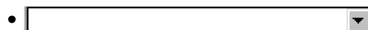


- **[ビットマップのリセット]**
  色の調整を行う際に見本とする画像を初期状態のものに戻す。
- **[ビットマップのロード]**
  色の調整を行う際に見本とする画像を選ぶ画面が表示される。選んだ画像が上に表示される。
- **カラー設定の適用対象**
  メインスクリーン: クリックすると、ディスプレイ画面全体をここでの色の調整の対象とする。
  オーバーレイ(ビデオまたはDVDウィンドウ): クリックすると、ビデオオーバーレイウィンドウのみをここでの色の調整の対象とする。
- **ガンマ補正**
  ガンマ: スライダを左右に動かして、ガンマ(表示されている色の濃度効果)を調整する。
  明るさ: スライダを左右に動かして、色の明るさを調整する。
  コントラスト: スライダを左右に動かして、色のコントラストを調整する。
  彩度: スライダを左右に動かして、色の彩度を調整する。(「カラー設定の適用対象」で「オーバーレイ(ビデオまたはDVDウィンドウ)」を選んだときのみ)

次のページにつづく

- **カラー**

  発色を調整する色を をクリックして にして選ぶ。いずれかの色をクリックして、「ガンマ補正」のスライダを左右に動かして調整する。

- 

  保存した設定値の色の組み合わせをリストから選ぶ。

- **[配色の保存]**

  現在の色の組み合わせを名前を付けて保存する。

- **[配色の消去]**

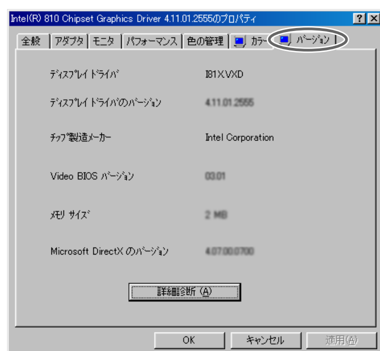
  保存した設定値の色の組み合わせをリストから消す。

- **[デフォルトの復元]**

  色の設定を初期状態に戻す。

バージョン

ディスプレイドライバの名前やバージョンなどの情報を表示する画面です。



- **[詳細診断]**

  クリックすると、コンピュータのグラフィック設定に関する詳細情報を収集できるソフトウェアが起動する。

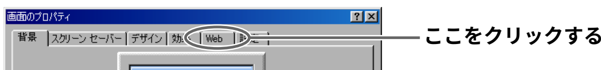
アクティブデスクトップをWindows 98のデスクトップ画面からはずす

本機の初期設定では、「アクティブデスクトップ」が通常のデスクトップ画面になっています。「アクティブデスクトップ」とは、ホームページなど、インターネットのさまざまな情報を常に表示しておき、インターネットに簡単にアクセスできるデスクトップです。
このアクティブデスクトップ画面を、Windows 98のデスクトップ画面に表示しないように変更することもできます。

1 **デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。**
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

2 **（画面）をダブルクリックする。**
「画面のプロパティ」画面が表示されます。

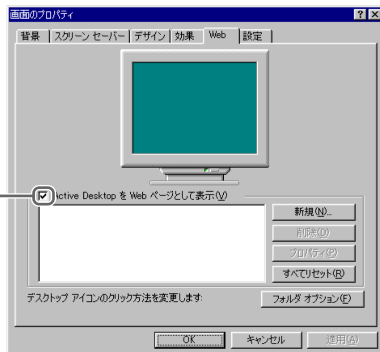
3 **［Web］タブをクリックする。**



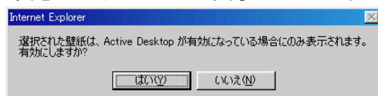
ここをクリックする

4 **［Active DesktopをWebページとして表示］の☑をクリックして□にして、チェックをはずす。**

ここをクリックしてチェックをはずす



5 **OK をクリックする。**
下記のメッセージが表示されます。



6 **いいえ(N) をクリックする。**
Windows 98のデスクトップ画面からアクティブデスクトップがはずれます。

ウィンドウのデザインを変更する

「UI Design Selector」に対応したソニー製ソフトウェアのインターフェイスのデザインを好みに合わせて変更することができます。

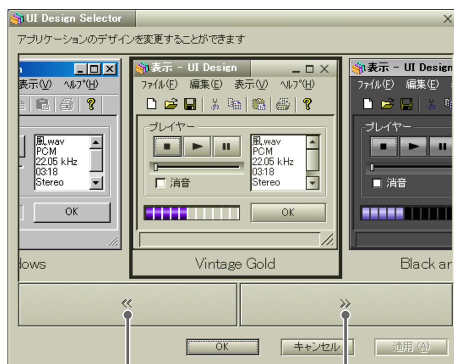
1 デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。

「コントロールパネル」ウインドウが表示されます。

2 (UI Design Selector) をダブルクリックする。

「UI Design Selector」画面が表示されます。

3 ［<<］または［>>］をクリックして、デザインを選ぶ。



ここをクリックしてデザインを選ぶ

4 適用(A) をクリックする。

「UI Design Selector」画面のデザインが変わります。ソニー製ソフトウェアのウィンドウもこの画面と同じデザインになります。

5 デザインを選び直すときは、［<<］または［>>］をクリックする。

6 OK をクリックする。

ソニー製ソフトウェアの画面のデザインが変更され、「UI Design Selector」画面が閉じます。

音質の設定を変更する

MIDIに対応した音楽データやゲームのBGMなどの音質を設定します。

1 デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

2 （ヤマハ AC-XG）をダブルクリックする。

「ヤマハ AC-XG」画面が表示されます。



画面を選ぶときは、それぞれの画面のタブをクリックします。



各画面の設定項目は、以下のとおりです。

概要

バージョンなどの情報が表示される。

シンセ

❑ シンセサイザーエフェクト

各種エフェクト効果を入／切する。

リバーブ: ☐をクリックして☑にすると、残響効果が加わる。

コーラス: ☐をクリックして☑にすると、奥行きや厚みといった音響効果が加わる。

バリエーション: ☐をクリックして☑にすると、さまざまな音響効果が加わる。

次のページにつづく

❑ **発音品質**

ソフトシンセサイザーの音質を ▼ をクリックしてリストから選ぶ。

❑ **[初期値]**: 各種エフェクトやソフトシンセサイザーの音質を初期値に戻す。

エコー

❑ **マイクエコー**

有効：☐をクリックして☑にすると、マイク入力に残響効果が加わる。遅延時間、帰還ゲインをスライダを左右に動かして調整する。

ご注意

マイクエコーが有効になっているときは、録音はできません。

❑ **[初期値]**: マイク入力の残響効果を初期値に戻す。

3 設定が終了したら、 OK をクリックする。

手順2で変更した設定が反映されます。

マウスの設定を変更する

ポインタの動きかたや形など、マウスに関する設定を変更することができます。
ここでは、付属のホイールマウスの設定を変更する方法について説明します。

ご注意

- 付属のマウス以外のマウスを本機につないだときの動作保証はいたしませんのであらかじめご了承ください。
- 「マウスのプロパティ」画面の右下の［ヘルプ］をクリックしたとき表示されるヘルプには、タッチパッド、他のマウスの追加などの説明が含まれていますが、本機ではお使いになれません。

1 デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。

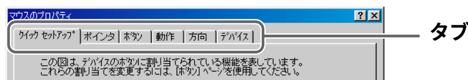
「コントロールパネル」ウインドウが表示されます。

2 （マウス）をダブルクリックする。

「マウスのプロパティ」画面が表示されます。

3 ［クイックセットアップ］、［ポインタ］、［ボタン］、［動作］、［方向］、［デバイス］の設定画面をそれぞれ選び、各種の設定を行う。

設定画面を選ぶときは、それぞれの画面のタブをクリックします。



4 設定が終了したら、 OK または 適用(A) をクリックする。

手順3で変更した設定が反映されます。

次のページにつづく

各画面の設定については、以下のページをご覧ください。

- ❏ **クイックセットアップ（124ページ）**
  本機に接続したマウスのセットアップを行う画面です。
- ❏ **ポインタ（125ページ）**
  ポインタの表示のしかたを設定する画面です。
- ❏ **ボタン（126ページ）**
  マウスのボタンの機能割り当てを設定する画面です。
- ❏ **動作（127ページ）**
  ポインタの速度調節などを設定する画面です。
- ❏ **方向（128ページ）**
  マウスの方向を設定する画面です。
- ❏ **デバイス（128ページ）**
  マウスの情報を表示したり、システムにマウスを追加するなどの設定をする画面です。

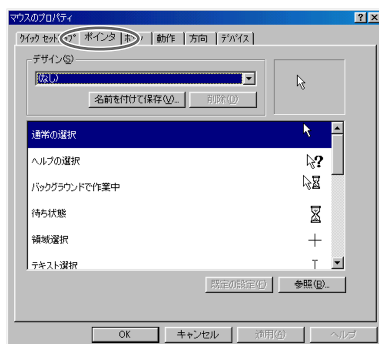
クイックセットアップ

使用中のマウスを表す図と、現在のボタンの割り当てを表示します。



- ❏ **[デバイスの設定]**
  クリックすると、メーカー推奨設定に従ってマウスを再設定する。
  - ❏ **タスクバーにアイコンを表示**
    チェックボックスをクリックすると、デスクトップ画面右下のタスクバーに（マウスウェアアイコン）が表示される。
    をダブルクリックすることにより「マウスのプロパティ」画面を開くことができます。

ポインタ



❑ デザイン

(なし)▼: 登録されているマウスのポインタのデザインの組み合わせを ▼ をクリックしてリストから選ぶ。

[名前を付けて保存]: クリックすると、下のリストで設定しているポインタのデザインの組み合わせに名前を付けて登録する画面が表示される。

[削除]: クリックすると、登録したポインタのデザインの組み合わせが削除される。

❑ リスト

選択したポインタのデザインの組み合わせが一覧表示される。

OS（Operating System）の動作状態ごとにいろいろなデザインのポインタを割り当てることができます。

[既定の設定]: クリックすると、ポインタの設定が標準に戻る。

[参照]: クリックすると、そのOSの動作状態のポインタのデザインを割り当てる画面が表示される。


OSとは

「オペレーティングシステム」の略称で、「オーエス」と読みます。リソースなど、コンピュータ全体を管理し、コンピュータを操作するのに必要な基本ソフトウェアです。本機はOSとしてWindows 98を使っています。

次のページにつづく

ボタン



❑ ボタンの割り当て

[クリック/選択 ▼]: マウスの各ボタンに割り当てることができる機能を ▼ をクリックしてリストから選ぶ。

[オプション]: クリックすると、さらに詳細なマウスのオプションを設定する画面が表示される。

❑ スクローラ

スクロール速度: ホイールボタンを使ったとき、スクロールされる文章の量を ▼ をクリックしてリストから選ぶ。

Office 97互換のスクロールのみを使用: ☐ をクリックして ☑ にすると、Microsoft Office 97互換スクロールを有効にする。

動作



❑ カーソルの速度と加速

スライダ: マウスを動かす距離に反応してデスクトップ画面上のポインタが移動する距離を設定する。

右の ◯ : クリックすると、ポインタの加速が変わる。

❑ スマートムーブ

設定する: ☐ をクリックして ☑ にすると、ダイアログボックスが開いたときにポインタが初期設定のコマンドボタンに自動的に移動するように設定される。

❑ カーソルの軌跡

設定する: ☐ をクリックして ☑ にすると、ポインタがデスクトップ画面上を移動する際に軌道を残すように設定される。

軌跡の長さ: スライダを左右に動かして、ポインタの軌跡の長さを調節する。

次のページにつづく

方向



❑ 方向の設定

[方向の設定]: クリックすると、マウスの方向を変更する画面が表示される。

デバイス



❑ デバイス情報

ホイール マウス (PS/2 ポート 上) ▼: 本機に現在接続しているマウスが表示されるので、使用するマウスを ▼ をクリックしてリストから選ぶ。

[デバイスの追加]: クリックすると、本機に接続されているすべてのマウスがマウスウェアによって検出される。

❑ バージョン情報

現在使用しているマウスやマウスウェアの情報が表示される。

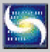
困ったときは

トラブルを解決するには

トラブルが発生したら、あわてずに下記の流れに従ってください。
また、メッセージなどが表示されている場合は、書きとめておくことをおすすめします。

「主なトラブルとその解決方法」をチェックする

131ページをご覧になり、お使いのコンピュータの症状に合うものがないか確認してください。

**「サイバーサポート」ソフトウェアを使う**

本機では付属の「サイバーサポート(CyberSupport for VAIO)」ソフトウェアにトラブルや質問を入力することで、本書や別冊の「はじめにお読みください」、付属のソニー製ソフトウェアの取扱説明書やヘルプ、VAIOカスタマーリンクに寄せられたFAQ(よくある質問とその回答)などから自動的にその解決方法を検索できます。詳しくは「「サイバーサポート」ソフトウェアの使いかた」(13ページ)をご覧ください。

「Q&A Search」を使う

VAIOカスタマーリンクのホームページ(http://vcl.vaio.sony.co.jp/)では、お客様からのお問い合わせが多い質問と回答やQ&A集を掲載しています。詳しくは「「Q&A Search」を使ってトラブルを解決する」(143ページ)をご覧ください。

それでもトラブルが解決しないときは

VAIOカスタマーリンクまたはお買い上げ店にご相談ください。

VAIOカスタマーリンクにお問い合わせいただくときは

付属のVAIOカルテと筆記用具をご用意ください。また、事前に以下のことを確認してください。

- お客様のカスタマーID
- 本機の型名：PCV-J11
- 本機に接続している機器
- 本機に付属していないソフトウェアを追加した場合は、そのソフトウェアの名前とバージョン
- トラブルの状況と発生時期／頻度
- その他お気づきの点

主なトラブルとその解決方法

ここでは、主なトラブルとその解決方法について説明します。

ご注意

再起動後または電源を入れ直す場合は、必ず「電源を切る」（27ページ）の手順に従い、いったん電源を切ってください。
他の方法で電源を切ると、作成したファイルが使えなくなることがあります。

トラブルの内容	参照ページ
電源	132ページ
ディスプレイ	134ページ
スピーカー	136ページ
マウス	137ページ
フロッピーディスク	138ページ
ハードディスク	138ページ
CD-ROM	139ページ
文字入力	139ページ
i.LINK	140ページ
インターネット	140ページ
モデム	141ページ
Windowsのメッセージ	142ページ

⏻ 電源

電源が入らない。

→ 本機の電源コードがしっかりコンセントに差し込まれているか確認する。

→ すべてのケーブルがしっかり接続されているか確認する。

電源が切れない。

電源が切れないときの状況によって対処方法が異なります。以下の点を確認した上で、それぞれの操作を行ってください。

→ キーボードが正しく接続されているか確認する。

→ プリンタやUSB機器などの周辺機器を接続している場合やネットワークを使用している場合には、それらを使用しない状態にしてから電源を切る操作を行ってください。Windows 98は、周辺機器やネットワークと通信を行っている間は、電源が切れないしくみになっています。

→ 新しくインストールしたソフトウェアやデータ、その操作などを確認してください。

→ 「電源を切る」(27ページ) の操作をしても、「Windowsを終了しています」または「電源を切る準備ができました」と表示されたまま動かない場合は、キーボードの[Enter](エンター) キーを押してください。

→ 「スタート」メニューの［Windowsの終了］を選んでも、「Windowsの終了」画面が表示されない場合は、[Alt](オルト) キーを押しながら[F4]キーを数回押して「Windowsの終了」画面を表示させ、［コンピュータの電源を切れる状態にする］をクリックして選び、［はい］をクリックしてください。
[Alt](オルト) キーを押しながら[F4]キーを数回押しても「Windowsの終了」画面が表示されない場合は、[Ctrl](コントロール) キーと[Alt](オルト) キーを押しながら[Delete](デリート) キーを押し、「タスクリスト」画面が表示されたら、［シャットダウン］をクリックしてください。

→ 上記のいずれの操作を行っても電源が切れない場合は、本機前面の ⏻ (電源) ボタンを4秒以上押して電源ランプが消灯するか確認してください。
ただし、この操作をすると、作成中のファイルや編集中のファイルが使えなくなることがあります。また、本機の電源を入れ直した際、「スキャンディスク」ユーティリティが実行されたり、Safeモードで起動することがあります。その場合は、デスクトップ画面が表示されるまで画面の指示に従って操作し、その後「電源を切る」(27ページ) の手順に従っていったん本機の電源を正しく切ってください。

本機がスタンバイモードに移行せず、すぐに戻ってしまい、Windowsの動作状態が不安定になる。

→ 使用中のソフトウェアを終了して、本機を再起動してください。（29ページ）再起動できない場合は、本機前面の ⏻（電源）ボタンを4秒以上押して電源を切ってください。

電源を入れると、「No System disk or disk error. Replace and press any key when ready.」というメッセージが出る。

→ フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブに入っているときは、フロッピーディスクイジェクトボタンを押して、取り出す。その後、キーボードのいずれかのキーを押してください。

電源を入れると、「Operating system not found」と表示され、Windowsが起動できない。

→ フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクが入っている場合は、ディスクを取り出してから Ctrl（コントロール）キーと Alt（オルト）キーを押しながら Delete（デリート）キーを2回押して本機を再起動する。

→ 再起動してもこのメッセージが表示され、Windowsが起動しない場合は、指定された方法以外のやりかたでパーティションサイズを変更している可能性があります。本機に付属のリカバリ CDを使って、パーティションサイズを変更し、本機を再セットアップしてください。
詳しくは、「リカバリ CDで本機を再セットアップする」（146ページ）および「パーティションサイズを変更する」（149ページ）をご覧ください。

電源を入れると「C:￥WINDOWS>_」と表示されたまま止まり、Windowsが起動しない。

→ 「exit」と入力して Enter（エンター）キーを押してください。Windows 98が起動します。本機の電源を切るときは「電源を切る」（27ページ）の手順に従ってください。
「exit」と入力せずに本機の電源を切ってしまうと、次回電源を入れた際も「C:￥WINDOWS>_」と表示されたままになります。

□ディスプレイ

画面に何も表示されない。

→ 本機とディスプレイの電源コードがしっかりコンセントに差し込まれているか確認する。

→ 本機とディスプレイを正しく接続する。

→ 本機とディスプレイの電源スイッチが入っているか確認する。

→ ディスプレイの明るさボタンとコントラストボタンで調整する。詳しくはディスプレイの取扱説明書をご覧ください。

画面に「OUT OF SCAN RANGE」と表示される。

→ 本機の電源を入れる前に、ディスプレイの電源を入れた。必ずディスプレイの電源を入れてから本機の電源を入れてください。

→ 約15秒間待つと、正しく表示されることがあります。

→ キーボードの Ctrl（コントロール）キーと Alt（オルト）キーを押しながら Delete（デリート）キーを押して本機を再起動する。

→ 上記の操作を行っても「OUT OF SCAN RANGE」と表示される場合は、以下の操作を行ってみてください。

1. **キーボードの Ctrl（コントロール）キーと Alt（オルト）キーを押しながら Delete（デリート）キーを押して本機を再起動する。**
2. **本機の電源が入ったら、 Ctrl（コントロール）キーを押す。**
   「Microsoft Windows 98 Startup Menu」が表示されます。
3. **↑ PgUp キーまたは ↓ PgDn キーを押して「3. Safe mode」を選び、Enter（エンター）キーを押す。**
4. **半角/全角 漢字 キーを押す。**
   本機がSafeモードで起動し、「WindowsはSafeモードで実行されています。」というメッセージが表示されます。
5. **［OK］をクリックする。**
6. **デスクトップ画面左下の［スタート］をクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。**
   「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
7. **［システム］をダブルクリックする。**
   「システムのプロパティ」画面が表示されます。
8. **［デバイスマネージャ］タブをクリックする。**
   「デバイスマネージャ」画面が表示されます。

9 **［ディスプレイアダプタ］および［モニタ］をそれぞれクリックし、それぞれのインフォメーションファイル（**SONY HMD-A100**など）をすべて削除する。**

削除するには、インフォメーションファイル（SONY HMD-A100）などをクリックして選び、［削除］をクリックし、メッセージが表示されたら［OK］をクリックします。

10 **［閉じる］をクリックする。**

「システムのプロパティ」画面が閉じます。

11 **本機を再起動する。**

「新しいハードウェアの追加ウィザード」画面が表示されます。

12 **画面の指示に従って操作する。**

13 **「ディスクの挿入」画面が表示されたら、**［OK］**をクリックする。**

14 **「ディスクの挿入」画面で、［スキップ］をクリックする。**

15 **「システム設定の変更」画面が表示されたら、［はい］をクリックする。**

本機が再起動します。

16 **リフレッシュレートの設定を変更する。**

出荷時は「75Hz」に設定されています。

リフレッシュレートの変更方法について詳しくは「ディスプレイの設定を変更する」の「リフレッシュレート」（114ページ）をご覧ください。

→ 上記の操作を行っても「OUT OF SCAN RANGE」と表示される場合は、以下の操作を行ってみてください。

1 **キーボードの Ctrl（コントロール）キーと Alt（オルト）キーを押しながら Delete（デリート）キーを押して本機を再起動する。**

2 **本機の電源が入ったら、Ctrl（コントロール）キーを押す。**

「Microsoft Windows 98 Startup Menu」が表示されます。

3 **↑PgUpキーまたは↓PgDnキーを押して「**5. Command prompt only**」を選び、Enter（エンター）キーを押す。**

4 **「**C:¥WINDOWS>**」の後ろに「**scanreg/restore**」と入力して、Enter（エンター）キーを押す。**

「Microsoft レジストリチェッカ」が表示されます。

5 **↑PgUpキーまたは↓PgDnキーを押して、問題が発生した以前の日時の**cab**ファイルを選び、R すキーを押す。**

レジストリが復元します。

6 **R すキーを押す。**

本機が再起動します。

困ったときは

→ 前ページの操作を行っても「OUT OF SCAN RANGE」と表示される場合は、リカバリ CDを使って本機を再セットアップしてください。詳しくは、「リカバリ CDで本機を再セットアップする」(146ページ) をご覧ください。

画像が乱れる。

→ ラジオなど、近くに磁気を発生するものや磁気を帯びているものがある場合は、ディスプレイから離す。

画質が悪い。

→ ディスプレイの調整ボタンで画質を調整する。詳しくはディスプレイの取扱説明書をご覧ください。

画像の端が欠ける。

→ ディスプレイの調整ボタンで調整する。詳しくはディスプレイの取扱説明書をご覧ください。

表示サイズ、表示位置がおかしい。

→ ディスプレイの調整ボタンで調整する。詳しくはディスプレイの取扱説明書をご覧ください。

画面に細い横線が出る。

→ トリニトロン管内部のアパチャーグリルに取り付けられたダンパーワイヤーの影です。ダンパーワイヤーは、アパチャーグリルの振動を抑える働きをしています。アパチャーグリルは、本機に付属のディスプレイなどのトリニトロン管特有の構造です。故障ではありません。

 スピーカー

音が出ない。

→ アクティブスピーカーの音声ケーブルが本機にしっかり接続されているか確認する。

→ アクティブスピーカーの電源が入っているか確認する。(26ページ)

→ アクティブスピーカーの音量が最小になっている。音量つまみで音量を上げる。詳しくは、スピーカーに付属の取扱説明書をご覧ください。

→ Windowsの音量がミュートまたは最小になっている。デスクトップ画面右下の (スピーカーアイコン) をダブルクリックして、音量を上げる。

マウス

マウスがマウスパッドの端まで来てしまい、これ以上動かせない。

→ マウスを持ち上げてマウスパッドの中央に戻す。

画面上のポインタが動かない。

→ 本機とマウスが正しく接続されているか確認する。

→ マウスの内部が汚れている場合は、マウスを掃除する。(155ページ)

→ キーを押して「スタート」メニューを表示させ、PgUpキーまたはPgDnキーを押して［Windowsの終了］を選んで、Enter(エンター)キーを押す。そのあとPgUpキーまたはPgDnキーで［再起動する］を選び、Enter(エンター)キーを押して再起動する。

→ キーを使って電源を切れない場合は、Ctrl(コントロール)キーとAlt(オルト)キーを押しながらDelete(デリート)キーを押して、本機を再起動する。

→ CD-ROMを再生しているときなどに、ポインタが動かなくなってしまった場合は、Ctrl(コントロール)キーとAlt(オルト)キーを押しながらDelete(デリート)キーを押し、CD-ROMを再生しているソフトウェアを強制的に終わらせ、本機を再起動する。

画面上のすべてのものが動かなくなってしまった。

→ Ctrl(コントロール)キーとAlt(オルト)キー、Delete(デリート)キーを同時に押して、本機を再起動する。

→ 上記の操作を行っても本機を再起動できない場合は、本機前面の⏻(電源)ボタンを4秒以上押して電源をいったん切ってから入れ直す。

スクロールしない。

→ スクロール設定の方法が間違っている。スクロール方向の設定を確認してください。(128ページ)

→ スクロール機能に対応していないソフトウェアを起動している。スクロールの必要のないソフトウェアはスクロールできません。また、ソフトウェアによっては、スクロール機能に対応していないものがあります。

マウスを動かしてもカーソルが動かない。

→ オートスクロール設定になっている。ホイールボタンを押して、オートスクロールの状態を解除してください。

ホイールボタンを押してもオートスクロールできない

→ ホイールボタンの動作設定を変更している。動作設定を確認してください。(126ページ)

フロッピーディスク

フロッピーディスクが取り出せない。

→ 54ページをご覧ください。

「ディスクがいっぱいです」というメッセージが表示され、ファイルなどをフロッピーディスクに保存できない。

→ フロッピーディスクの容量の空きがない。容量の空きが充分にある別のフロッピーディスクを使って保存し直す。

「このディスクはライトプロテクトされています。」というメッセージが表示された。

→ フロッピーディスクが書き込み禁止になっている。タブを動かして書き込み可能にする。(59ページ)

フロッピーディスクを初期化しようとしたができない。

→ フロッピーディスクが書き込み禁止になっている。タブを動かして書き込み可能にする。(59ページ)

→ フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブにきちんと入っているか確認する。

→ 「アプリケーションが使用中です」というメッセージが出たときは、フロッピーディスクの内容がウィンドウで表示されている。ウィンドウ表示されているときは初期化できないので、フロッピーディスクのウィンドウを閉じる。

ハードディスク

誤ってハードディスクを初期化してしまった。

→ リカバリ CDを使って、本機を再セットアップする必要があります。「リカバリ CDで本機を再セットアップする」(146ページ) をご覧ください。

ハードディスクの内容を誤って消してしまった。

→ リカバリ CDを使って、本機を再セットアップする必要があります。「リカバリ CDで本機を再セットアップする」(146ページ) をご覧ください。

ハードディスクから起動できない。

→ フロッピーディスクドライブに、フロッピーディスクが入っていないか確認する。

→ CD-ROMドライブにリカバリ CDが入っていないか確認する。

→ 前ページの操作を行っても起動できない場合は、リカバリ CDを使って、本機を再セットアップする。詳しくは「リカバリ CDで本機を再セットアップする」（146ページ）をご覧ください。

CD-ROM

CD-ROMが読み込めない、または音楽CDの再生時、音がとぎれる。

→ CD-ROMをCD-ROMドライブに入れてください。

→ CD-ROMが正しくCD-ROMドライブに入っているか確認する。CD-ROMは文字が書いてある面を上にして入れます。

→ CD-ROMの再生面を柔らかい布できれいにふき、汚れをとる。

→ CDレンズクリーナーでレンズの汚れをとる。

→ 結露している。しばらく待って電源を入れ直してから、もう一度再生してみる。

CD-ROMが取り出せない。

→ 49ページをご覧ください。

文字入力

日本語が入力できない。

→ 別冊の「はじめにお読みください」の「文字の入力を練習する（キーボードの使いかた）」をご覧ください。

全角の「～」が入力できない。

→ MS-IMEツールバーで「ひらがな」を選んで、Shift（シフト）キーを押しながら ~ ^ を押します。

URLで使われる半角の「~」（チルダ）が入力できない。

→ MS-IMEツールバーで「直接入力」を選び ~ ^ キーを押すか、MS-IMEツールバーで「半角英数」を選んで Shift（シフト）キーを押しながら、~ ^ キーを押します。

キーボードを使って正しく入力できない。

→ 数字キーで数字が入力できない場合は、キーボード右上のNum Lock（ナム・ロック）ランプが消灯していないかを確認してください。消灯しているときは、数字キーは矢印キーやコレクションキーと同じ働きをします。NumLk ScrLk（ナム・ロック）キーを押して、ランプを点灯させてから数字を入力してください。

困ったときは

次のページにつづく

→ 「コントロールパネル」ウインドウの中の（システム）をダブルクリックし、「デバイスマネージャ」タブでキーボードの項目が「106日本語（A01）キーボード（Ctrl+英数）」に設定されているか確認してください。異なるキーボードタイプに設定していると、入力したい文字と違う文字が表示されることがあります。

入力した文字が表示されない。

→ 文字を入力したいソフトウェアの画面が前面に出ていない。（画面上では薄い色のウィンドウになります。）画面のどこかをクリックするか、Alt（オルト）キーとTab（タブ）キーを同時に押して目的のソフトウェアを前面に出し、使える状態にする（画面の上の部分が青い色になります）。

→ 本機とキーボードが正しく接続されているか確認する。

i.LINK

本機と接続したi.LINK対応機器が認識されない。

→ i.LINK対応機器の電源を切り、いったんi.LINKケーブルを抜き差ししてから、電源を入れ直してください。

インターネット

インターネットに接続できない。

→ 本機が電話回線に正しく接続されているか確認する。詳しくは別冊の「はじめにお読みください」の「接続する」をご覧ください。

→ デスクトップ画面上の（インターネットに接続）をダブルクリックして設定を確認する。

→ 本機後面パネルのTELEPHONEジャックにつないだ電話機の受話器を取り、発信音がするかどうか確認する。

→ 内蔵モデムがWindows 98に正しく認識されているか確認する。詳しくは「内蔵モデムマニュアル」の「内蔵モデムの設定を確認する」をご覧ください。「内蔵モデムマニュアル」は、デスクトップ画面上でお読みいただけます。詳しくは「オンラインマニュアルの使いかた」（18ページ）をご覧ください。

→ 本機に接続できる回線は、一般アナログ電話回線です。ダイヤル方法を確認してください。詳しくは「内蔵モデムマニュアル」の「ダイヤル方法を設定する」をご覧ください。

→ インターネット接続について詳しくは、別冊の「はじめにお読みください」の「インターネットを始める」をご覧ください。

→ 接続後に、使用する電話、ファックス、通信などのソフトウェアで使用状況に合わせて設定しなければならない場合があります。詳しくは各ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

→ 上記の項目を確認しても接続できないときは、接続しようとしているインターネットサービスプロバイダにお問い合わせください。

ISDN回線を使いたい。

→ ISDN回線を使う場合は、ターミナルアダプタのアナログポートと本機後面のLINEジャックをつないでください。接続について詳しくは、別冊の「はじめにお読みください」の「接続する」をご覧ください。ISDN回線やターミナルアダプタについて詳しくは、NTT（局番なしの116番）またはターミナルアダプタの製造元にお問い合わせください。

 モデム

内蔵モデムからダイヤルできない。

→ お使いの電話回線がトーン式ダイヤルかパルス式ダイヤルかを確認し、モデムのダイヤル方法を確認する。詳しくは「内蔵モデムマニュアル」の「ダイヤル方法を設定する」をご覧ください。
「内蔵モデムマニュアル」は、デスクトップ画面上でお読みいただけます。詳しくは「オンラインマニュアルの使いかた」（18ページ）をご覧ください。

→ 電話回線のコンセントに直接テレホンコードを接続しているか確認する。テレホンコードが長すぎないか、電話機の子機に接続していないか確認する。詳しくは「内蔵モデムマニュアル」の「ダイヤルの設定を確認する」をご覧ください。

→ テレホンコードを「カチッ」と音がするまでモジュラージャックに差し込む。

→ 3分以内に3回以上同じところにダイヤルした場合はリダイヤル規制がかかり、連続してダイヤルすることができません。3分以上時間をおいてからリダイヤルしてください。

モデムはダイヤルしているが、接続できない。

→ 詳しくは「内蔵モデムマニュアル」の「ダイヤルの設定を確認する」をご覧ください。

モデムの通信速度が遅い。

→ 電話回線が混み合っている場合や電話回線の品質が悪い場合は、モデムはエラーが発生しないように自動的に通信速度を落として通信します。

次のページにつづく

→ 受信側のモデムが本機の内蔵モデムと同じ規格「K56flex/V.90」でない場合、本機に内蔵のモデムの最高速度56kbpsは出ません。

→ 日本国内では受信するときのみ最高速度56kbpsで通信できます。送信するときは、電話回線の中継局の制限で通信速度が遅くなります。

→ 分配器などを使って電話回線を分岐したときは、通信速度が遅くなったり、まったく通信できないことがあります。1本のテレホンコードで本機後面のLINEコネクタと壁の電話回線のコンセントをつないでください。

Windowsのメッセージ

「ディスクがいっぱいです」というメッセージが表示され、ファイルなどをフロッピーディスクに保存できない。

→ フロッピーディスクの容量の空きがない。容量の空きが充分にある別のフロッピーディスクを使って保存し直す。

「このディスクはライトプロテクトされています」というメッセージが表示された。

→ フロッピーディスクが書き込み禁止になっている。タブを動かして書き込み可能にする。（59ページ）

電源を入れた後、「Invalid system disk Replace the disk, and then press any key.」というメッセージが出て、ハードディスクから起動できない。

→ フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブに入っているときは、イジェクトボタンを押し、取り出す。その後、Enter（エンター）キーを押す。

「CMOS Battery Bad」というメッセージが表示される。

→ 本機内のバッテリが消耗しているため、バッテリを交換する必要があります。バッテリの交換については、VAIOカスタマーリンク修理窓口へお問い合わせください。

「CMOS Checksum Error」というメッセージが表示される。

→ BIOSの設定内容が壊れている。BIOSをお買い上げ時の設定に戻す。詳しくは「BIOSセットアップマニュアル」の「Exitメニュー」をご覧ください。「BIOSセットアップマニュアル」はデスクトップ画面上でお読みいただけます。詳しくは「オンラインマニュアルの使いかた」（18ページ）をご覧ください。

→ BIOSをお買い上げ時の設定に戻しても再度メッセージが表示されるときは、本機内のバッテリが消耗しているため、バッテリを交換する必要があります。バッテリの交換については、VAIOカスタマーリンク修理窓口へお問い合わせください。

「Q&A Search」を使ってトラブルを解決する

VAIOカスタマーリンクのホームページ（http://vcl.vaio.sony.co.jp/）には「Q&A Search」があり、VAIOに関する質問に対する回答を掲載しています。
「Q&A Search」を使うにはあらかじめインターネットに接続するよう設定しておいてください。インターネットの接続については、別冊の「はじめにお読みください」の「インターネットを始める」をご覧ください。

1 **デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［お気に入り］にポインタを合わせ、［ソニーお勧めのサイト］を選び、［VAIOカスタマーリンク］をクリックする。**
インターネットに接続してホームページを見るためのソフトウェアが起動し、VAIOカスタマーリンクのホームページが表示されます。

2 ［Q&A Search］**をクリックする。**
「Q&A Search」画面が表示されます。

3 **検索したい内容を入力し、 検索 をクリックする。**
「検索結果一覧」画面が表示されます。

4 **読みたい文面をクリックする。**
回答の内容が表示されます。


ちょっと一言
VAIOカスタマーリンクのホームページではVAIOに関する最新情報や、アップデートプログラムなどもあります。困ったら、まず一度ご覧ください。

その他

リカバリ CDで本機を再セットアップする

ここでは付属のリカバリ CD-ROMを使って、本機を再セットアップする方法を説明します。

リカバリ CDとは

付属のリカバリ CDには「システム リカバリ CD-ROM」と「アプリケーション リカバリ CD-ROM」の2種類があり、お買い上げ時のハードディスク中のすべてのファイルが保存されています。誤ってハードディスクを初期化してしまったり、あらかじめインストールされているソフトウェアを消してしまった場合には、「システム リカバリ CD-ROM」と「アプリケーション リカバリ CD-ROM」の両方のリカバリ CDを使って本機を再セットアップすることで、ハードディスクの内容をお買い上げ時の状態に戻すことができます。

リカバリ CDを使うと、次のことができます。

- ハードディスクを初期化したうえで、すべてのファイルを復元する。
- ハードディスクのパーティションのサイズを変更する。
  詳しくは「パーティションサイズを変更する」（149ページ）をご覧ください。

ご注意

- 付属のリカバリ CDは本機でのみ使用できます。他の製品では動作しません。
- 付属のリカバリ CDで再セットアップできるのは、本機に標準で付属されているソフトウェアのみです。ご自分でインストールしたソフトウェアや作成したデータを復元することはできません。また、Windows 98だけを復元することもできません。
- ご自分で変更された設定は、再セットアップ後はすべて初期値に戻ります。 再セットアップ後に、もう1度設定し直してください。
- 再セットアップする際は、必ず「システム リカバリ CD-ROM」と「アプリケーション リカバリ CD-ROM」の両方のリカバリ CDを使って行ってください。「アプリケーション リカバリ CD-ROM」を使わずに再セットアップを完了すると、本機の動作が不安定になる場合があります。
- BIOSの設定を変えた場合は、お買い上げ時の設定に戻してから再セットアップしてください。

BIOSとは

「バイオス」と読みます。コンピュータの基本的な設定をするためのプログラムの集まりで、電源を入れると最初にBIOSの読み込みが始まります。もし、BIOSが正しく働かないと、コンピュータは起動しなくなります。

再セットアップする前に

本機のハードディスクはC:ドライブとD:ドライブの2つのパーティションに分かれています。リカバリ CDを使って再セットアップすると、C:ドライブにあるファイルはすべて消えてしまいますが、D:ドライブにあるファイルは残ります。
C:ドライブに保存している大切なデータは、再セットアップを行う前に必ずバックアップを取ってください。

保存しているデータは、次の方法で残しておくことができます。
- フロッピーディスクにコピーする。
- CD-RW／CD-Rにコピーする。
- D:ドライブにデータを残して、再セットアップを行う。

ご注意

ハードディスクのパーティションサイズを変更すると、それ以前にハードディスク上にあったファイルは、C:ドライブだけでなくD:ドライブのものも含めてすべて消えてしまいます。パーティションサイズを変更する前に、大切なデータはフロッピーディスクなどに保存するなどして、必ずバックアップをとってください。

その他

再セットアップする

再セットアップする前に、フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブに入っていないことを確認してください。
以下の手順に従って再セットアップします。

1 付属の「システム リカバリ CD-ROM」をCD-ROMドライブに入れる。

入れかたについて詳しくは、「ディスクを入れる」(47ページ)をご覧ください。

2 Windows 98が起動している場合は終了し、本機の電源を切る。

Windows 98の終了のしかた、電源の切りかたについて詳しくは、「電源を切る」(27ページ)をご覧ください。

3 30秒ほど待ってから、⏻(電源)ボタンを押して本機の電源を入れる。

しばらくするとCD-ROMドライブから起動し、リカバリ CD上のプログラムが動作します。

次のページにつづく

4 「何かキーを押してください。」というメッセージが表示されたら、何かキーボード上のキーを押す。

メニュー画面が表示されます。

5 再セットアップの方法を選び、【Enter】(エンター) キーを押す。

次の中から再セットアップの方法を選びます。再セットアップを中止するときは4を選びます。

「1.フォーマットしてリカバリ...」: C:ドライブにあるファイルをすべて削除して、お買い上げ時のソフトウェアを復元します。

「2.パーティションサイズの変更...」: C:ドライブとD:ドライブのサイズを変更してから、お買い上げ時のソフトウェアを復元します。

「3.出荷時状態へリカバリ...」: パーティションをお買い上げ時の状態に戻してから、ソフトウェアを復元します。

「4.リカバリ CDを終了する...」: 再セットアップを中止します。

6 画面の指示に従って操作する。

操作を続けるかどうか聞かれたときは、【Y ん】キーを押して【Enter】(エンター) キーを押してください。

7 「システム リカバリ CD-ROM」のセットアップが終わるとメッセージが表示されるので、画面の指示に従って「システム リカバリ CD-ROM」を取り出してから、本機の電源を切る。

8 本機の電源を入れる。

9 別冊の「はじめにお読みください」の「Windows 98を準備する」の手順に従って、Windows 98をセットアップする。

10 Windows 98のセットアップが終了したら、「アプリケーション リカバリ CD-ROM」をCD-RWドライブに入れる。

自動的にソフトウェアのセットアップが始まります。ソフトウェアのセットアップが終わるとメッセージが表示されるので、[OK] をクリックしてください。

ご注意

BIOSの設定状態によっては、リカバリ CDが起動しないことがあります。この場合は、BIOSをお買い上げ時の設定に戻す必要があります。詳しくは、「BIOSセットアップマニュアル」の「Exitメニュー」をご覧ください。「BIOSセットアップマニュアル」はデスクトップ画面上でお読みいただけます。詳しくは、「オンラインマニュアルの使いかた」(18ページ) をご覧ください。

パーティションサイズを変更する

本機のハードディスクはC:ドライブとD:ドライブの2つのパーティションに分かれており、D:ドライブは、「DVgate」ソフトウェアなどで取り込んだ動画などの容量が大きいデータを保存したり、操作したりするための領域（データスペース）として使えるように設定されています（お買い上げ時）。付属のリカバリ CDを使ってパーティションサイズを変更できます。
動画の取り込みや書き出しを行う場合は、大容量のデータを高速で読み書きするため、ハードディスクの断片化が起こり、フレーム落ちの原因となります。そのため、データスペースとしてお使いになるパーティションは、ハードディスクの空き容量が常に連続になるよう、最適化（デフラグ）またはフォーマットを行ってください。
パーティションを区切ると、Windows 98はC:ドライブにインストールされます。C:ドライブを最適化するのに非常に時間がかかる場合がありますので、D:ドライブをデータスペースとしてお使いになることをおすすめします。


パーティションとは

ハードディスクなどの大容量補助記憶装置の領域を分割することです。分割することで、1台のハードディスクが複数台のハードディスクと同じように使えるため、ファイルや、ソフトウェアの格納場所を分けるといったような使い分けができます。


断片化とは

「フラグメンテーション」とも言います。ディスクに記録するファイルが連続した領域に収まらずに、あちこちに散らばって記録された状態のことです。通常は大きな問題になりませんが、データの記録や読み出しに時間がかかるなどの症状があらわれます。長期間にわたって断片化を放置すると、断片化した場所が大きくなり、エラーが頻発する原因になることもあります。


デフラグ（最適化）とは

ディスク中の断片化したデータをきれいにまとめることです。デフラグ（最適化）により、データの読み出し書き込みが速くなったり、エラーが起きる可能性が低くなったりします。

ご注意

ハードディスクのパーティションサイズを変更すると、それ以前にハードディスク上にあったファイルは、C:ドライブだけでなくD:ドライブのものも含めてすべて消えてしまいます。パーティションサイズを変更する前に、大切なデータはフロッピーディスクなどに保存するなどして、必ずバックアップをとってください。

次のページにつづく

1 **「再セットアップする」（147ページ）の手順1〜4を行う。**

2 **メニュー画面が表示されたら、「2.パーティションサイズの変更...」を選び、Enter（エンター）キーを押す。**

パーティションサイズの選択画面が表示されます。

Esc（エスケープ）キーを押すと、現在のパーティションサイズを確認できます。

3 **パーティションサイズを選び、Enter（エンター）キーを押す。**

サイズの変更を中止する場合は、N キーを押してからEnter（エンター）キーを押すと手順2の画面に戻ります。

4 **画面の指示に従って操作する。**

操作を続けるかどうかを聞かれたときはY キーを押し、Enter（エンター）キーを押してください。

パーティションサイズが変更され、自動的に本機が再起動します。再起動後、各ドライブが初期化され、再セットアップが始まります。

5 **「システム リカバリ CD-ROM」のセットアップが終わるとメッセージが表示されるので、画面の指示に従って「システム リカバリ CD-ROM」を取り出してから、本機の電源を切る。**

6 **本機の電源を入れる。**

7 **別冊の「はじめにお読みください」の「Windows 98を準備する」の手順に従って、Windows 98をセットアップする。**

8 **Windows 98のセットアップが終了したら、「アプリケーション リカバリ CD-ROM」をCD-RWドライブに入れる。**

自動的にソフトウェアのセットアップが始まります。ソフトウェアのセットアップが終わるとメッセージが表示されるので、［OK］をクリックしてください。

使用上のご注意

本機の取り扱いについて

- 衝撃を加えたり、落としたりしないでください。記録したデータが消失したり、本機の故障の原因となります。
- 直射日光が当たる場所、暖房器具の近くなど、異常な高温になる場所には置かないでください。故障の原因となることがあります。
- クリップなどの金属物を本機の中に入れないでください。
- 振動する場所や不安定な場所では使用しないでください。
- ほこりが多い場所では使用しないでください。
- 湿気が多い場所では使用しないでください。
- 風通しが悪い場所では使用しないでください。

結露について

結露とは空気中の水分が金属の板などに付着し、水滴となる現象です。本機を寒い場所から急に暖かい場所に持ち込んだときや、冬の朝など暖房を入れたばかりの部屋などで、本機の表面や内部に結露が起こることがあります。そのままご使用になると故障の原因となります。結露が起きたときは、結露がなくなるまで電源を入れずに放置してください。

ハードディスクの取り扱いについて

ハードディスクは、フロッピーディスクに比べて記憶密度が高く、データの書き込みや読み出しに要する時間も短いという特長があります。その一方、本来はほこりや振動に弱い装置でもあります。また、フロッピーディスク同様に磁気を帯びた物に近い場所での使用は避けなければなりません。

ハードディスクにはほこりや振動からデータを守るための安全機構が組み込まれていますが、記憶したデータを失ってしまうことのないよう、次の点に特にご注意ください。

- 振動する場所や不安定な場所では使用しないでください。
- 電源を入れたまま、本機を動かさないでください。
- データの書き込み中や読み込み中は、電源を切ったり再起動したりしないでください。
- 急激な温度変化（毎時10℃以上の変化）のある場所では使用しないでください。

何らかの原因でハードディスクが故障した場合、データの修復はできませんのでご注意ください。

次のページにつづく

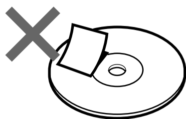
バックアップをとる

ハードディスクは非常に多くのデータを保存することができますが、その反面、ひとたび事故で故障すると多量のデータが失われ、取り返しのつかないことになります。万一のためにも、ハードディスクの内容は定期的にバックアップをとることをおすすめします。ソフトウェアはオリジナルがCD-ROMやフロッピーディスクにありますので、バックアップが必要なのはデータなどです。ハードディスクのバックアップ、バックアップの内容の戻しかたについて詳しくは、Windows 98のヘルプをお読みください。

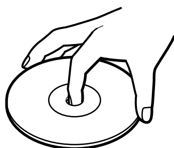
CD-ROMディスクの取り扱いについて

CD-ROMディスクに記録されているデータなどを保護するため、次のことにご注意ください。

- 紙などを貼ったり、傷つけたりしないでください。



- ディスクは外縁を支えるようにして持ちます。記録面には触れないでください。

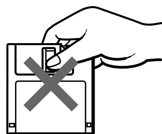


- ほこりやちりの多いところ、直射日光の当たるところ、暖房器具の近く、湿気の多いところには保管しないでください。
- ディスクに液体をこぼさないでください。
- 大切なデータを守るため、ディスクは必ずケースなどに入れて保管してください。

フロッピーディスクの取り扱いについて

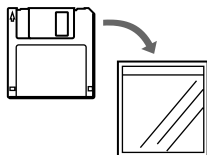
フロッピーディスクに記録されているデータなどを保護するため、次のことにご注意ください。

- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものに近づけないでください。フロッピーディスクに記録されているデータが消えてしまうことがあります。
- 直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くに放置しないでください。フロッピーディスクが変形し、使用できなくなります。
- 手でシャッターを開けてディスクの表面に触れないでください。フロッピーディスクの表面の汚れや傷により、データの読み書きができなくなることがあります。



- フロッピーディスクに液体をこぼさないでください。

- 大切なデータを守るため、フロッピーディスクは必ずケースなどに入れて保管してください。



コンピュータウイルスについて

コンピュータウイルスとは、コンピュータの中のファイルやプログラムに悪影響を与えるプログラムのことです。ほとんどがいたずら半分で作成されたものですが、下記の「コンピュータウイルスに侵入されると...」に見られるような被害が起きてしまいます。
コンピュータウイルスは他のプログラムと異なり、それ自体が増殖し、データのコピーなどを通じて他のコンピュータにも悪影響を及ぼしていきます。

コンピュータウイルスに侵入されると...

- 意味不明なメッセージや、ウイルスが侵入したことを知らせるメッセージが画面上に表示される。
- ファイルが勝手に消去される。
- ハードディスク上の情報が意味のないものに書き換えられる。
- 画面上に意味のないものが表示される。
- ハードディスク上の空き容量が急に小さくなる。

コンピュータウイルスを侵入させないためには

- 見知らぬ人から送られてきた、またはネットワーク経由で入手した文書は必ずウイルスチェックをしてください。
本機にはコンピュータウイルス検査／ウイルス除去用ソフトウェアとして、「VirusScan」ソフトウェアがインストールされています。本機をコンピュータウィルスから守るため、定期的なウィルスチェックをおすすめします。
- コンピュータウイルスはフロッピーディスクなどを介して広がることがありますので、他人のフロッピーディスクなどを使うときはご注意ください。
フロッピーディスクなどのデータを共有する場合は、共有する人を限定してください。
- 新種のウイルスに対応するため、ウイルスに関するデータファイルは常に更新することをおすすめします。
下記のURLより最新のデータファイルを入手できます。
http://www.nai.com/japan/
- ウイルスデータファイルの更新や「VirusScan」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「VirusScan」のヘルプをご覧になるか、下記にお問い合わせください。
ネットワークアソシエイツ株式会社
テクニカルサポート
電話番号：(03) 3379-7770

ウイルスが侵入して被害を受けてしまったときに備えて、日頃から作成した文書の控えをとる習慣をつけましょう。

次のページにつづく

ソフトウェアの不正コピー禁止について

本機に付属のソフトウェアは、ライセンスあるいはロイヤリティ契約のもとに供給されています。これらのソフトウェアを不正にコピーすることは法律で禁止されています。
また、店頭で購入したソフトウェアを人に貸したり、人からソフトウェアを借りてコピーして使うことは原則として禁じられています。ソフトウェアの使用許諾契約書をよくお読みのうえ、お使いください。

データのバックアップについて

ハードディスクドライブに保存している文書などのデータは、定期的にバックアップをとるようおすすめします。データの損失については、一切責任を負いかねます。

ソフトウェアと周辺機器の動作について

一般的にWindows 98用、DOS/V用、PC/AT互換機用などと表記している市販ソフトウェアや周辺機器の中には、本機で使用できないものがあります。
ご購入に際しては、販売店または各ソフトウェアおよび周辺機器の販売元にご確認ください。
市販ソフトウェアおよび周辺機器を使用された場合の不具合や、その結果生じた損失については、一切責任を負いかねます。

お手入れ

本機やディスプレイのお手入れ

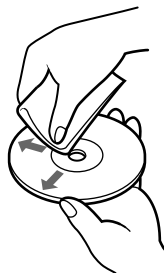
本機やディスプレイについたゴミやほこりなどは、乾いた布で軽く拭き取ってください。

ご注意

- 本機やディスプレイの電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてからお手入れをしてください。
- 濡れたもので本機やディスプレイを拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- アルコールやシンナーなど揮発性のものは、表面の仕上げを傷めますので使わないでください。化学ぞうきんをお使いになるときは、その注意書に従ってください。

CD-ROMディスクのお手入れ

- 指紋やほこりによるディスクの汚れは、読み取りエラーの原因になります。いつもきれいにしておきましょう。
- ふだんのお手入れは、柔らかい布でディスクの中心から外側へ軽く拭きます。

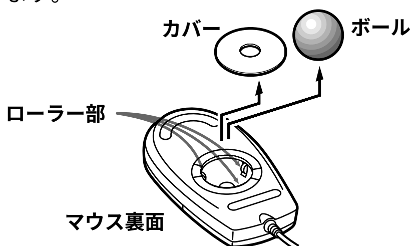


- 汚れがひどいときは、水で少し湿らせた布で拭いたあと、さらに乾いた布で水気を拭き取ってください。

- ベンジンやレコードクリーナー、静電気防止剤などはディスクを傷めることがありますので、使わないでください。

マウスを掃除する

マウスは長く使っていると、内部にゴミやほこりなどがたまり、画面上のポインタが思うように動かなくなります。この場合は、マウスの裏面のカバーを取りはずし、ボールを取り出して内部を掃除します。



- 乾いた布で内部のゴミやほこりなどを取り除いてから綿棒でローラー部のゴミをこすり取ってください。
- 表面のゴミやほこりなどは、乾いた布で軽く拭き取ってください。

ご注意

- 本機の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてから、マウスを本機から取りはずしてからマウスを掃除してください。
- 濡れたものでマウスを拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- アルコールやシンナーなど揮発性のものは、表面の仕上げを傷めますので使わないでください。化学ぞうきんをお使いになるときは、その注意書に従ってください。

キーボードを掃除する

キーボードは長く使っていると、キーが汚れたり、キーの間にゴミやほこりがたまります。キーの間にゴミやほこりがたまると、キーを押しても目的の文字を入力できなくなったり、押したキーがへこんだまま元に戻らなくなることがあります。この場合は、キーボードを掃除します。

- 表面のゴミやほこりなどは、乾いた布で軽く拭き取ってください。
- キーの側面は、綿棒でこすり取ってください。
- キーの間は、エア・スプレーなどでゴミやほこりを散らしてください。

ご注意

- 本機の電源を切り、電源コードをコンセントから抜き、キーボードを本機から取りはずしてからキーボードを掃除してください。
- 濡れたものでキーボードを拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- アルコールやシンナーなど揮発性のものは、表面の仕上げを傷めますので使わないでください。化学ぞうきんをお使いになるときは、その注意書に従ってください。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品は保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げ店からお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より3ヶ月間です。カスタマー登録していただいたお客様は1年間になります。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この取扱説明書をもう1度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはVAIOカスタマーリンクへご連絡ください

VAIOカスタマーリンクについては、添付の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。
ただし、故障の原因が不当な分解や改造であると判明した場合は、保証期間内であっても、有償修理とさせていただきます。
詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料で修理させていただきます。

修理について

当社ではパーソナルコンピュータの修理は引取修理を行っています。
当社指定業者がお客様宅に修理機器をお引き取りにうかがい、修理完了後にお届けします。詳しくは添付の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。

データのバックアップのお願い

修理に出すまえに、ハードディスクなどの記録媒体のプログラムおよびデータは、お客様にてバックアップされますようお願いいたします。弊社の修理により、ハードディスクなどのプログラムおよびデータが万一消去あるいは変更された場合に関しても、弊社は一切の責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
なお、ハードディスクなどの記録媒体そのものの故障の場合には、プログラムおよびデータの修復はできません。

部品の保有期間について

当社ではパーソナルコンピュータの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過したあとも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店か、VAIOカスタマーリンク修理窓口にご相談ください。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

- **お客様のカスタマー**ID**：**
- **型名：**PCV-J11
- **製造番号：**
- **故障の状態：できるだけ詳しく**
- **購入年月日：**

部品の交換について

この製品は修理の際、交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品はご同意いただいた上で回収させていただきますので、ご協力ください。

電話回線のコンセントの種類

電話回線のコンセントは以下の4種類があります。設置場所のコンセントに合った方法で接続してください。

コンセントの型	**接続に必要なソニーの別売りアクセサリ**
モジュラ型	不要（そのままつなぐことができます）
3ピンジャック型	テレホンモジュラーアダプターTL-30
直付け型ローゼット[1]	モジュラーローゼットTL-32CRなど
埋め込み型[2]	テレホンモジュラージャックコンセントTL-31

[1] 直付けタイプからモジュラジャックへの交換工事が必要です。NTT（局番なしの116番）へご依頼ください。

[2] 電話工事担任者による取り付け工事が必要です。NTT（局番なしの116番）へご依頼ください。

ご注意

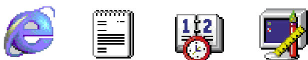
ビジネスホン、ホームテレホンなどの電話機やドアホン付きの電話機をお使いのときは、工事が必要となるものがあります。電話機を取り付けた業者にご相談ください。

用語集

五十音順

ア

アイコン
画面上に表示されるソフトウェア、文書や画像などを表す絵記号のことです。それぞれに固有のデザインがあり、直感的にわかりやすくなっています。



アクティブウインドウ
複数のウィンドウがデスクトップ画面上に開いているときに、作業中のウィンドウのことを言います。

アクティブデスクトップ
ホームページなど、インターネットのさまざまな情報を常に表示しておき、インターネットに簡単にアクセスできるデスクトップのことです。

アプリケーションソフトウェア
→「ソフトウェア」をご覧ください。

インストール（プリインストール）
ソフトウェアなどをコンピュータにコピーして組み込むことです。「プリインストール」とは、ソフトウェアなどがお買い上げ時にインストールしてあることです。

インターネットサービスプロバイダ
インターネットへの接続サービスなどを提供する業者のことです。

ウイルス
→「コンピュータウイルス」をご覧ください。

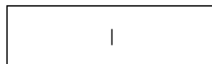
ウィンドウ
デスクトップ画面に表示される枠で囲まれた領域のことで、フォルダの内容などが表示されます。ソフトウェアを使って文書や画像を作成するときもウィンドウで作業します。

オーバーレイ
CPU（163ページ）のプログラム領域に入りきれないような大きなプログラムを実行するときに、プログラムをいくつかのブロックに分けて、必要なブロックを次々にCPUに読み込ませて、実行するための方法のことです。

オンラインマニュアル
本書や別冊の「はじめにお読みください」などをデスクトップ画面上で読めるようにしたマニュアルのことです。「Adobe Acrobat Reader」ソフトウェアを使ってデスクトップ画面上に表示させ、読むことができます。

カ

カーソル
デスクトップ画面上で、文字や絵を挿入する位置を示す記号のことです。現在の位置を示すために点滅していることもあります。何か入力すると、カーソルの位置にその入力したものが挿入され、カーソルはその分移動して、次の挿入位置へと移動します。



壁紙
デスクトップ画面の背景を飾る画像のことです。好きな壁紙を選んで使用することができます。詳しくは、「ディスプレイの設定を変更する」（105ページ）をご覧ください。

ガンマ
画面の明るさのことです。ガンマを補正することによって、画面の表示を調整することができます。

コントロールパネル
操作環境やハードウェアの環境を設定するためにWindows 98に標準で装備されているツールです。詳しくは、「コントロールパネルとは」（104ページ）をご覧ください。

コンピュータウイルス
コンピュータの内容を破壊するプログラムのことです。単に「ウイルス」とも言います。インターネットなどの通信や、フロッピーディスクなどの記録メディアからコンピュータに感染します。コンピュータウイルスの侵入を監視するソフトウェアを使用することにより、感染を未然に防ぐことができます。本機には「VirusScan」ソフトウェアがインストールされています。また、感染したコンピュータウイルスを退治するには、「ワクチンプログラム」を使用します。

サ

周辺機器
プリンタやUSB機器など、コンピュータに接続する機器全般のことです。

ジョイスティック
ゲームなどでよく使われる操作用の機器です。方向をコントロールする部分と、操作をコントロールするボタンがあります。本機にジョイスティックをつなぐと、ゲームをよりリアルに楽しむことができます。

ショートカット
ソフトウェアやファイルなどの分身を作ること、または分身そのもののことです。よく使うソフトウェアやファイルなどのショートカットをデスクトップ画面上に置いておくと、探す手間が省けて便利です。

ショートカットメニュー
マウスを右クリックして表示されるメニューのことです。クリックした状況に応じて、よく使われる機能を素早く選ぶことができます。

初期化
「フォーマット」とも言います。フロッピーディスクやハードディスクにデータの書き込みができるようにする作業のことです。データが保存されているディスクを初期化するとデータが消去されてしまうので注意が必要です。ハードディスクの中身をすべて消去してお買い上げ時の状態に戻したいときは、付属のリカバリ CDを使って初期化することができます。

シリアル
パラレル（並列）の対語で、１本のデータ線を通して、データを一つずつ順番に送り、処理していく方法のことです。デジタルスチルカメラなどと接続するときに使われます。

スクリーンセーバー
電源を入れたまま長時間使わない状態の画面を、保護するためのソフトウェアのことです。同じ画面のまま長時間放置すると、輝いている部分の蛍光塗料が劣化して、その部分のみ発光しなくなったり、跡が残ったりするのを防ぎます。長時間、コンピュータへの入力がないときに自動的に起動して、画面を暗くしたり、模様を描いたりします。何かコンピュータへの入力（キーボードやマウスの操作など）を行えば自動的に解除し、元の画面に戻ります。
好きなスクリーンセーバーを選んで使用することができます。詳しくは、「ディスプレイの設定を変更する」（105ページ）をご覧ください。

スライダ
音量などを連続的に変えるための入力装置のことです。通常はマウスで操作します。

ソフトウェア
コンピュータを動かすための電子の信号でできた命令のかたまりのことです。略して「ソフト」とも言います。ソフトウェアには大きく分けて「基本ソフトウェア」（「OS」も参照）と「アプリケーションソフトウェア」があります。
「基本ソフトウェア」にはWindows 98やMS-DOSなどがあります。「アプリケーションソフトウェア」は、「アプリケーション」または「ソフトウェア」、「プログラム」と呼ばれ、基本ソフトウェアの下で特定の目的のための機能を提供するソフトウェアです。「アプリケーションソフトウェア」にはワープロソフトや表計算ソフトなどがあります。
本書では、「アプリケーションソフトウェア」のことを「ソフトウェア」と表記しています。

タ

タスクトレイ

デスクトップ画面の右下の部分です。本機を起動したときに自動的に使えるようになったWindows 98の機能が表示されています。別冊の「はじめにお読みください」の「デスクトップ画面の各部のなまえとはたらき」もご覧ください。

タスクバー

初期状態でデスクトップ画面下辺に表示される横長の棒（バー）のことです。バーの左端にあるスタートボタンより各ソフトウェアを起動します。また、使用中のソフトウェアやフォルダがボタン化されて、横に並んだ状態で表示されますので、ボタンをクリックすることにより、ウィンドウの切り替えができます。別冊の「はじめにお読みください」の「デスクトップ画面の各部のなまえとはたらき」もご覧ください。

断片化

「フラグメンテーション」とも言います。
ディスクに記録するファイルが連続した領域に収まらずに、あちこちに散らばって記録された状態のことです。通常は大きな問題になりませんが、データの記録や読み出しに時間がかかるなどの症状があらわれます。長期間にわたって断片化を放置すると、断片化した場所が大きくなり、エラーが頻発する原因になることもあります。

チェックボックス

ウィンドウの中に表示される、チェック用の図形のことです。☐をクリックすると☑になり、選択されたことを示します。

チルダ

「~」と書く半角記号です。インターネットのホームページのアドレスを記入するときによく使う記号です。

デスクトップ

コンピュータを起動したときに表示される画面のことです。

デバイス

コンピュータに接続して使用するディスクやプリンタなどの装置のことです。

デフラグ（最適化）

ディスク中の断片化したデータをきれいにまとめることです。デフラグ（最適化）により、データの読み出しや書き込みが速くなったり、エラーが起きる可能性が低くなったりします。

電子メール

「Eメール」とも言います。
インターネットなどのネットワークを使ってコンピュータ同士でメッセージをやりとりするシステムのことです。実際の郵便と比べて、相手にメッセージが届くまでの時間がかからず、手軽に読んだり書いたりできます。再編集や保存が簡単なため、最近急速に普及してきています。

電子メールアドレス

「Eメールアドレス」とも言います。
電子メールを送る相手先の情報のことです。通常の郵便になぞらえて、「アドレス」と言っていますが、国名や番地を書く訳ではありません。電子メールアドレスは、世界に1つだけのものなので、使う人がどこにいようと配信され、読むことができます。

ドライバ

どのような周辺機器がどのように接続されているかをコンピュータ側に知らせ、周辺機器を正しく動かすために必要なソフトウェアです。基本的なものはすでにWindows 98に含まれていますが、それ以外の周辺機器を使用したいときは、その機器に必要なドライバをインストールする必要があります。

ハ

パーティション

ハードディスクなどの大容量補助記憶装置の領域を分割することです。分割することで、1台のハードディスクが複数台のハードディスクと同じように使えるため、ファイルやソフトウェアの格納場所を分けるといったような使い分けができます。

ハードウェアアクセラレータ
コンピュータの画面を高速にしたり、表示できる色数を増やすために、コンピュータに内蔵されている装置のことです。

ハードディスク
コンピュータに接続する補助記憶装置の一つです。表面に、磁性体を塗った平らな円盤(ディスク)を回転させ、それに磁気ヘッドを近づけてデータの書き込み/読み出しを行います。大容量のデータを保存でき、書き込み/読み出しが高速で行えます。

パラレル
「並列」という意味です。複数のデータ線を通して、データを同時にいくつか送り、同時に処理のできる方法のことです。プリンタやモデムなどと接続するときに使われます。

ピクセル
画面上の点を示します。コンピュータの画面上やプリンタでは、文字や図形を小さな点の集まりで表しますが、この基本の単位となる最小の点のことです。「画素」や「ドット」とも言います。

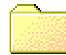
ビットマップ
文字や図形を小さな点の集まりで表現することです。現在のコンピュータの表示は、ほとんどがビットマップ方式です。

ファイル
データのことです。厳密に言えばデータをひとまとめにしたものですが、コンピュータでは区別が無くなっています。ファイルには、文字列として読み出すことのできるテキストファイル(文書ファイルなど)と、文字としては読み出せないバイナリファイル(実行形式のファイルなど)があります。



フォーマット
→「初期化」をご覧ください。

フォルダ
ペーパーフォルダの形をしたアイコンのことで、ファイルを保存しておく場所のことです。ソフトウェアや文書は「ファイル」として保存されますが、ファイルを整理して、使いやすくするためにフォルダの中に分類することができます。紙の資料(ファイル)を紙ばさみ(フォルダ)に入れて整理、保管することをデスクトップ画面上で行うようなものです。



プラグアンドプレイ
周辺機器を接続したり、拡張ボードを装着するだけで特別な設定をしなくてもすぐに使える状態になる機能です。本機に取り付けられているPCI規格の拡張ボードはプラグアンドプレイに対応しています。

プロバイダ
→「インターネットサービスプロバイダ」をご覧ください。

プロパティ
OS上のソフトウェアからアクセスできる属性のことです。プロパティは、ユーザーの使いやすいように設定することができます。

プロファイル
Windows 98のユーザー設定をまとめたもので、ユーザーごとに保持されます。

マ

マイコンピュータ
デスクトップ画面上にあるアイコンの一種で、お使いのコンピュータで使用できるデバイスやツール(道具)の集まりを示します。 マウスでダブルクリックすると、使用中のコンピュータの各種情報や、コントロールパネル、フロッピーディスクドライブ、CD-ROMドライブといったデバイスやフォルダなどが表示されます。



マルチディスプレイ
複数のディスプレイ画面に画像を表示させることです。コンピュータに複数のディスプレイボードを搭載しなければならないので面倒ですが、画面が広く使えるといった利点があります。

メモリ
コンピュータの中にあって、データやプログラムを保存しておくための場所あるいは、装置のことです。メモリには主記憶装置と、補助記憶装置があります。通常は主記憶装置のRAMを示します。

モデム
コンピュータの情報を電話回線を通じてやりとりするために必要な機器です。本機には内蔵されています。

ラ

リソース
もともとは、「資源」という意味です。
コンピュータを使って何か作業を行う場合に、そのコンピュータが稼働するために必要なメモリ、入力装置、出力装置、制御装置などを指します。リソースには限りがあるため、不要なソフトウェアが占有しないようにすることが必要です。

リフレッシュレート
コンピュータでは、デスクトップ画面上の表示を一定の間隔で書き換えています。この書き換えの間隔のことを「リフレッシュレート」と言います。数値が多い方が書き換えが高速で、目に優しい表示ですが、コンピュータによって、リフレッシュレートには上限があります。

リンク
ホームページから他のホームページにジャンプしたり、データにジャンプしたりすることです。

アルファベット順

BIOS
「バイオス」と読みます。基本入出力システムのことです。コンピュータの本体と、周辺機器（マウス、キーボード、プリンタ、ディスプレイなど）との間でのデータのやり取りを行います。コンピュータにとって最も基本的なプログラムの一つです。

CD-ROM
「シィーディーロム」と読みます。コンピュータで扱うソフトウェアやデジタルデータが記録された、読み取り専用のコンパクトディスクです。読み取り専用なので、自分で作った文書ファイルなどを保存することはできません。

CPU
「シーピーユー」と読みます。中央演算処理装置のことで、コンピュータの中枢部分のことです。入出力装置からデータを受け取り、演算し、記憶し、結果を出力します。コンピュータでは、CPUの機能を一つにまとめて、マイクロプロセッサとして使用されています。なお、CPUは同時に処理できるデータ数によって、8ビット、16ビット、32ビット、64ビットなどに分けられ、ビット数の大きいものほど一般には処理速度は速くなる傾向があります。

Eメール
→「電子メール」をご覧ください。

Eメールアドレス
→「電子メールアドレス」をご覧ください。

I/Oポート
「アイオーポート」と読みます。コンピュータにデータを入れたり（インプット）、出したり（アウトプット）するための接続部、または、コネクタ部の総称です。入力のための機器としてはキーボードやマウス、出力のための機器としてはディスプレイなどがあります。なお、フロッピーディスクドライブや、ハードディスクドライブは入出力のどちらも行える機器です。

i.LINK
「アイリンク」と読みます。次世代のI/Oの規格でIEEE1394-1995仕様およびその拡張仕様（通称IEEE1394）の本格的な普及を目指すためソニーが開発・提唱している呼称です。コンピュータ同士または、コンピュータとデジタルビデオカメラレコーダーなどを接続して、データを転送・編集したり、接続した機器をコンピュータからコントロールすることができます。

IRQ
「アイアールキュー」と読みます。ハードウェアからの割り込み信号のことです。キーボードやマウスなどの周辺機器から入力があると、それを受け付けるかどうか判断します。受け付けるときは、その優先度に応じて、CPUに割り込み命令を出して、実行中の処理を一時的に中断し、割り込みした処理を行います。

MIDI
「ミディ」と読みます。電子楽器間で情報をやりとりするために決められた通信規格のことです。MIDIに対応した電子機器をつなぐことで、本機からMIDI機器をコントロールして、自動演奏を楽しむことができます。

OS
「オペレーティングシステム」の略称で、「オーエス」と読みます。リソースなど、コンピュータ全体を管理し、コンピュータを操作するのに必要な基本ソフトウェアです。本機はOSとしてWindows 98を使っています。

SERIAL
→「シリアル」をご覧ください。

URL
「ユーアールエル」と読みます。インターネット上の情報（ホームページ）のアドレスのことです。本機に付属の「Internet Explorer」ソフトウェアなどのWebブラウザ上で「http://www.sony.co.jp/」と入力すると、ソニーのホームページにジャンプして見ることができます。ただし、1文字でも間違えると、閲覧したいホームページにジャンプできなかったり、何も表示されないことがあります。

USB
「ユーエスビー」と読みます。キーボードやマウスなどの比較的低速な周辺機器を接続するインターフェイス規格のことです。USB機器は電源が入ったままの状態で接続または取りはずしができます。また、USBはハブと呼ばれる接続器を仲介して、最大で127台までの周辺機器を接続することができます。

索引

五十音順

ア

カ

サ

その他

タ

ナ

ハ

マ

ヤ

ラ

アルファベット順

その他

この説明書は再生紙を使用しています。

著作権について

あなたが本機で録画・録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断では使用することはできません。
また、著作者の許可なく、取り込んだ映像・画像・音声に変更・切除その他の改変を加え、著作物の同一性を損なうことは禁じられています。
コピーガード信号の入った映像は録画することができません。

本機の内蔵モデムについて

本機の内蔵モデムは、諸外国で使用できる機能を有していますが、日本国内で使用する際は、他国のモードを使用すると電気通信事業法（技術標準）に違反する行為となります。工場出荷時の設定は「日本モード」となっておりますので、そのままご使用ください。

本機をお使いになる前に、必ずお買い上げのコンピュータに添付のソフトウェア使用許諾契約書をお読みください。

Sony online　http://www.world.sony.com/

「Sony online」は、インターネット上のソニーのエレクトロニクスとエンターテインメントのホームページです。

ソニー株式会社　〒141-0001　東京都品川区北品川6-7-35

使い方のご相談、技術的なお問い合わせは
VAIOカスタマーリンクへ
● 0466-30-3000

カスタマー登録、一般的なお問い合わせは
VAIOカスタマー専用デスクへ
● 03-3584-6651

VAIOホームページ
VAIOを楽しく使っていただくための情報をご案内します。
● http://www.vaio.sony.co.jp/

VAIOカスタマーリンク ホームページ
VAIOの最新サポート情報をご案内します。
● http://vcl.vaio.sony.co.jp/

お電話の前に、必ず付属の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。

Printed in Japan